

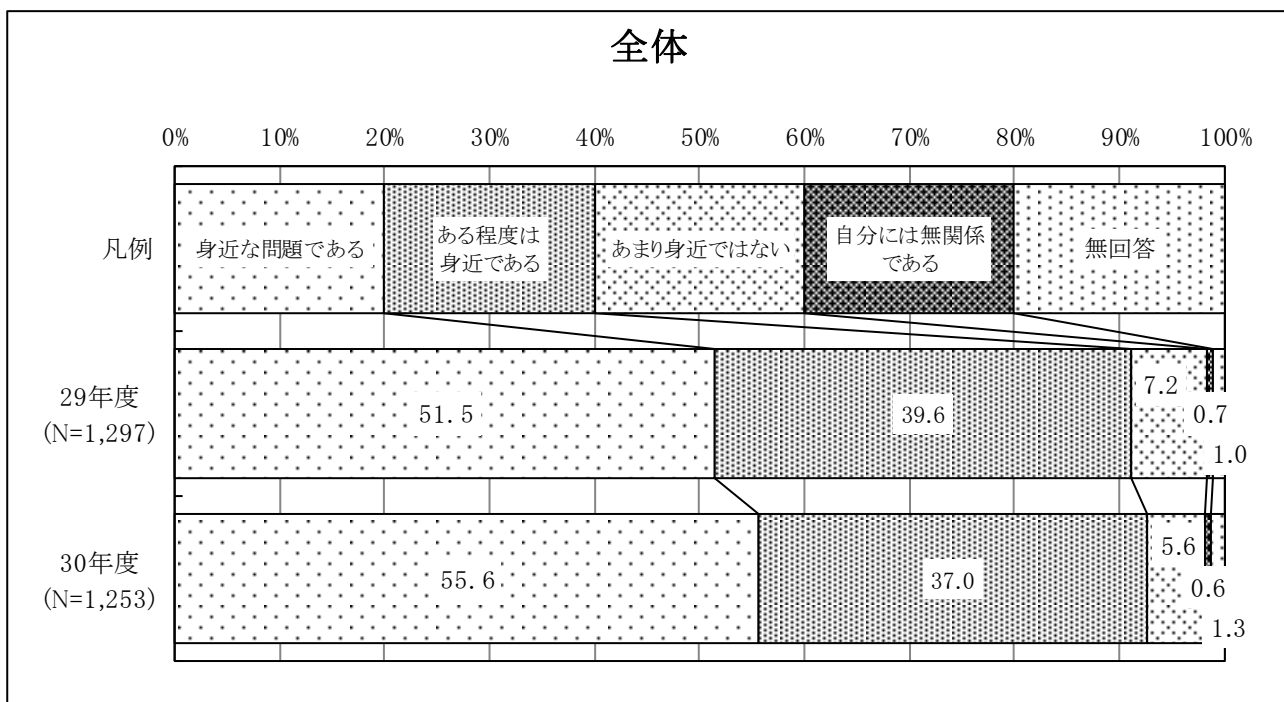
(別添 1)

平成 30 年度札幌市の温暖化対策推進に関する調査

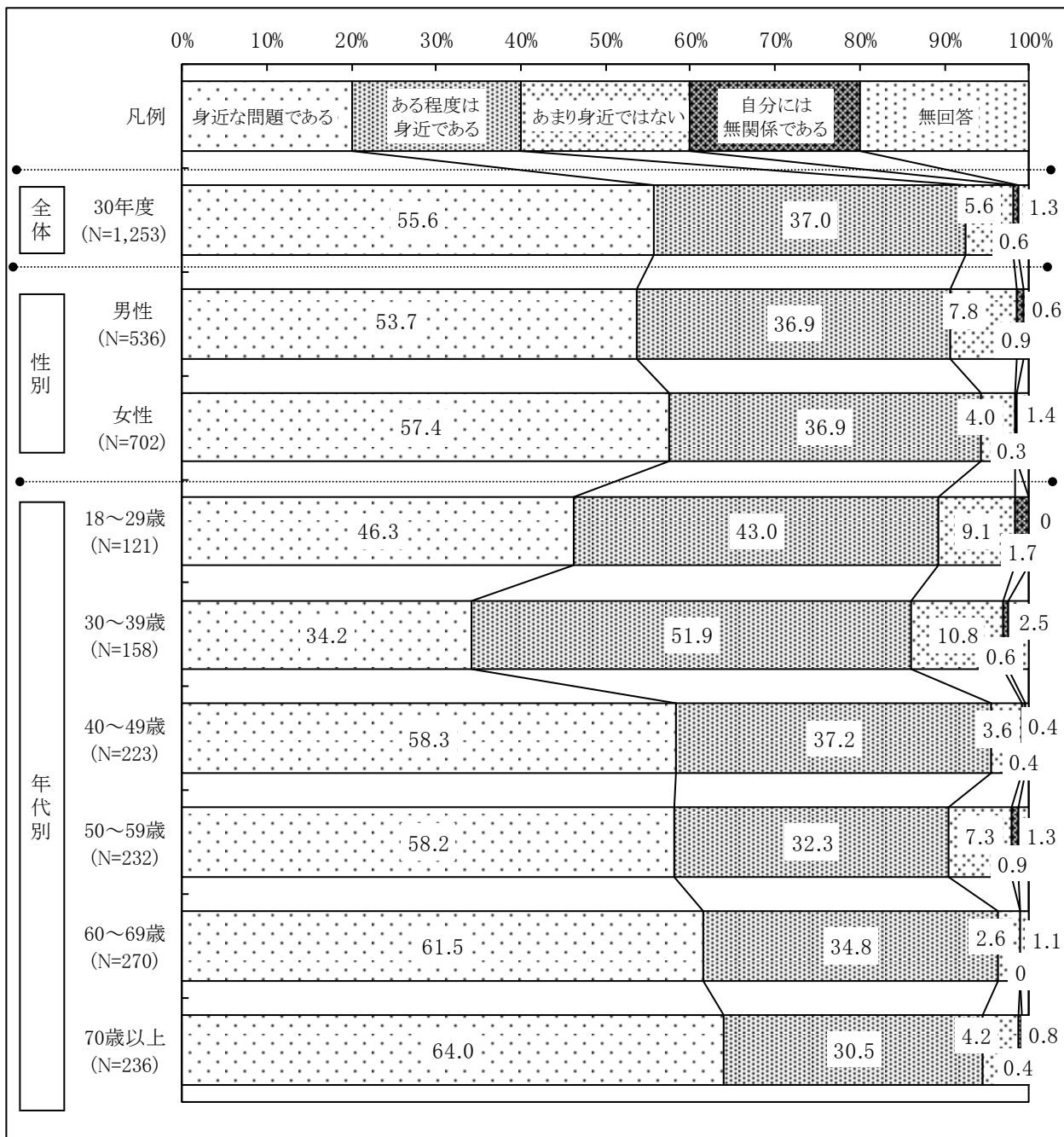
■温暖化への関心度

【問 1】 あなたは、地球温暖化を身近な問題だと思っ
ていますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

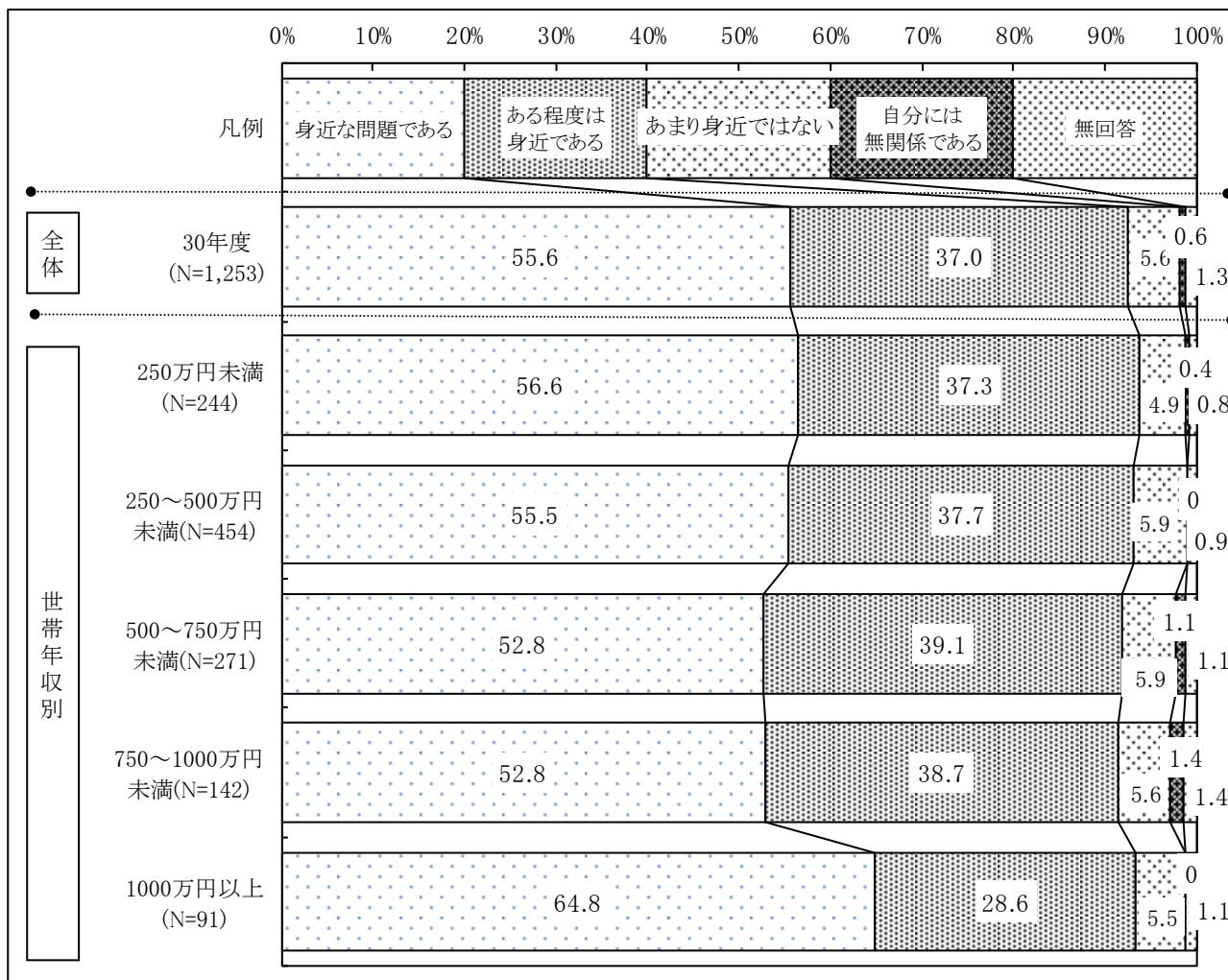
【全体】「身近な問題である」と「ある程度は身近である」を合わせて、92.6%の人が地球温暖化には身近な部分があると思っている。



【性別】男女で大きな差は見られない。
 【年代別】「身近な問題である」は、30代では34.2%と低い値になっているが、40代以上の世代で60%前後と高い傾向にある。



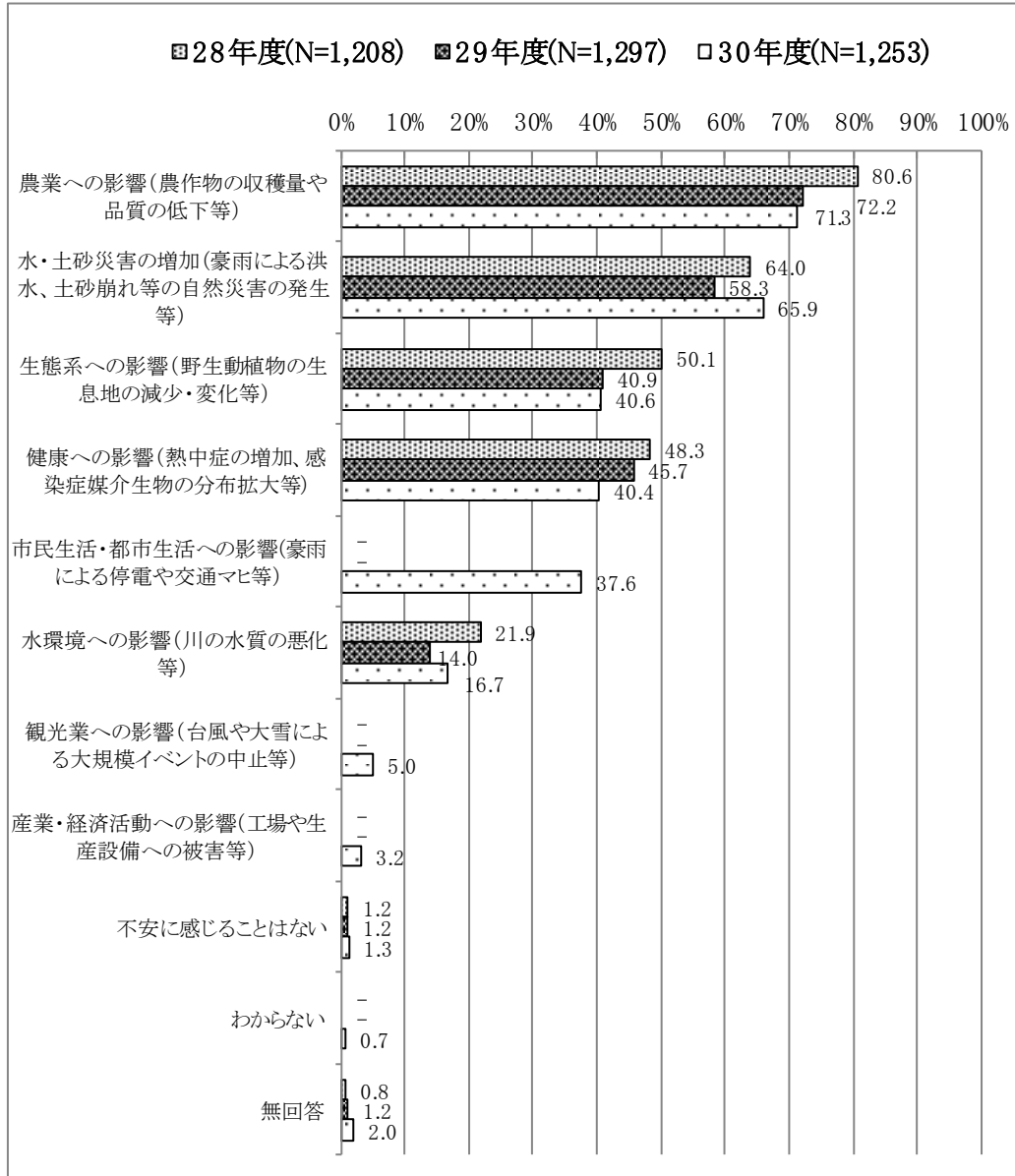
【世帯年収別】「身近な問題である」は、1,000万円以上が64.8%と最も高くなっているが、その他の世帯年収は50%台であり、あまり変わらない。



■気候変動について、どのような影響が問題か

【問 2】 地球温暖化による気候変動について、どのような影響を問題と感じますか。
あてはまるものに3つまで○をつけてください。

【全体】 71.3%の人が「農業への影響」が問題であると感じており、次いで「水・土砂災害の増加」が65.9%と高い値である。



※ 「市民生活・都市生活の影響」、「観光業への影響」、「産業・経済活動への影響」は30年度以降の設問のため、29年度以前との比較なし

【性別】「健康への影響」は男性の 34.9%に対し、44.9%の女性が問題であると感じている。
 【年代別】「水・土砂災害の増加」は、40代以上では65%以上と高い傾向にある。
 また、「生態系への影響」は70代以上では27.5%であるが、18～29歳および40代では50%以上と高い傾向にある。
 【世帯年収別】「観光業への影響」は、1,000万円以上が12.1%とやや高い値にある。

	サンプル数	農業への影響 (農作物の収穫量や品質の低下等)	水環境への影響 (川の水質の悪化等)	生態系への影響 (野生動物植物の生息地の減少・変化等)	水・土砂災害の増加 (豪雨による洪水、土砂崩れ等)	健康への影響 (熱中症の増加、感染症媒介生物の分布拡大等)	産業・経済活動への影響 (工場や生産設備への被害等)	市民生活・都市生活への影響 (豪雨による停電や交通マヒ等)	観光業への影響 (台風や大雪による大規模イベントの中止等)	不安に感じることはない	わからない	無回答
全体	1,253	71.3	16.7	40.6	65.9	40.4	3.2	37.6	5.0	1.3	0.7	2.0
《性別》												
男性	536	68.8	16.2	42.2	66.8	34.9	4.7	37.5	6.3	2.6	0.9	1.1
女性	702	73.5	16.8	39.9	65.7	44.9	2.1	37.9	4.1	0.3	0.6	2.3
《年代別》												
18～29歳	121	63.6	18.2	57.0	49.6	45.5	4.1	28.1	7.4	2.5	0.8	3.3
30～39歳	158	70.3	19.0	38.6	59.5	41.8	1.3	34.8	9.5	0.6	0.0	3.8
40～49歳	223	73.5	14.8	52.5	67.3	37.7	4.5	26.0	7.2	0.4	0.4	0.9
50～59歳	232	68.5	14.2	44.0	65.1	43.5	1.7	39.7	3.9	1.3	1.3	1.3
60～69歳	270	70.0	17.4	34.1	72.6	39.6	2.2	45.6	4.1	1.1	1.1	1.9
70歳以上	236	79.2	16.9	27.5	71.6	38.1	5.5	44.9	1.3	2.1	0.4	0.8
《世帯年収別》												
250万円未満	244	73.8	18.4	34.8	64.8	40.6	2.9	43.9	5.3	1.2	0.8	1.6
250～500万円未満	454	70.0	17.2	38.1	65.6	40.3	3.1	40.1	4.4	1.5	0.7	2.2
500～750万円未満	271	72.3	18.5	46.5	66.4	40.6	3.0	30.3	5.2	1.5	0.4	1.8
750～1000万円未満	142	67.6	13.4	47.9	69.0	43.0	4.2	30.3	3.5	1.4	1.4	1.4
1000万円以上	91	75.8	8.8	49.5	67.0	39.6	3.3	36.3	12.1	0.0	0.0	0.0

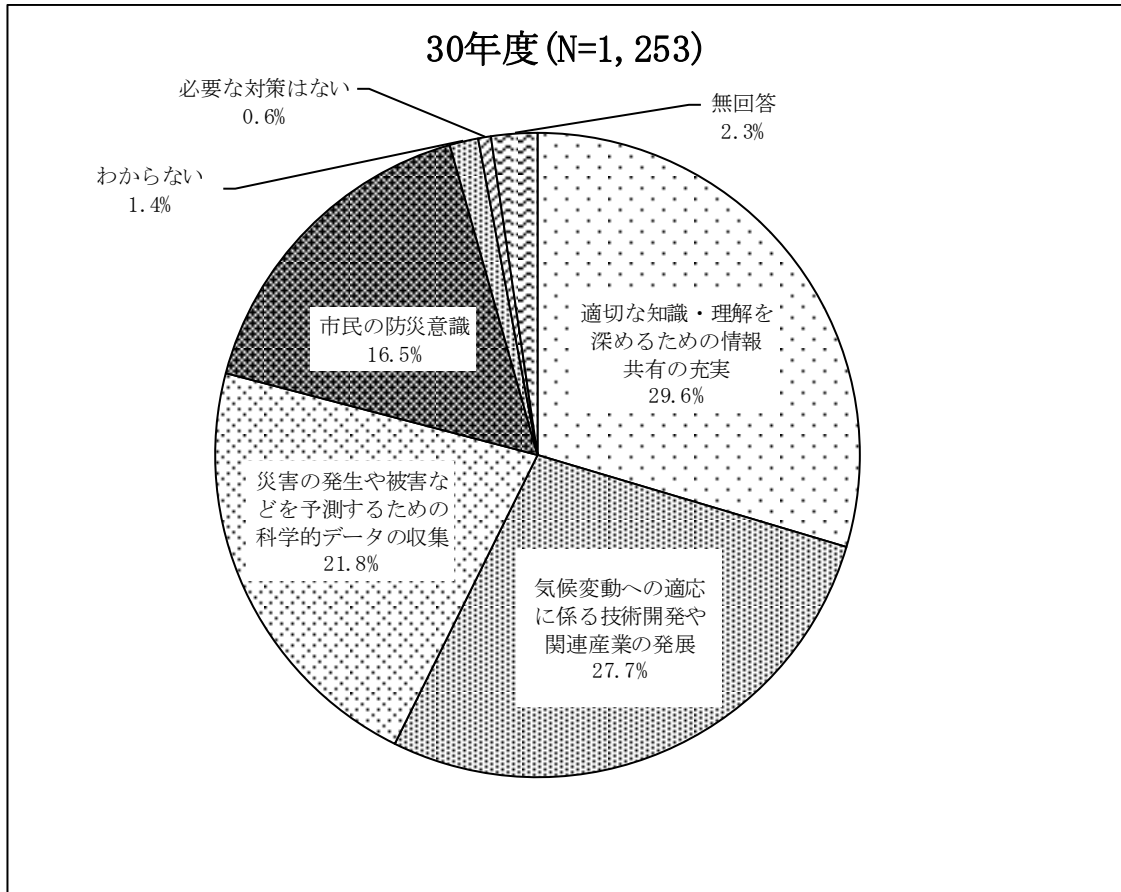
対象者全体と比較し 10%以上高い
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

■これから起こる気候変動に対応するために、必要な対策

【問 3】 これから起こりうる気候変動に適応していくために、最も必要な対策は何だと思いますか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】「適切な知識・理解を深めるための情報共有の充実」が29.6%と最も高く、「気候変動への適応に係る技術開発や関連産業の発展」が27.7%、「災害の発生や被害などを予測するための科学的データの収集」が21.8%、「市民の防災意識」が16.5%と分散している。



【性別】「市民の防災意識」は男性の12.5%に対し、19.8%の女性が必要であると感じている。
 【年代別】年代で大きな差は見られない。

	サンプル数	災害の発生や被害などの予測するための科学的データの収集	適切な共有知識の充実に理解を深めるため	気候変動への適応に係る技術開発や関連産業の発展	市民の防災意識	必要な対策はない	わからない	無回答
全体	1,253	21.8	29.6	27.7	16.5	0.6	1.4	2.3
《性別》								
男性	536	24.6	28.7	30.2	12.5	1.3	1.5	1.1
女性	702	19.5	30.6	25.8	19.8	0.1	1.4	2.7
《年代別》								
18～29歳	121	18.2	34.7	27.3	15.7	0.8	0.8	2.5
30～39歳	158	19.0	27.2	31.0	19.0	0.6	0.6	2.5
40～49歳	223	22.4	26.0	31.4	16.6	0.4	2.2	0.9
50～59歳	232	20.3	33.2	27.2	14.2	0.4	2.6	2.2
60～69歳	270	24.1	34.1	21.1	17.0	0.7	0.7	2.2
70歳以上	236	23.3	24.2	30.5	17.8	0.8	1.3	2.1

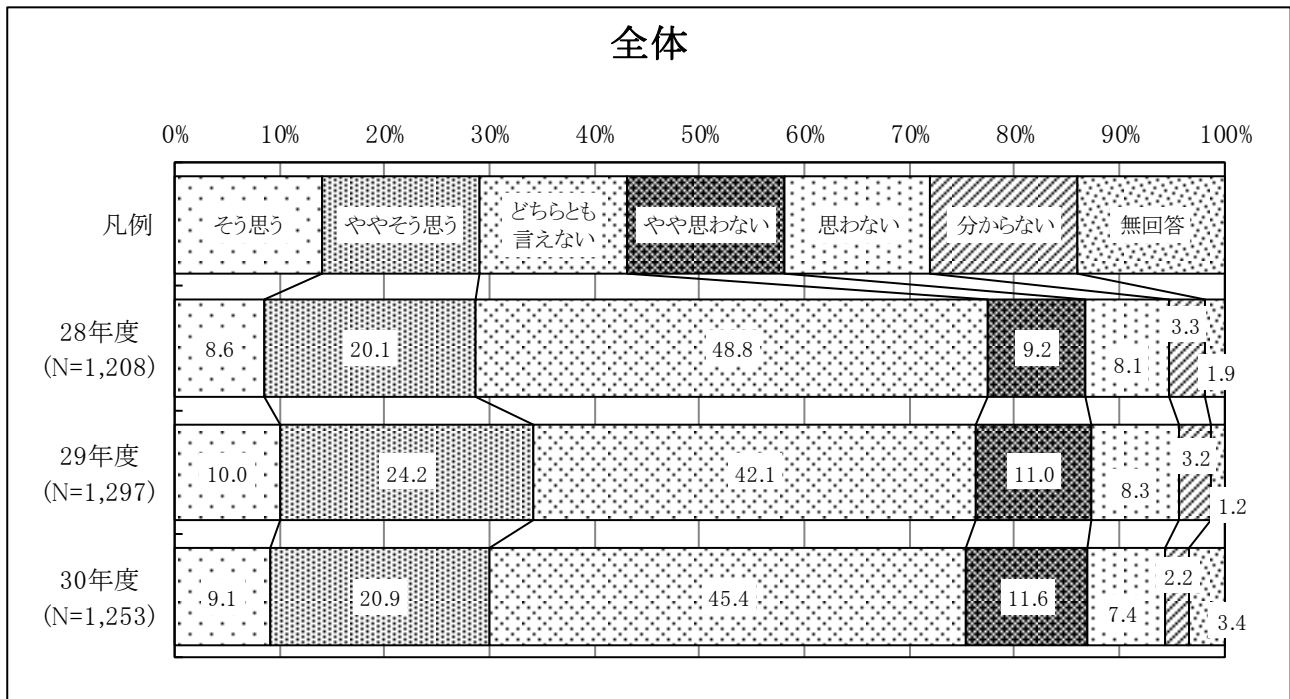
対象者全体と比較し10%以上高い
 対象者全体と比較し10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

■自身のライフスタイル

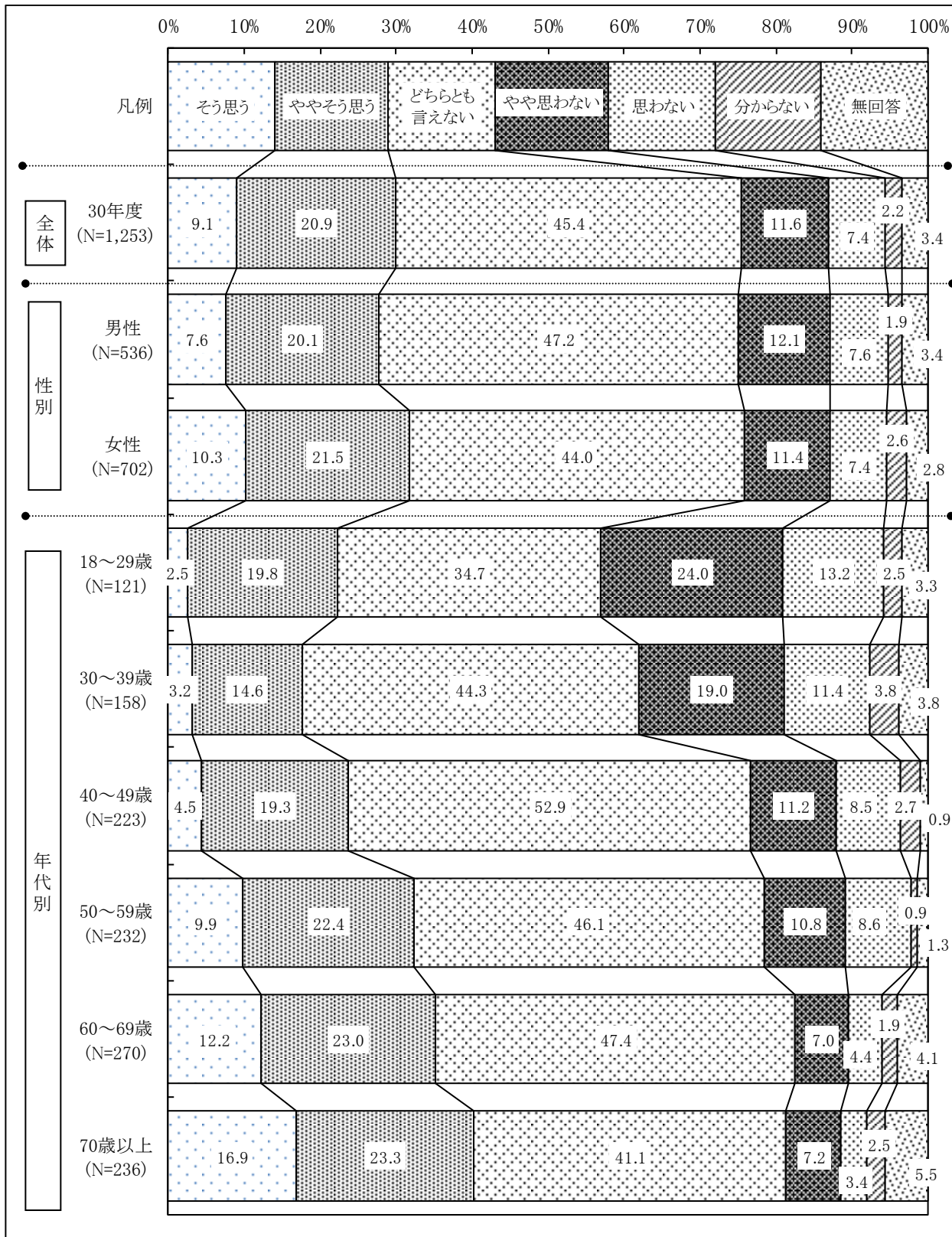
【問 4】 あなたのご家庭での生活はエコライフ（環境に優しい生活）だと思いますか。
最もあてはまるものの数字に1つだけ○をつけてください。

【全体】「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて、30%以上の人が家庭での生活はエコライフな部分があると思っている。

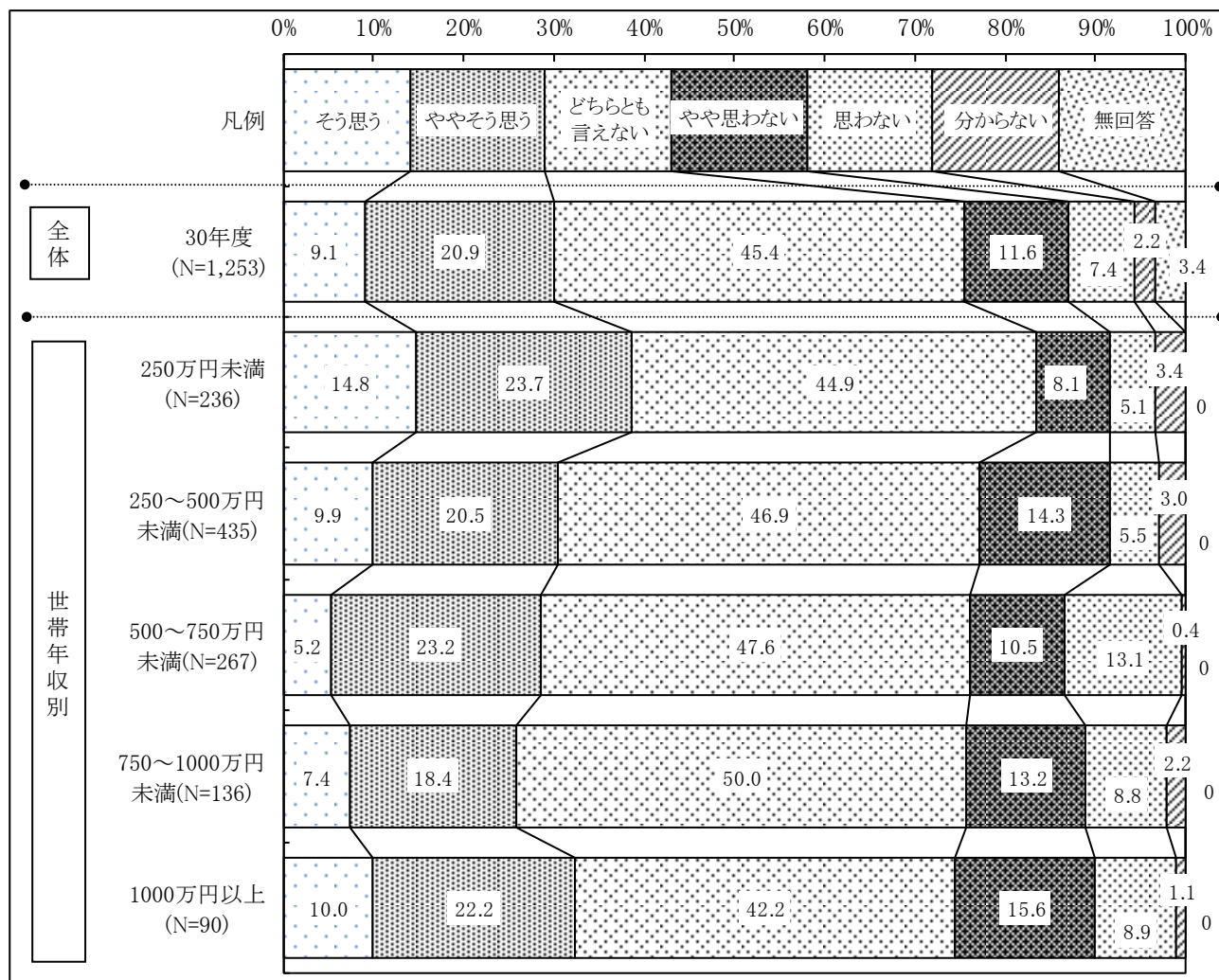


【性別】男女で大きな差は見られないが、やや女性のほうが家庭での生活はエコライフな部分があると思っている。

【年代別】70歳以上では「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて40.2%であり、年齢が上がるにつれて、家庭での生活はエコライフな部分があると思っている。



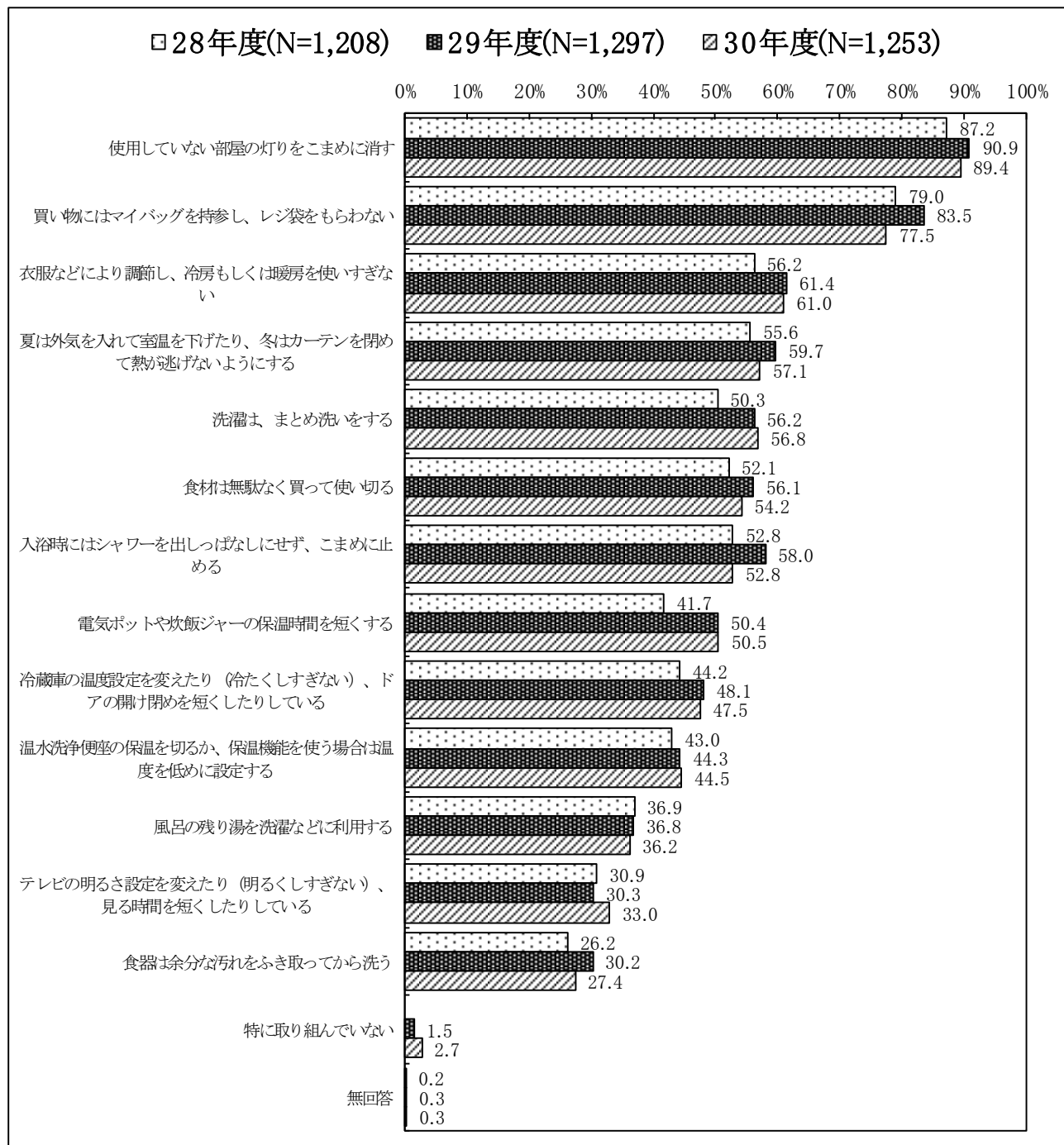
【世帯年収別】「やや思わない」と「思わない」を足した割合は、年収が高くなるにつれて高くなる傾向にある。



実践しているエコライフの取組

【問5】 あなたが、ご家庭で常実践しているエコライフ（環境に優しい生活）の取組はありますか。あてはまるものにくつでも○をつけてください。

【全体】 家庭で常実践しているエコライフの取組は、「使用していない部屋の灯りをこまめに消す」が89.4%、「買い物にはマイバックを持参し、レジ袋をもらわない」が77.5%であり、例年高い傾向にある。



※「特に取り組んでいない」は29年度以降の設問のため、28年度との比較なし

【性別】「風呂の残り湯を洗濯などに利用する」を除き、女性のほうが男性よりエコライフの取組を常に行っている。

【年代別】年代が上がるにつれて、エコライフの取組を常に行っている傾向にある。

【出身地別】「夏は外気を入れて室温を下げたり、冬はカーテンを閉めて熱が逃げないようにする」は北海道以外が63.4%であり、北海道（札幌を除く）の55.4%より8.0%高くなっている。

【世帯年収別】世帯年収が下がるにつれて、エコライフの取組を常に行っている傾向にある。

	サンプル数	使用していない部屋の灯りをこまめに消す	テレビの明るさを設定を短くしたり（明るくしすぎない）	冷蔵庫の温度設定を変えたり（冷たくしすぎない）	冷庫の温度設定を短くしたり（冷たくしすぎない）	ドアの開け閉めを短くしたり（冷たくしすぎない）	衣類などにより調節し、冷房もしくは暖房を使用しない	夏は外気を入れて室温を下げたり、冬はカーテンを閉めて熱が逃げないようにする	温水洗浄便座の保温を切るか、保温機能を使う場合は温度を低めに設定する	電気ポットや炊飯ジャーの保温時間を短くする	食器は余分な汚れをふき取ってから洗う	洗濯は、まとめ洗いをする	風呂の残り湯を洗濯などに利用する	入浴時にはシャワーを出しっぱなしにせず、こまめに止める	買い物にはマイバッグを持参し、レジ袋をもらわない	食材は無駄なく買って使い切る	特に取り組んでいない	無回答
全体	1,253	89.4	33.0	47.5	61.0	57.1	44.5	50.5	27.4	56.8	36.2	52.8	77.5	54.2	2.7	0.3		
《性別》																		
男性	536	87.5	30.4	41.0	59.7	56.0	39.2	39.2	21.1	51.5	37.3	50.0	71.8	50.4	4.5	0.0		
女性	702	91.2	35.3	52.1	62.4	58.3	49.0	59.4	32.2	61.5	35.5	55.1	82.1	57.8	1.4	0.1		
《年代別》																		
18～29歳	121	81.0	18.2	25.6	53.7	46.3	24.8	40.5	14.0	57.0	28.1	33.9	68.6	41.3	4.1	0.0		
30～39歳	158	87.3	26.6	40.5	48.7	54.4	40.5	48.7	17.1	53.8	36.7	38.0	69.6	50.6	3.2	0.0		
40～49歳	223	85.7	33.2	43.5	58.7	56.1	40.8	53.8	22.9	57.8	29.6	47.1	70.9	52.9	2.2	0.0		
50～59歳	232	93.1	36.6	46.1	59.9	60.8	53.4	59.1	29.7	53.4	37.5	61.6	81.5	55.6	3.0	0.0		
60～69歳	270	93.7	38.5	58.1	64.8	55.2	49.6	50.0	35.2	61.5	41.5	63.7	83.3	57.4	2.2	0.0		
70歳以上	236	90.7	35.6	55.1	72.5	64.4	47.0	46.2	34.3	57.6	39.0	56.8	83.9	61.0	2.5	0.4		
《出身地別》																		
札幌	475	91.2	30.5	42.5	58.5	57.5	40.4	47.4	25.1	57.5	34.3	48.0	76.0	51.8	2.3	0.0		
北海道（札幌を除く）	607	88.8	34.6	50.7	63.1	55.4	46.3	52.4	28.7	57.5	37.1	56.7	78.6	56.0	3.1	0.2		
北海道以外	153	87.6	35.3	48.4	62.1	63.4	51.6	53.6	30.1	54.9	39.2	51.6	79.1	57.5	2.6	0.0		
《世帯年収別》																		
250万円未満	244	88.1	37.3	51.2	66.4	57.4	46.3	50.4	31.1	62.7	35.7	59.4	77.5	61.1	2.0	0.4		
250～500万円未満	454	89.0	34.1	48.5	65.0	63.0	45.2	50.0	29.7	57.5	37.0	52.2	78.2	54.2	1.8	0.0		
500～750万円未満	271	90.0	26.9	43.2	55.4	52.4	42.8	51.7	21.4	54.6	35.4	48.0	76.4	52.4	3.0	0.0		
750～1000万円未満	142	91.5	36.6	46.5	58.5	53.5	52.1	53.5	22.5	54.9	33.8	52.1	81.7	52.8	3.5	0.0		
1000万円以上	91	91.2	30.8	47.3	50.5	42.9	31.9	49.5	28.6	47.3	34.1	50.5	76.9	47.3	6.6	0.0		

対象者全体と比較し10%以上高い
対象者全体と比較し10%以上低い

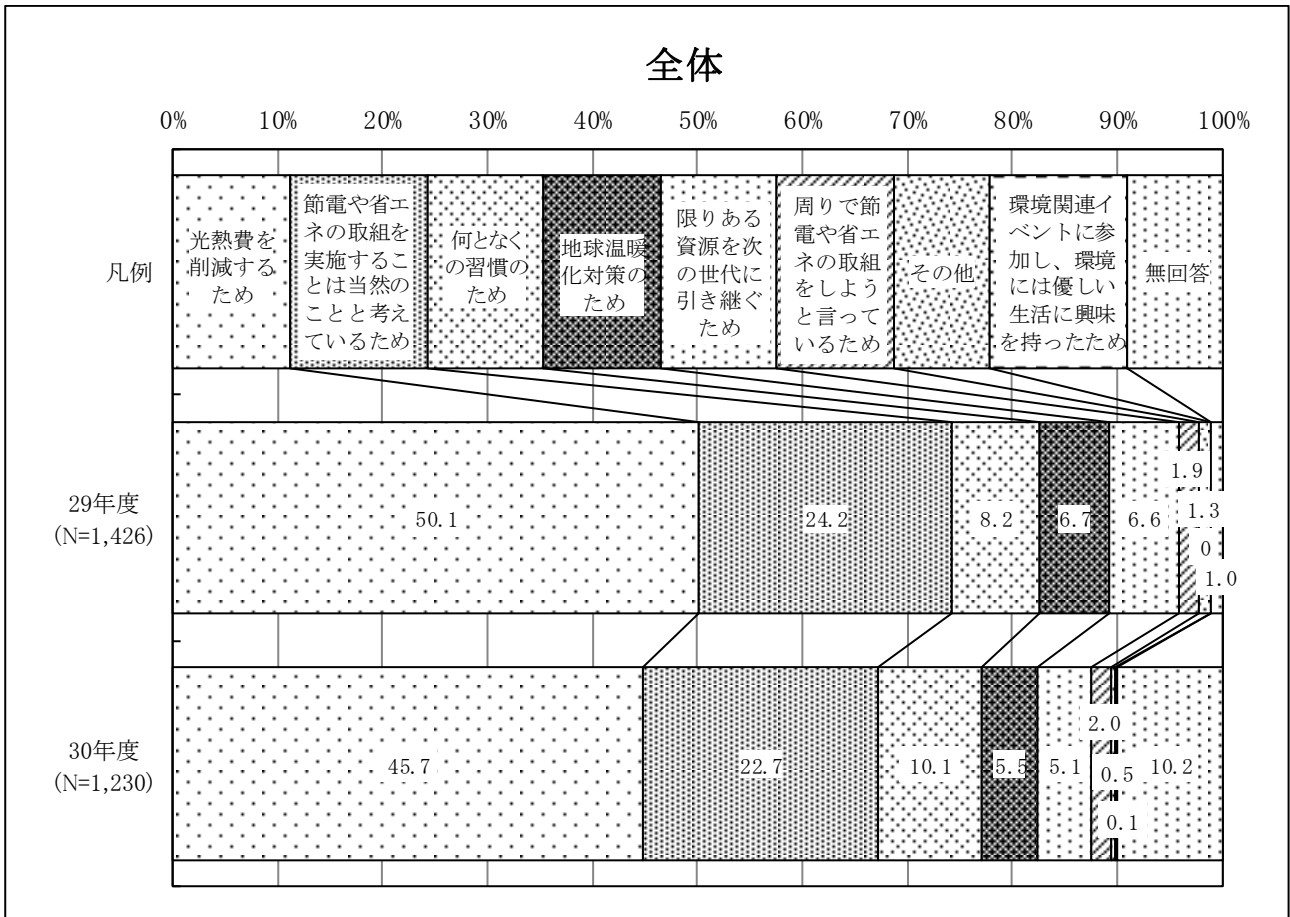
単位 %（サンプル数を除く）

■エコライフに取り組んでいる理由

《問5で選択肢1-4以外に1つ以上○をつけた方にお聞きします》

【問6-1】 あなたが、ご家庭でエコライフ（環境に優しい生活）に取り組む理由は何ですか。最も当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 エコライフに取り組む理由は、「光熱費を削減するため」が45.7%、「節電や省エネの取組を実施することは当然のことと考えているため」が22.7%である。



※「環境関連イベントに参加し、環境には優しい生活に興味を持ったため」は30年度以降の設問のため、29年度との比較なし

【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「光熱費を削減するため」は40歳代以下では60%前後と高く、最も高い30歳代の63.2%に対して最も低い70歳以上では28.4%と、34.8%の差がついている。

また、「節電や省エネの取組を実施することは当然のことと考えているため」は70歳以上で34.5%と最も高く、最も低い10歳代の6.9%とは27.6%の差がついている。

	サンプル数	光熱費を削減するため	地球温暖化対策のため	限りある資源を次の世代に引き継ぐため	周りや節電や省エネの取組をしようと言っているため	節電や省エネの取組を実施することは当然のことと考えているため	環境関連イベントに参加し、環境に優しい生活に興味を持ったため	何となくの習慣のため	その他	無回答
全体	1,230	45.7	5.5	5.1	2.0	22.7	0.1	10.1	0.5	10.2
《性別》										
男性	519	43.9	6.9	4.2	1.5	24.1	0.0	9.4	0.8	12.3
女性	696	47.6	4.3	5.7	2.3	21.7	0.1	10.6	0.3	8.2
《年代別》										
18～29歳	116	56.0	5.2	1.7	2.6	6.9	0.0	22.4	0.0	9.5
30～39歳	155	63.2	2.6	1.9	0.0	12.3	0.0	11.0	0.0	11.0
40～49歳	220	58.6	2.7	3.2	1.8	17.7	0.5	5.5	0.5	10.9
50～59歳	227	41.4	4.4	6.2	2.6	22.9	0.0	11.5	0.4	12.8
60～69歳	267	40.1	8.2	6.0	1.9	29.2	0.0	6.7	1.1	7.9
70歳以上	232	28.4	8.2	8.6	2.6	34.5	0.0	10.3	0.4	8.6

対象者全体と比較し 10%以上高い
 対象者全体と比較し 10%以上低い

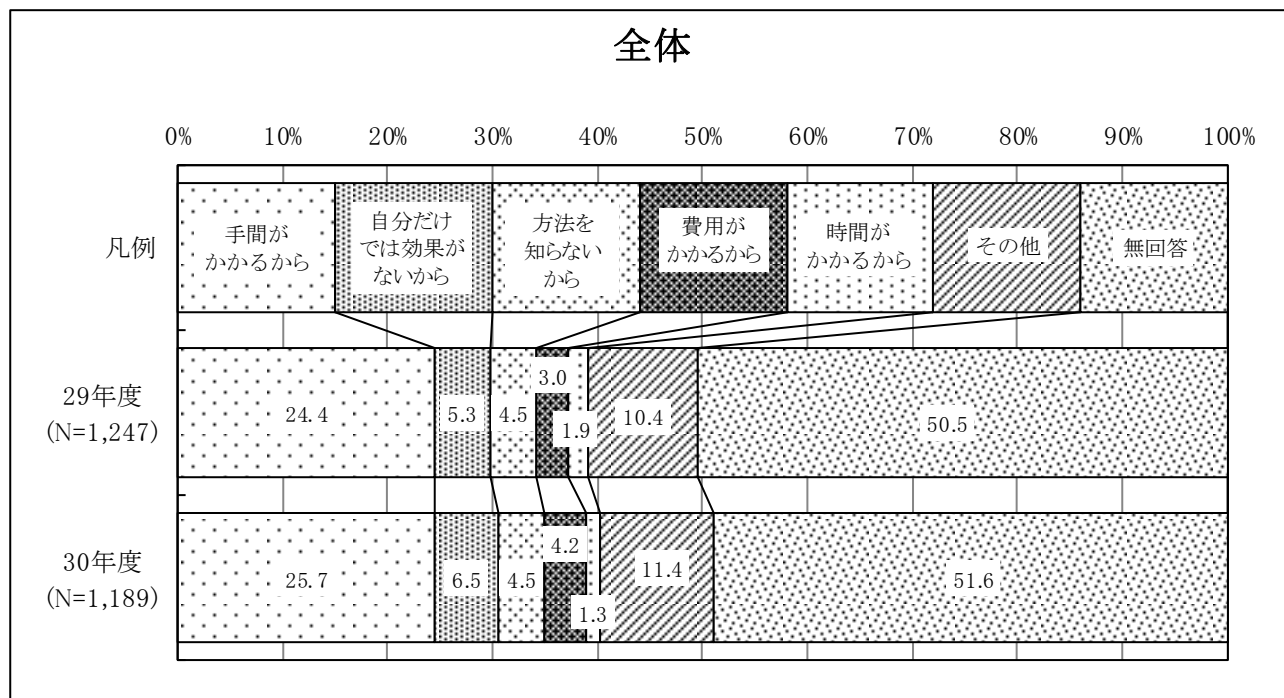
単位 % (サンプル数を除く)

■エコライフに取り組まない理由

《問5で選択肢1から13の取組について、○をつけなかった取組が1つでもある方にお聞きします》

【問6-2】 あなたが、ご家庭でエコライフ（環境に優しい生活）に取り組まない理由は何ですか。最も当てはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】エコライフに取り組まない理由は、「手間がかかるから」が25.7%と最も高く、全般的に前年度と同様の傾向にある。



【性別】「手間がかかるから」は男性が29.2%であり、女性の23.5%より5.7%高くなっている。

【年代別】「手間がかかるから」は40歳代が34.3%と最も高く、最も低い70歳以上の18.0%とは16.3%差となっている。

また、「費用がかかるから」は70歳以上が9.9%と最も高く、最も低い30歳代の1.3%とは8.6%差となっている。

【世帯年収別】「手間がかかるから」は750～1000万円未満が35.9%と最も高く、最も低い250万円未満の19.1%とは16.8%差となっている。

	サンプル数	費用がかかるから	時間がかかるから	手間がかかるから	方法を知らないから	自分だけがでないから	その他	無回答
全体	1,189	4.2	1.3	25.7	4.5	6.5	11.4	51.6
《性別》								
男性	511	3.7	1.4	29.2	5.3	7.0	10.4	47.9
女性	663	4.2	1.4	23.5	4.1	6.0	12.5	54.1
《年代別》								
18～29歳	121	1.7	1.7	33.9	6.6	5.8	5.8	44.6
30～39歳	155	1.3	2.6	32.3	3.2	5.8	9.7	47.1
40～49歳	216	1.4	2.3	34.3	4.2	5.6	11.6	44.0
50～59歳	214	1.9	0.5	25.2	3.3	8.4	14.5	54.7
60～69歳	248	6.0	0.8	18.5	6.5	6.0	12.5	58.5
70歳以上	222	9.9	0.9	18.0	4.1	6.8	12.2	54.5
《世帯年収別》								
250万円未満	230	6.1	0.4	19.1	6.5	7.4	8.7	57.8
250～500万円未満	430	4.4	1.9	22.3	3.0	6.0	12.8	55.1
500～750万円未満	261	1.5	0.8	33.3	5.7	6.5	13.4	42.5
750～1000万円未満	131	4.6	2.3	35.9	3.8	7.6	6.9	47.3
1000万円以上	88	1.1	2.3	31.8	5.7	3.4	14.8	44.3

対象者全体と比較し10%以上高い
対象者全体と比較し10%以上低い

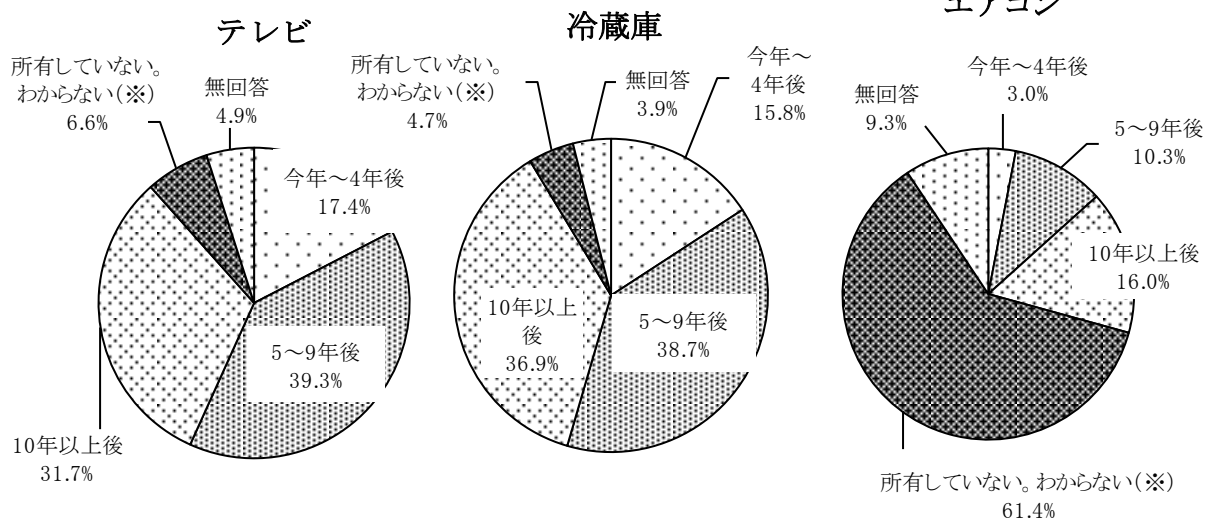
単位 % (サンプル数を除く)

■家電製品の今後の購入時期

【問 7】 あなたのご家庭にある家電製品は今後、どれくらいの期間で買替えたいと思いますか。下表のアからウまでの各項目について、それぞれあてはまるものの数字に1つだけ○をつけてください。

【全体】 テレビおよび冷蔵庫は、50%以上が10年以内を買替えたいと思っている。
 エアコンは、61.4%が「所有していない。わからない」と回答している。

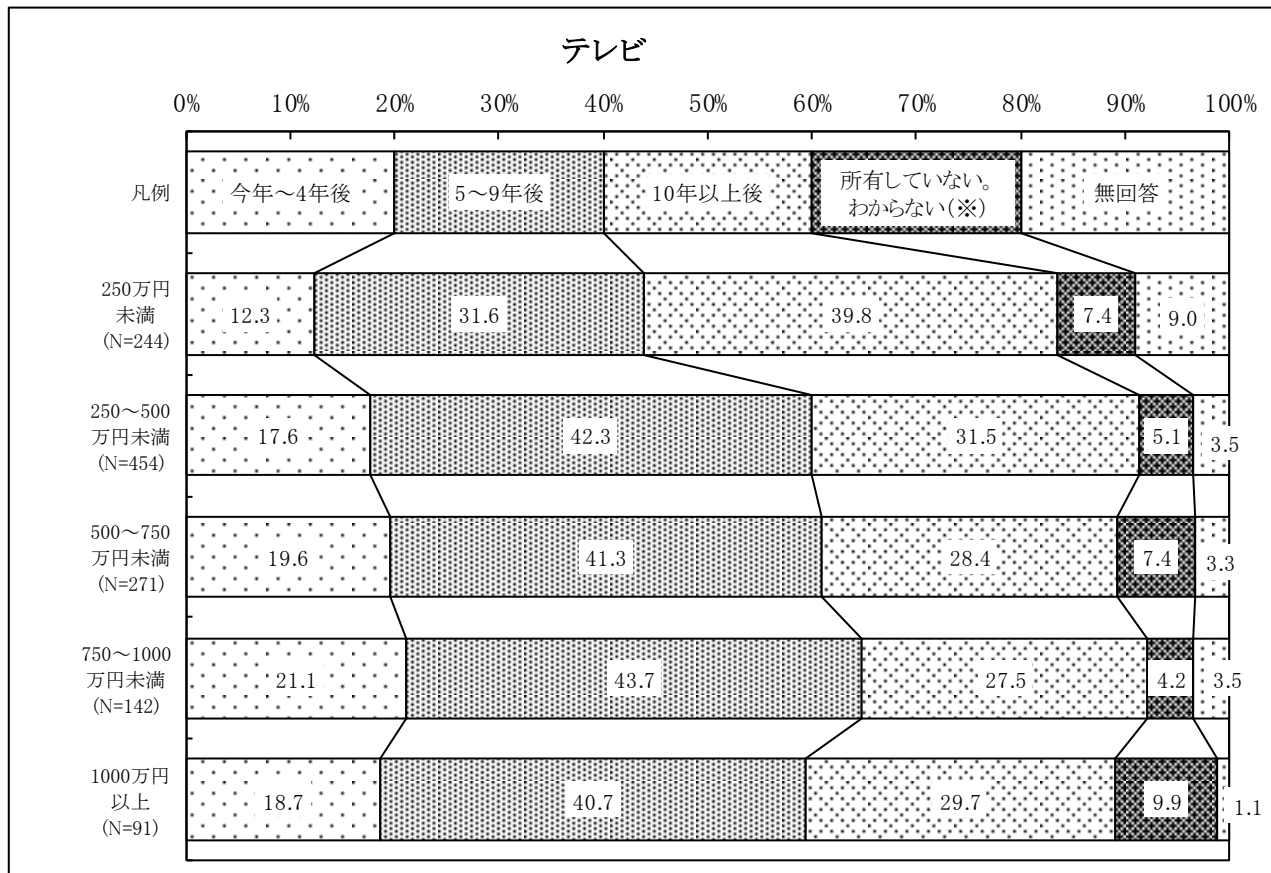
家電製品の今後の購入時期
 30年度(N=1,253)



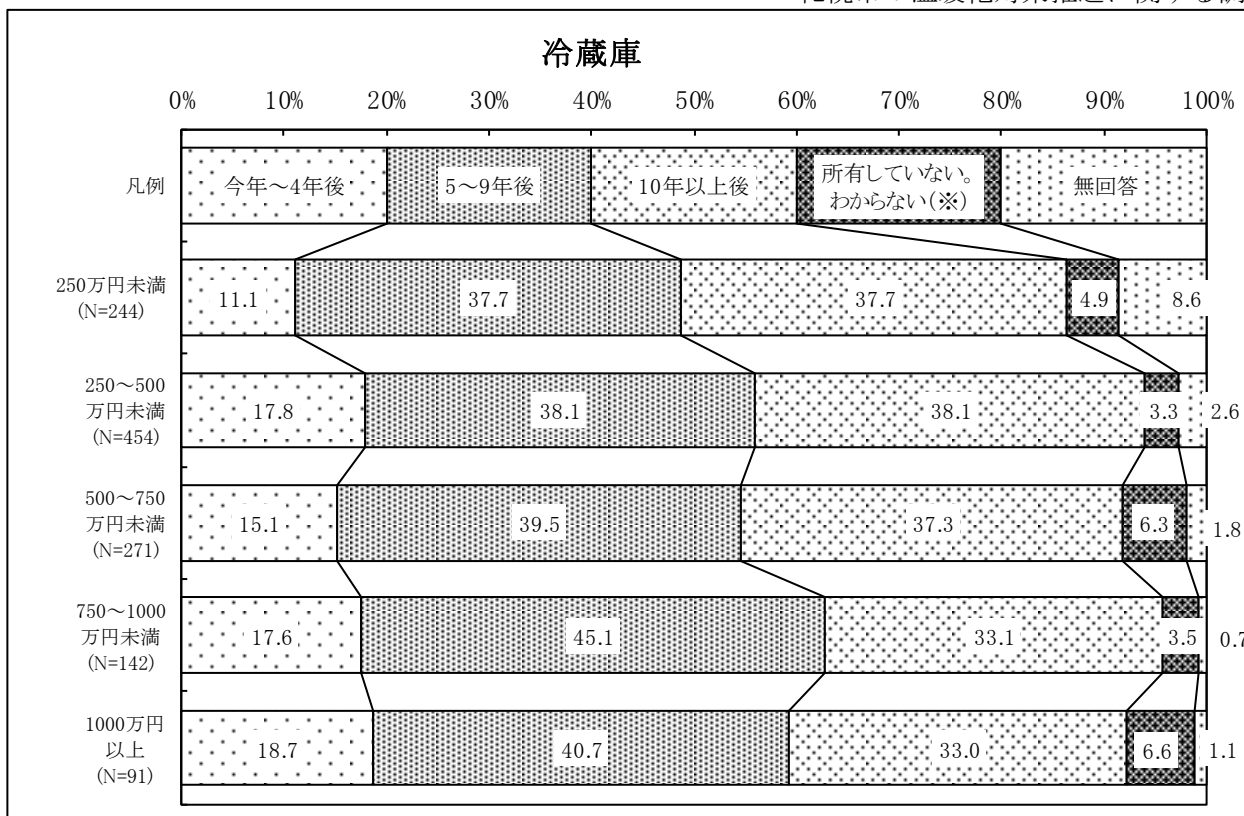
※「わからない」には、所有していない、または最初から付いていたなどの理由で購入時期がわからないを含む。

【世帯年収別】テレビと冷蔵庫については、世帯年収 250 万円以上では、購入時期に大きな差は見られない。
 エアコンについては、世帯年収が上がるにつれて新しいエアコンを使用する傾向にある。

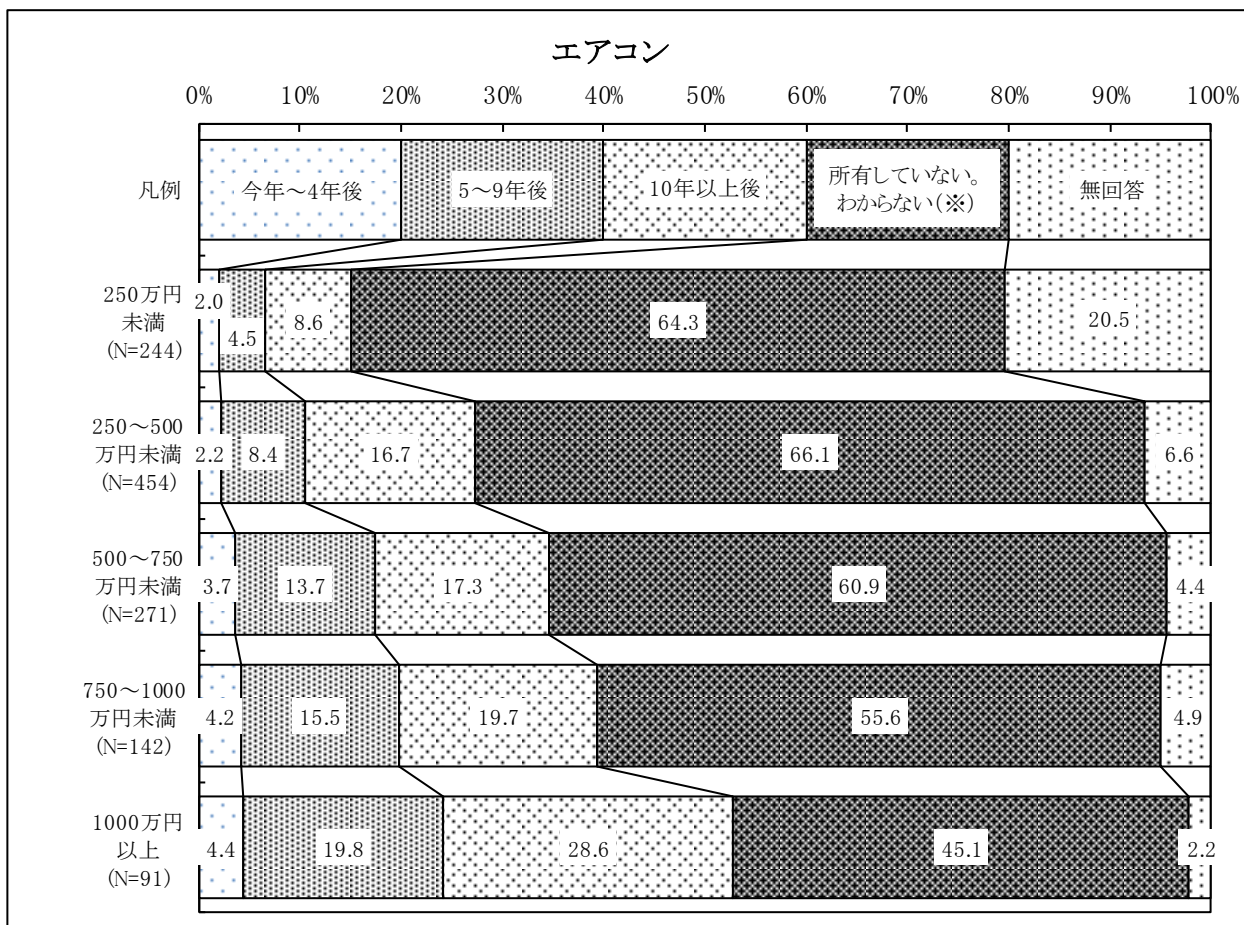
世帯年収別



※「わからない」には、所有していない、または最初から付いていたなどの理由で購入時期がわからないを含む。



※「わからない」には、所有していない、または最初から付いていたなどの理由で購入時期がわからないを含む。

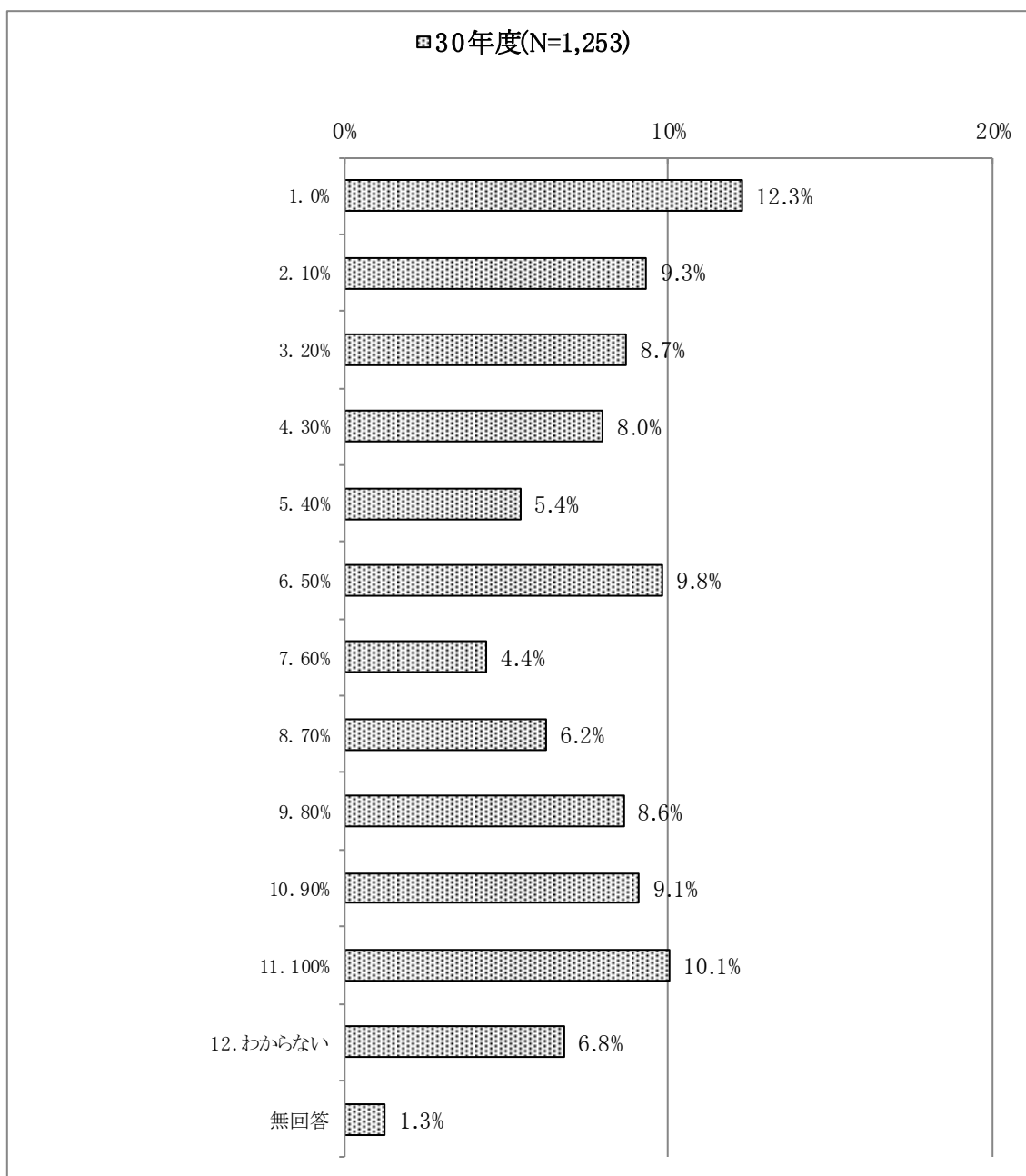


※「わからない」には、所有していない、または最初から付いていたなどの理由で購入時期がわからないを含む。

■LED 照明の普及状況

【問 8】 あなたのご家庭の居室や台所、トイレ、お風呂場などの照明は、どの程度 LED 化されていますか。最も近いものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 家庭における LED 照明の普及状況は、「100%」が 10.1%である。
 また、大半の家庭が少なからず LED を導入していると言える。



【住居形態別】「100%」は戸建(持家)が12.2%と最も高く、最も低い集合(賃貸)の7.0%とは5.2%差となっている。

【建築時期別】「全てがLED」は2016年以降が49.3%、2011～2015年度が18.5%であり、新しい家ではLEDが導入される傾向にある。

【世帯年収別】世帯年収が高いほうが、ややLED化が進んでいる傾向にある。

	サンプル数	1 0 %	2 0 %	3 0 %	4 0 %	5 0 %	6 0 %	7 0 %	8 0 %	9 0 %	1 0 %	1 1 0 %	1 2 0 %	無 回 答
全体	1,253	12.3	9.3	8.7	8.0	5.4	9.8	4.4	6.2	8.6	9.1	10.1	6.8	1.3
《住居形態》														
戸建(持家)	551	9.8	10.2	8.3	7.3	7.1	9.4	4.2	6.2	8.9	10.9	12.2	4.2	1.5
戸建(賃貸)	43	14.0	9.3	4.7	14.0	2.3	18.6	2.3	2.3	14.0	2.3	7.0	9.3	0.0
集合(持家)	270	7.0	8.5	9.6	8.9	3.0	11.5	4.8	7.4	10.7	12.2	11.9	3.7	0.7
集合(賃貸)	359	20.1	9.2	8.9	7.8	5.3	7.5	4.5	6.1	6.1	5.0	6.4	12.5	0.6
《建築年代》														
1970(昭和45)年以前	52	5.8	19.2	5.8	9.6	7.7	9.6	3.8	5.8	11.5	7.7	9.6	3.8	0.0
1971～1980(昭和46～55)年	122	6.6	12.3	12.3	6.6	7.4	13.1	1.6	5.7	7.4	13.1	7.4	4.9	1.6
1981～1990(昭和56～平成2)年	282	12.1	10.3	8.9	9.9	5.0	12.4	6.7	6.7	9.6	8.9	7.1	1.8	0.7
1991～1995(平成3～7)年	138	13.0	12.3	10.9	8.7	5.1	8.0	6.5	7.2	9.4	5.8	9.4	2.9	0.7
1996～2000(平成8～12)年	132	12.1	12.1	9.8	12.1	6.8	7.6	3.8	6.1	6.8	9.8	5.3	6.8	0.8
2001～2005(平成13～17)年	118	11.9	7.6	11.9	7.6	5.1	12.7	4.2	5.1	9.3	7.6	9.3	5.9	1.7
2006～2010(平成18～22)年	106	16.0	6.6	9.4	8.5	7.5	9.4	4.7	6.6	9.4	10.4	5.7	4.7	0.9
2011～2015(平成23～27)年	92	8.7	7.6	5.4	3.3	2.2	8.7	3.3	5.4	5.4	16.3	18.5	14.1	1.1
2016(平成28)年以降	73	8.2	0.0	0.0	1.4	4.1	5.5	0.0	6.8	4.1	9.6	49.3	11.0	0.0
《世帯年収》														
250万円未満	244	15.6	9.0	8.6	7.4	5.7	9.0	4.1	6.6	11.9	6.1	5.3	8.6	2.0
250～500万円未満	454	11.7	11.9	8.6	7.5	7.0	9.7	5.7	4.4	8.1	8.8	9.0	6.8	0.7
500～750万円未満	271	13.3	10.0	8.9	7.4	3.7	9.2	2.6	7.7	7.0	10.0	14.8	5.2	0.4
750～1000万円未満	142	7.7	4.2	9.2	10.6	4.9	11.3	2.8	6.3	9.9	14.8	14.1	3.5	0.7
1000万円以上	91	12.1	6.6	7.7	9.9	3.3	11.0	4.4	7.7	7.7	8.8	12.1	8.8	0.0

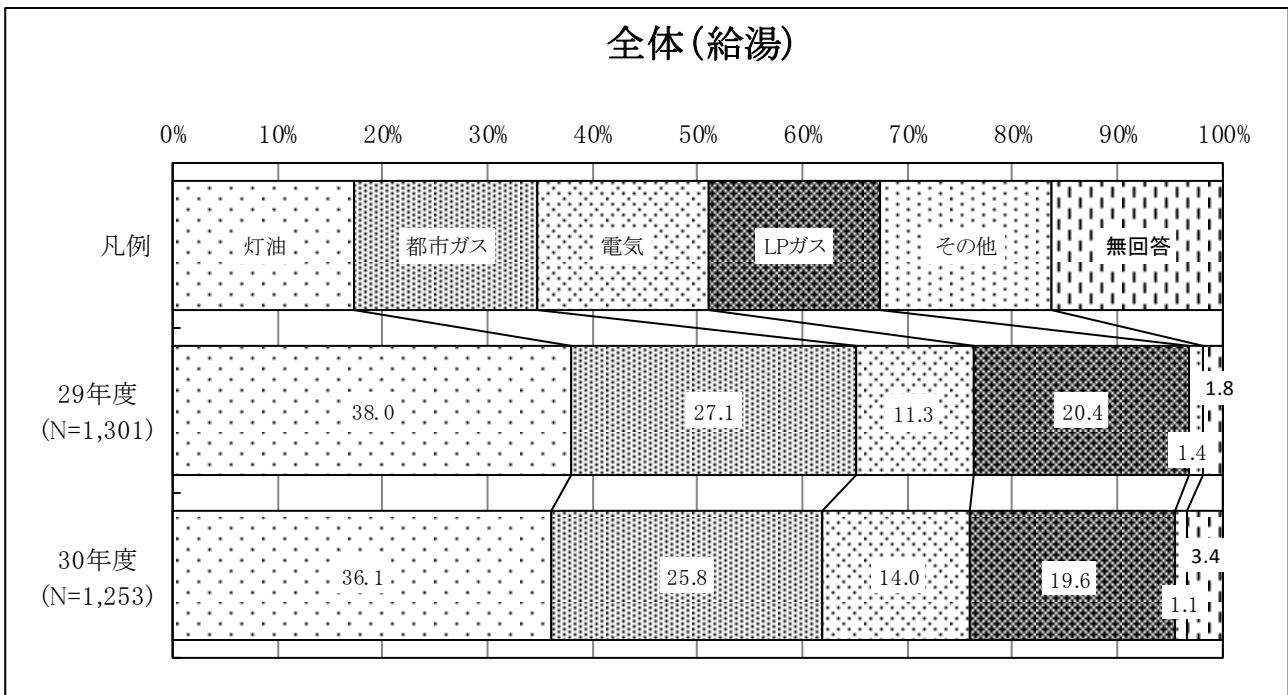
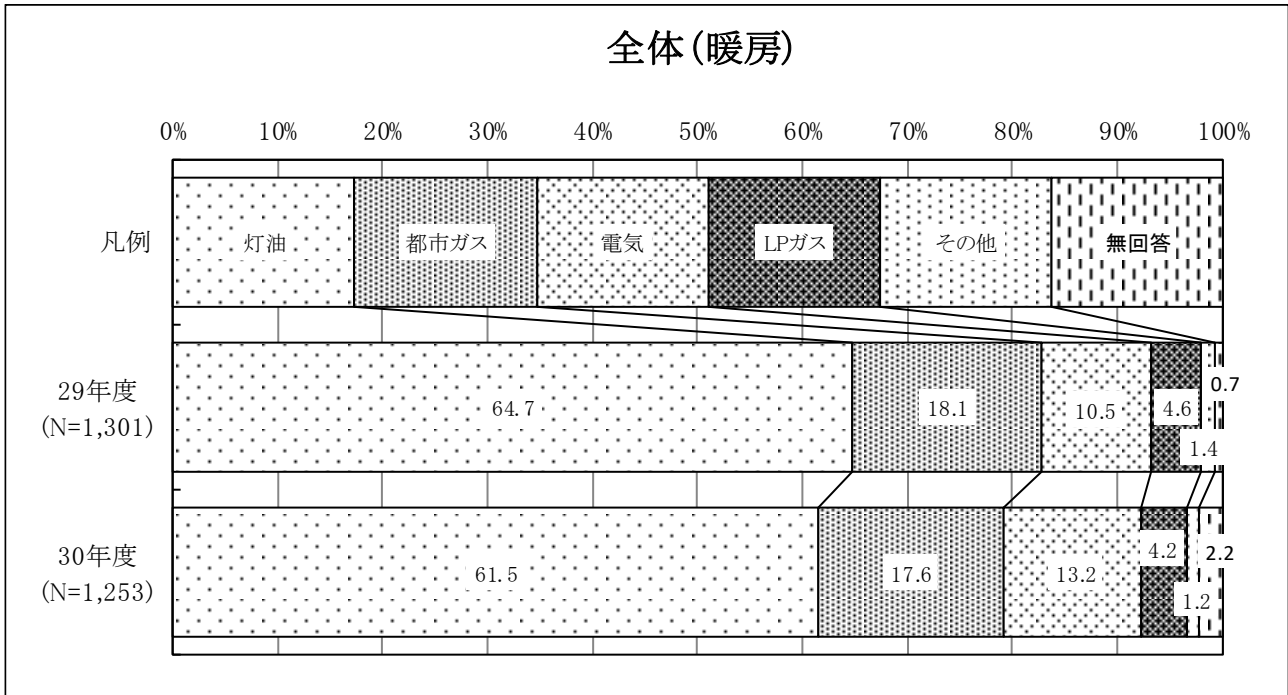
対象者全体と比較し 10%以上高い
対象者全体と比較し 10%以上低い

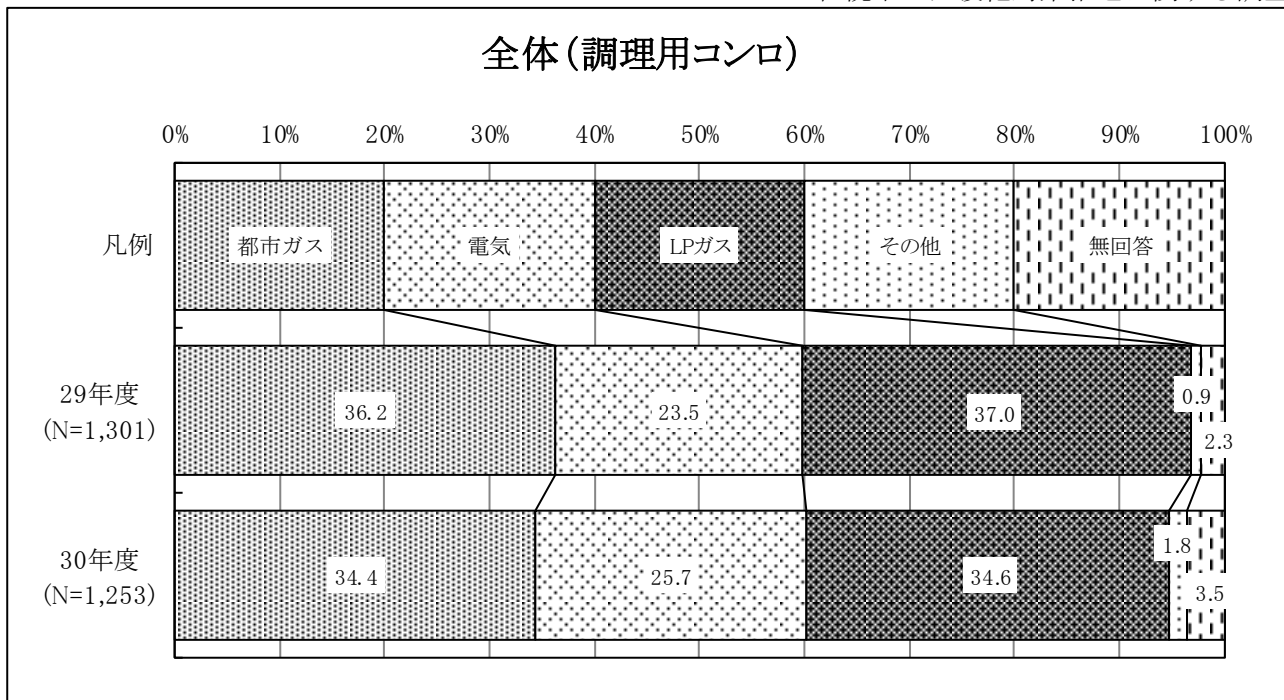
単位 % (サンプル数を除く)

■家庭で使用しているエネルギー・燃料

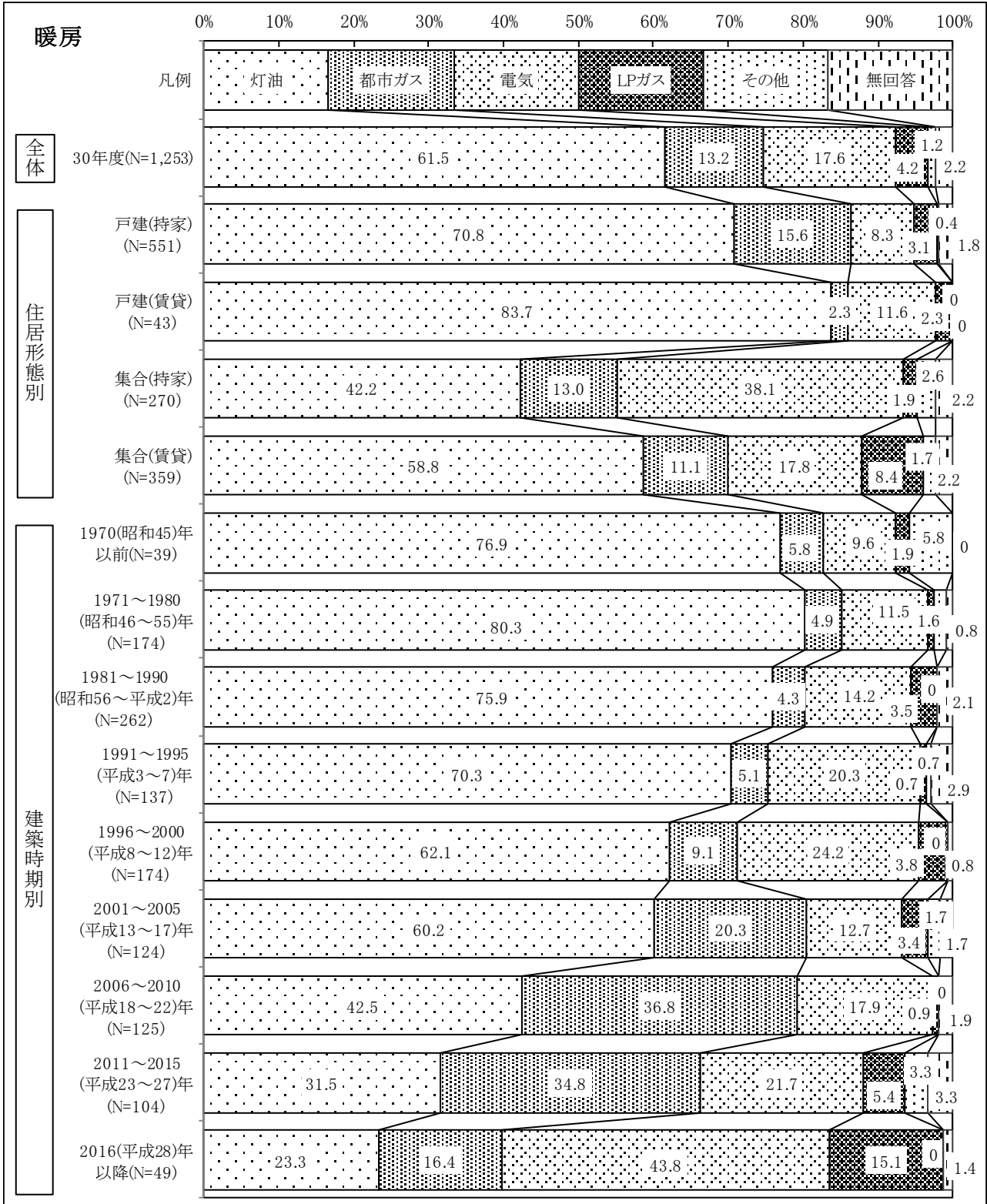
【問9】 あなたのご家庭では、用途ごとにどのようなエネルギー・燃料を最も多く使っていますか。下表のアからウまでの各用途について、あてはまるものの数字に1つだけ○をつけてください。

【全体】 家庭で多く使用しているエネルギー・燃料は、暖房が「灯油」(61.5%)、給湯が「灯油」(36.1%)である。
調理用コンロは、「LPガス」(34.6%)、「都市ガス」(34.4%)と同じくらい使用されている。

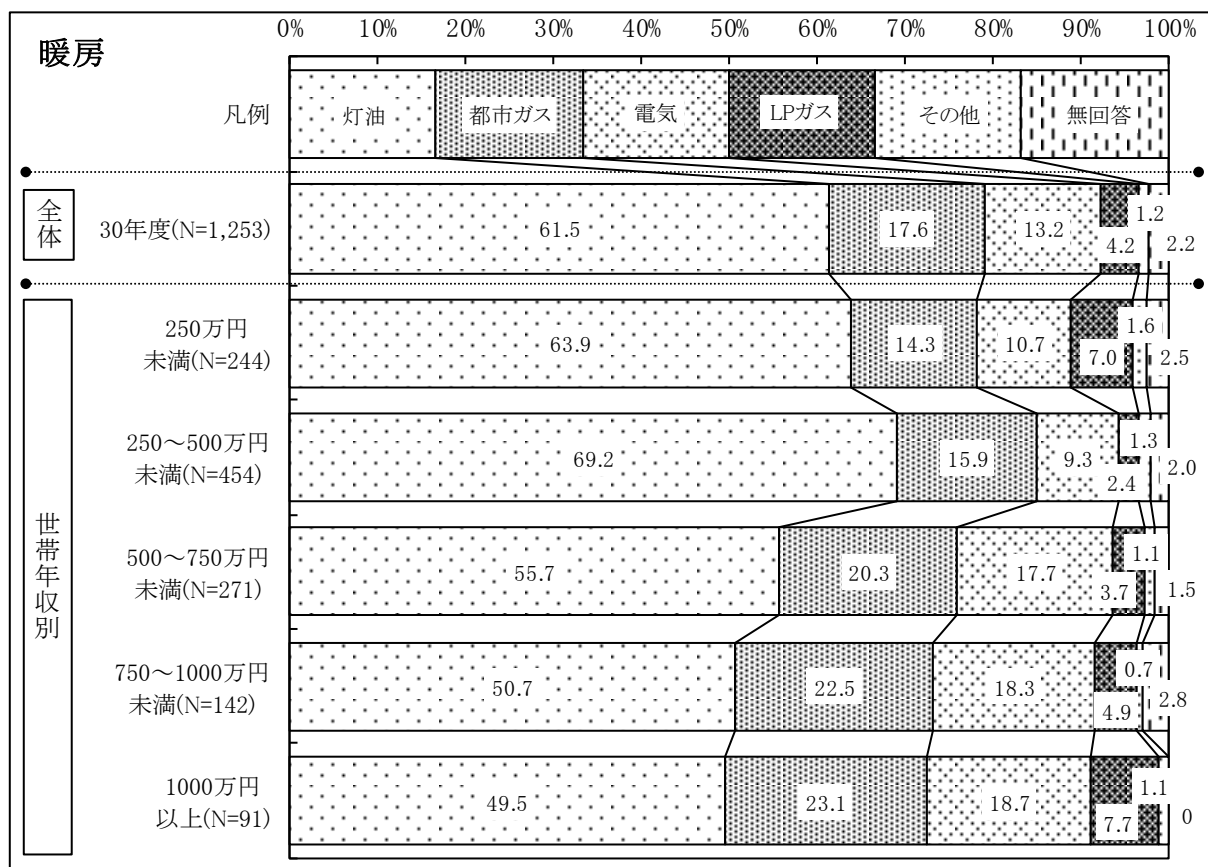




【住居形態別(暖房)】いずれも「灯油」が最も多く使用されている。
 集合(持家)については、灯油の42.2%に対し、都市ガスも38.1%とよく使用されている。
 【建築時期別(暖房)】2010年以前は「灯油」、2011~2015年は「電気」、2016年以降は「都市ガス」が最も多く使用されている。

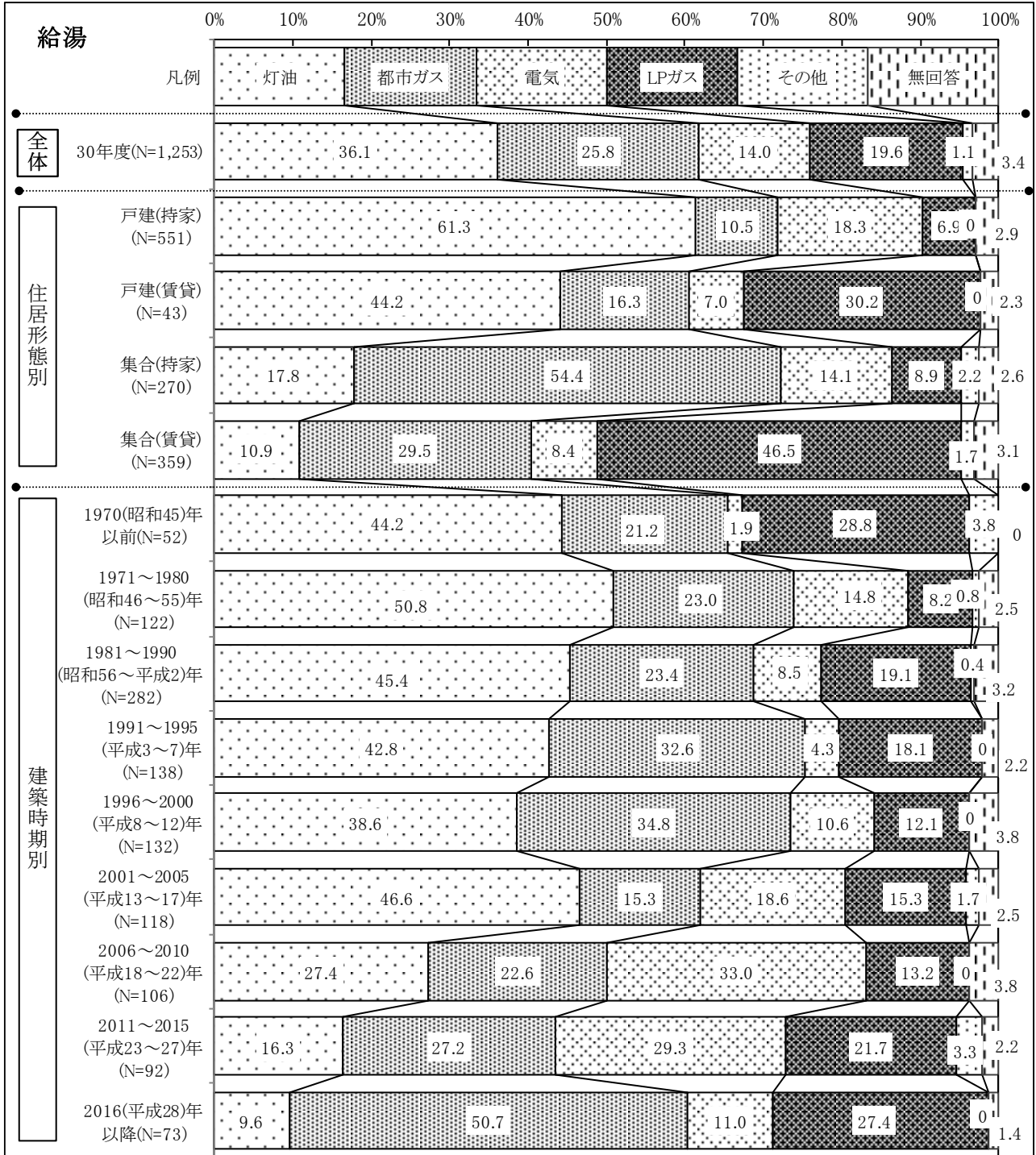


【世帯年収別(暖房)】世帯年収が高くなるにつれ、「電気」と「都市ガス」を暖房エネルギーとして使用している傾向にある。

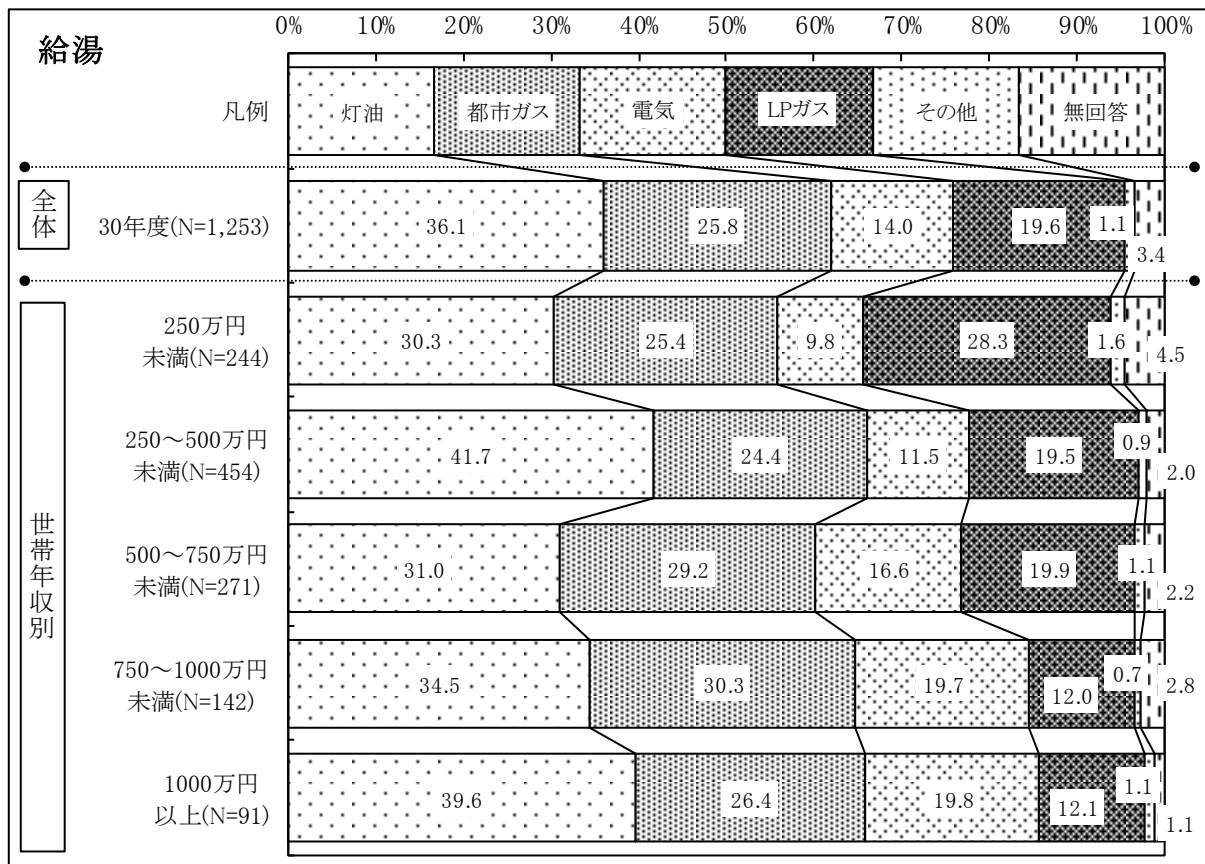


【住居形態別(給湯)】戸建(持家)と戸建(賃貸)は「灯油」、集合(持家)は「都市ガス」、集合(賃貸)は「LPガス」が最も多く使用されている。

【建築時期別(給湯)】2010年以前は「灯油」、2011~2015年は「電気」、2016年以降は「都市ガス」が最も多く使用されている。

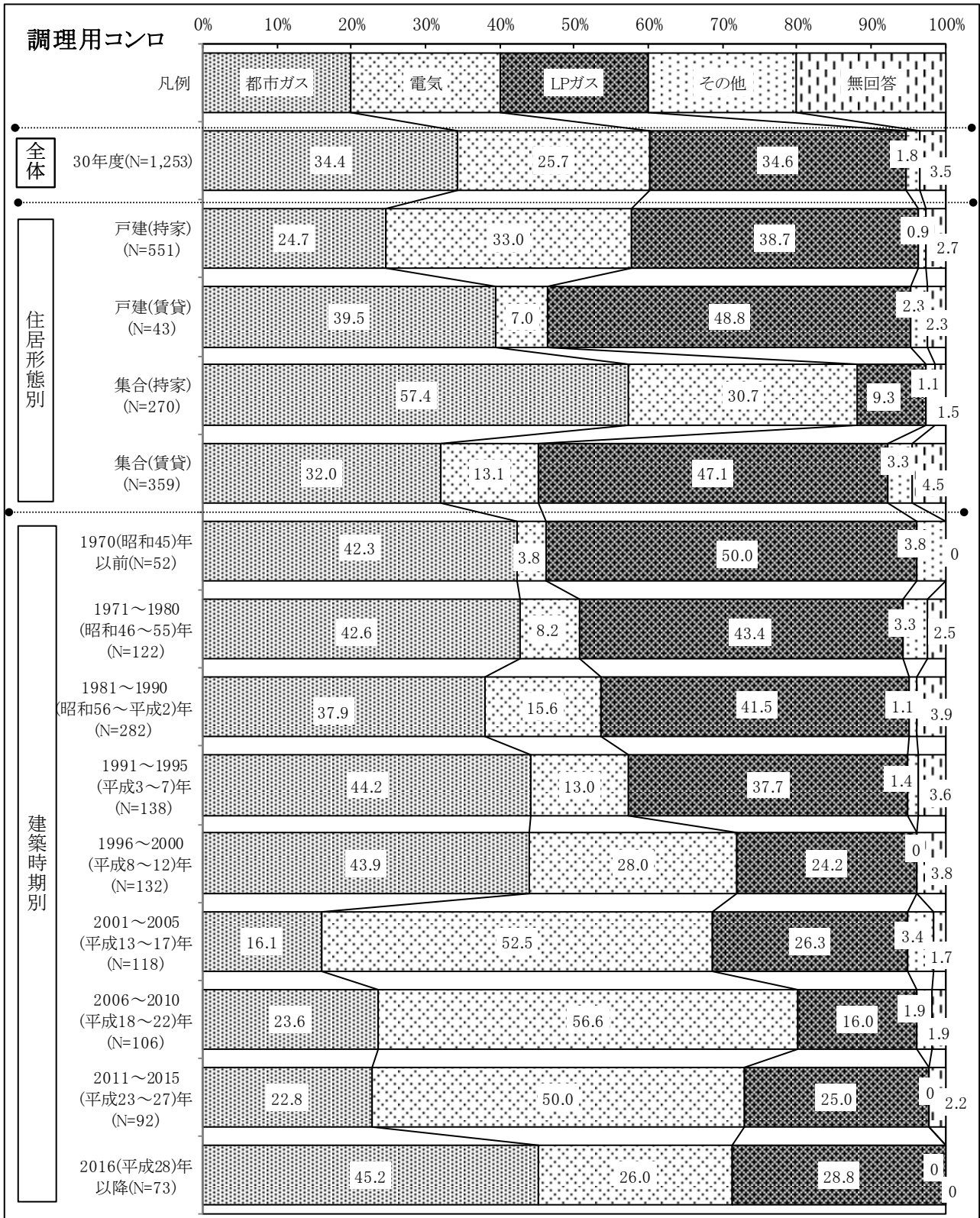


【世帯年収別(給湯)】世帯年収が高くなるにつれ、「電気」を給湯エネルギーとして使用している傾向にある。

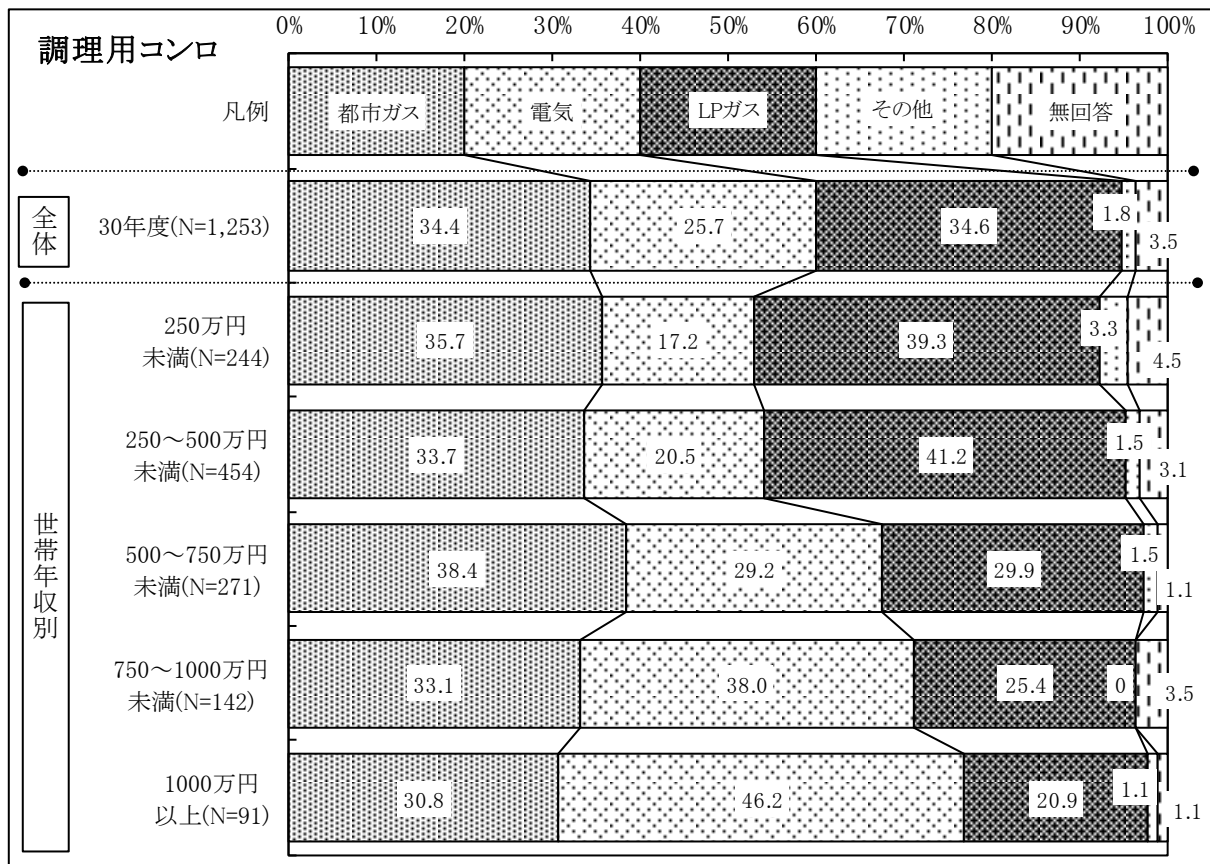


【住居形態別(調理用コンロ)】戸建(持家)、戸建(賃貸)、集合(賃貸)については「LPガス」、集合(持家)は「都市ガス」が最も多く使用されている。

【建築時期別(調理用コンロ)】1990年以前は「LPガス」、1991~2000年は「都市ガス」、2001~2015年は「電気」、2016年以降は「都市ガス」が最も多く使用されている。



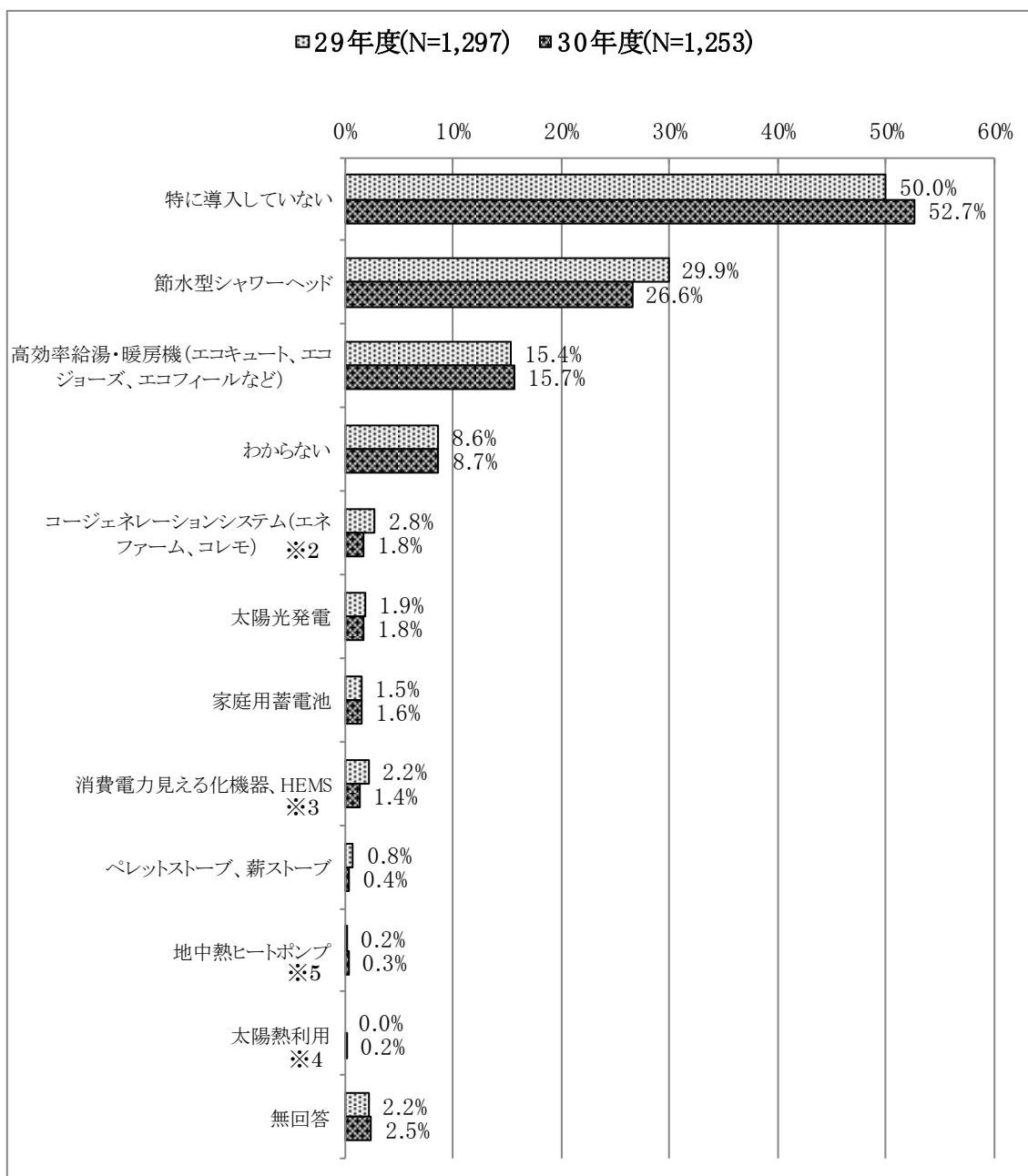
【世帯年収別(調理用コンロ)】世帯年収が高くなるにつれて、「電気」と「都市ガス」を調理用コンロのエネルギーとして使用している傾向にある。



■省エネ・再エネ機器の普及状況

【問 10】 あなたの住まいでは、どのような省エネルギー機器や再生可能エネルギー機器を導入していますか。あてはまるものいくつでも○をつけてください。 ※1

【全体】「特に導入していない」が52.7%で最も高く、次いで「節水型シャワーヘッド(浴室用)」(26.6%)、「高効率給湯・暖房機(エコキュート、エコジョーズ、エコフィールなど)」(15.7%)の順となっている。



※1 再生可能エネルギー機器：太陽光や風力など、永続的に利用できるエネルギーを活用した機器の総称
 ※2 コージェネレーション：都市ガス・LP ガスを燃料として、電気と給湯・暖房用の熱を一緒に作るシステム
 ※3 HEMS：Home Energy Management System の略。家庭で使うエネルギーを節約するための管理システム
 ※4 太陽熱利用：太陽熱集熱器で太陽の熱エネルギーを集め、水や空気を暖めて給湯・暖房に使用するシステム
 ※5 地中熱ヒートポンプ：地中の冷温熱を利用した給湯・暖房システム

【住居形態別】持家のほうが賃貸よりも、省エネ・再エネ機器の導入が多い傾向にある。
 【建築時期別】建築時期が新しくなるにつれて、省エネ・再エネ機器の導入が多い傾向にある。
 【世帯年収別】世帯年収が上がるにつれて、省エネ・再エネ機器の導入が多い傾向にある。

	サンプル数	節水型シャワーヘッド	コージエネレーションシステム (エネファーム、コレモ)	高効率給湯・暖房機(エコキュート、エコジョーズ、エコフィールなど)	ペレットストーブ、薪ストーブ	消費電力見える化機器、HEMS	太陽光発電	太陽熱利用	地中熱ヒートポンプ	家庭用蓄電池	特に導入していない	わからない	無回答
全体	1,253	26.6	1.8	15.7	0.4	1.4	1.8	0.2	0.3	1.6	52.7	8.7	2.5
《住居形態》													
戸建(持家)	551	28.3	2.0	20.9	0.5	1.3	3.3	0.0	0.7	1.5	53.7	3.8	1.5
戸建(賃貸)	43	23.3	0.0	4.7	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	67.4	4.7	4.7
集合(持家)	270	33.3	3.3	20.0	0.4	1.5	0.4	0.0	0.0	1.9	44.1	9.6	3.3
集合(賃貸)	359	20.1	0.6	7.0	0.0	1.4	0.8	0.6	0.0	1.9	56.5	15.0	1.9
《建築年代》													
1970(昭和45)年以前	52	11.5	0.0	1.9	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	76.9	5.8	1.9
1971～1980(昭和46～55)年	122	22.1	1.6	7.4	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	66.4	3.3	2.5
1981～1990(昭和56～平成2)年	282	29.8	0.7	8.2	0.4	0.7	0.7	0.0	0.0	1.4	63.8	3.9	2.1
1991～1995(平成3～7)年	138	28.3	1.4	13.8	0.7	0.7	2.9	0.0	0.0	2.2	53.6	6.5	2.9
1996～2000(平成8～12)年	132	31.8	0.0	15.9	0.0	1.5	2.3	0.8	0.8	1.5	46.2	9.1	1.5
2001～2005(平成13～17)年	118	29.7	0.8	15.3	0.0	3.4	0.8	0.8	0.0	1.7	44.9	11.9	2.5
2006～2010(平成18～22)年	106	19.8	0.9	21.7	0.0	0.0	2.8	0.0	0.0	1.9	53.8	7.5	0.9
2011～2015(平成23～27)年	92	27.2	6.5	39.1	0.0	3.3	4.3	0.0	1.1	0.0	32.6	12.0	1.1
2016(平成28)年以降	73	28.8	11.0	52.1	0.0	4.1	5.5	0.0	2.7	2.7	21.9	16.4	0.0
《世帯年収》													
250万円未満	244	21.3	0.8	8.6	0.4	0.8	0.0	0.0	0.0	1.2	59.4	11.9	4.1
250～500万円未満	454	25.8	2.0	11.5	0.9	1.1	1.1	0.2	0.7	1.1	57.7	7.0	1.5
500～750万円未満	271	26.6	1.1	20.3	0.0	1.1	4.1	0.4	0.4	1.8	51.3	8.1	1.8
750～1000万円未満	142	35.2	4.2	31.7	0.0	2.8	2.1	0.0	0.0	3.5	35.2	7.7	0.0

対象者全体と比較し 10%以上高い
 対象者全体と比較し 10%以上低い

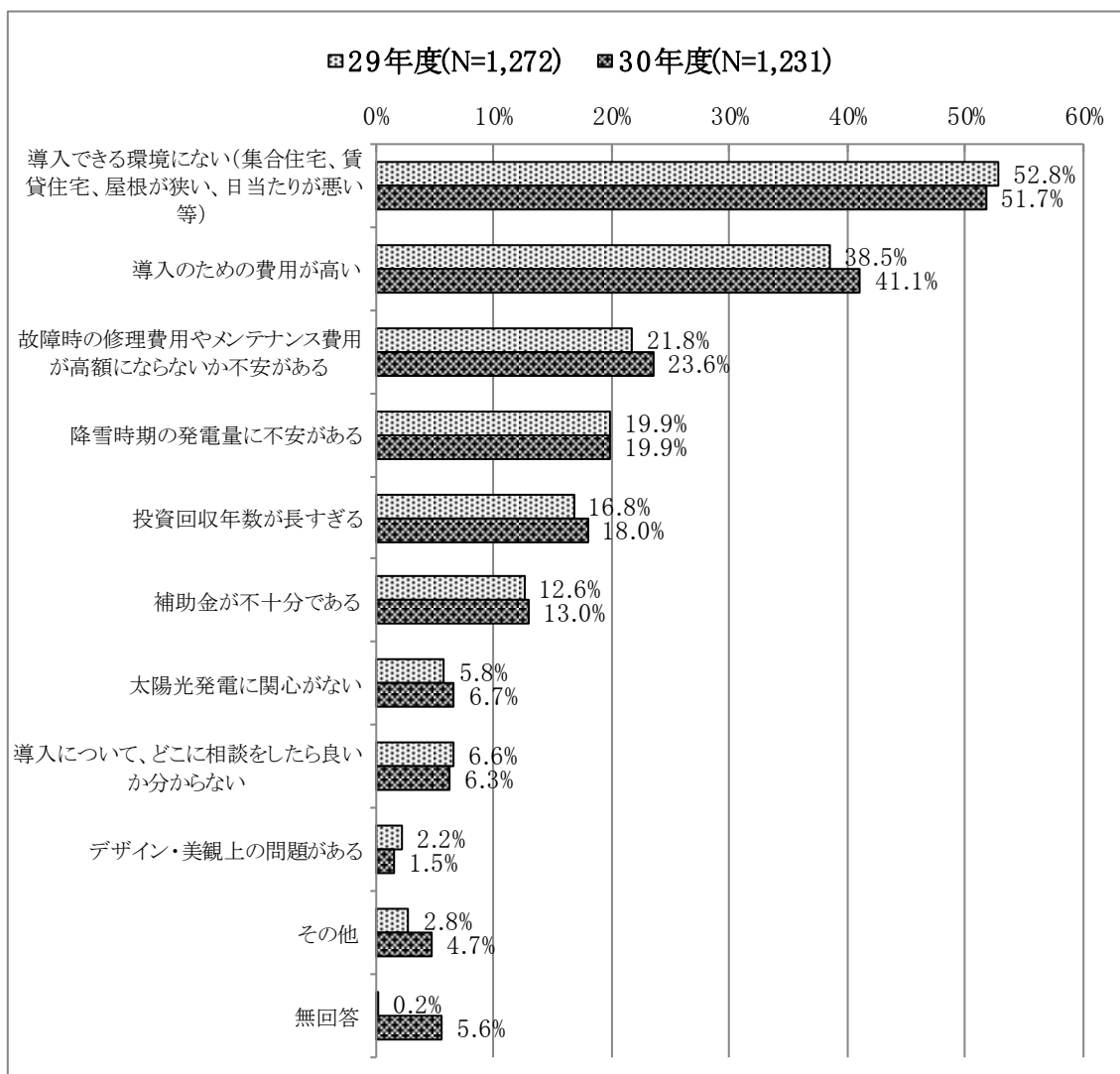
単位 % (サンプル数を除く)

■太陽光発電を導入しない理由

《問 10 で「6. 太陽光発電」に○をつけなかった方にお聞きします》

【問 11】 あなたの住まいに太陽光発電を導入しない理由は何ですか。
あてはまるものはいくつでも○をつけてください。

【全体】「導入できる環境にない」が51.7%と最も多く、「導入のための費用が高い」(41.1%)、「故障時の修理費用やメンテナンス費用が高額にならないか不安がある」(23.6%)の順と環境面や費用面での理由が多い傾向にある。



【住居形態別】戸建(持家)は、「導入のための費用が高い」が74.3%と最も多く、費用面の理由が他の住居形態と比べて多い傾向にある。

また、戸建(賃貸)・集合(持家)・集合(賃貸)については、「導入できる環境にない」が80%以上と最も多くなっている。

【世帯年収別】「導入できる環境にない」を除き、「導入のための費用が高い」が全世帯年収で最も多く、費用面の理由についても多い傾向にある。

	サンプル数	太陽光発電に関心がない	導入できる環境にない(集合住宅、賃貸住宅、屋根が狭い、日当たりが悪い等)	導入のための費用が高い	高額にならないか不安がある	故障時の修理費用やメンテナンス費用が高い	投資回収年数が長すぎる	補助金が不十分である	降雪時期の発電量に不安がある	デザイン・美観上の問題がある	導入について、どこに相談をしたら良いかわからない	その他	無回答
全体	1,231	6.7	51.7	41.1	23.6	18.0	13.0	19.9	1.5	6.3	4.7	5.6	
《住居形態》													
戸建(持家)	533	10.3	12.4	74.3	43.9	33.0	23.8	37.3	2.8	7.5	3.9	5.4	
戸建(賃貸)	43	7.0	83.7	32.6	20.9	16.3	14.0	11.6	0.0	9.3	4.7	2.3	
集合(持家)	269	4.1	87.0	13.8	6.7	6.3	4.1	7.1	0.7	6.3	3.3	3.0	
集合(賃貸)	356	2.8	82.0	14.0	7.3	5.3	4.2	5.6	0.6	4.2	6.2	6.5	
その他	11	18.2	45.5	45.5	18.2	18.2	9.1	9.1	0.0	0.0	18.2	9.1	
《建築年代》													
1970(昭和45)年以前	52	7.7	50.0	38.5	23.1	13.5	13.5	23.1	1.9	13.5	9.6	11.5	
1971～1980(昭和46～55)年	122	6.6	50.0	42.6	20.5	17.2	13.9	23.8	0.8	5.7	4.9	7.4	
1981～1990(昭和56～平成2)年	280	7.5	47.9	44.3	21.8	17.9	14.3	20.4	0.0	6.4	2.9	5.7	
1991～1995(平成3～7)年	134	6.7	49.3	49.3	32.8	19.4	14.2	21.6	4.5	9.7	0.7	4.5	
1996～2000(平成8～12)年	129	6.2	47.3	50.4	27.9	24.8	14.0	24.0	0.8	5.4	2.3	3.1	
2001～2005(平成13～17)年	117	7.7	57.3	34.2	19.7	16.2	10.3	15.4	3.4	4.3	2.6	3.4	
2006～2010(平成18～22)年	103	1.9	58.3	42.7	29.1	24.3	18.4	17.5	0.0	4.9	6.8	1.0	
2011～2015(平成23～27)年	88	3.4	40.9	44.3	30.7	23.9	11.4	25.0	3.4	0.0	13.6	6.8	
2016(平成28)年以降	69	8.7	56.5	40.6	24.6	18.8	18.8	29.0	2.9	7.2	2.9	1.4	
わからない	113	8.8	69.0	20.4	11.5	6.2	4.4	7.1	0.9	7.1	8.8	7.1	
《世帯年収》													
250万円未満	244	7.8	57.8	34.0	18.0	10.7	10.2	16.0	0.8	6.6	6.1	8.6	
250～500万円未満	449	4.9	52.3	42.5	24.3	19.2	12.5	20.0	0.9	6.9	3.6	4.7	
500～750万円未満	260	6.5	56.2	43.1	24.2	18.8	13.5	21.5	2.3	3.8	4.6	3.1	
750～1000万円未満	139	5.8	42.4	48.2	28.8	22.3	18.7	23.0	2.2	7.2	2.9	4.3	
1000万円以上	88	14.8	44.3	42.0	29.5	28.4	19.3	26.1	4.5	9.1	5.7	0.0	

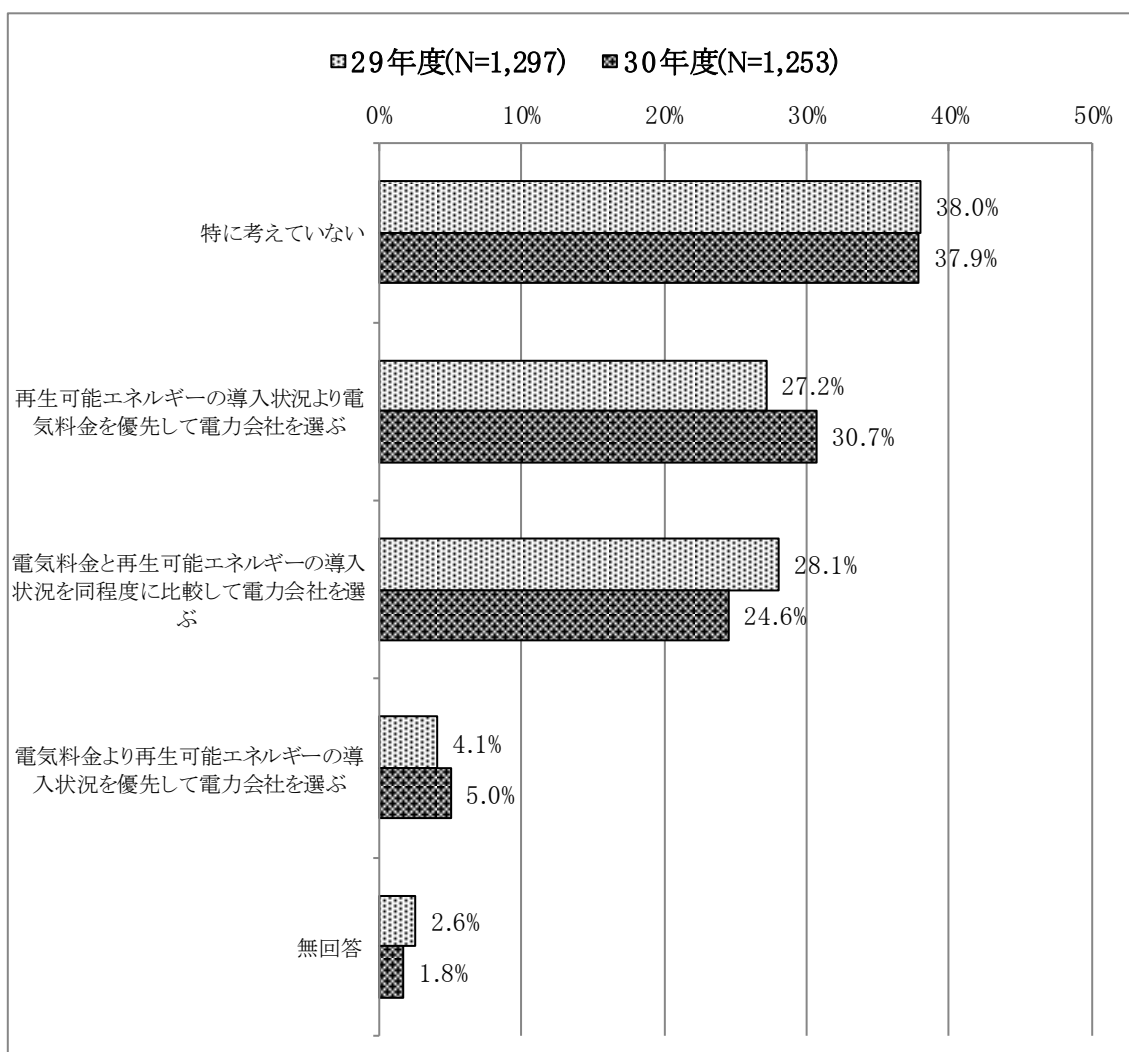
対象者全体と比較し 10%以上高い
対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

■電力会社の再エネ導入に対する認識

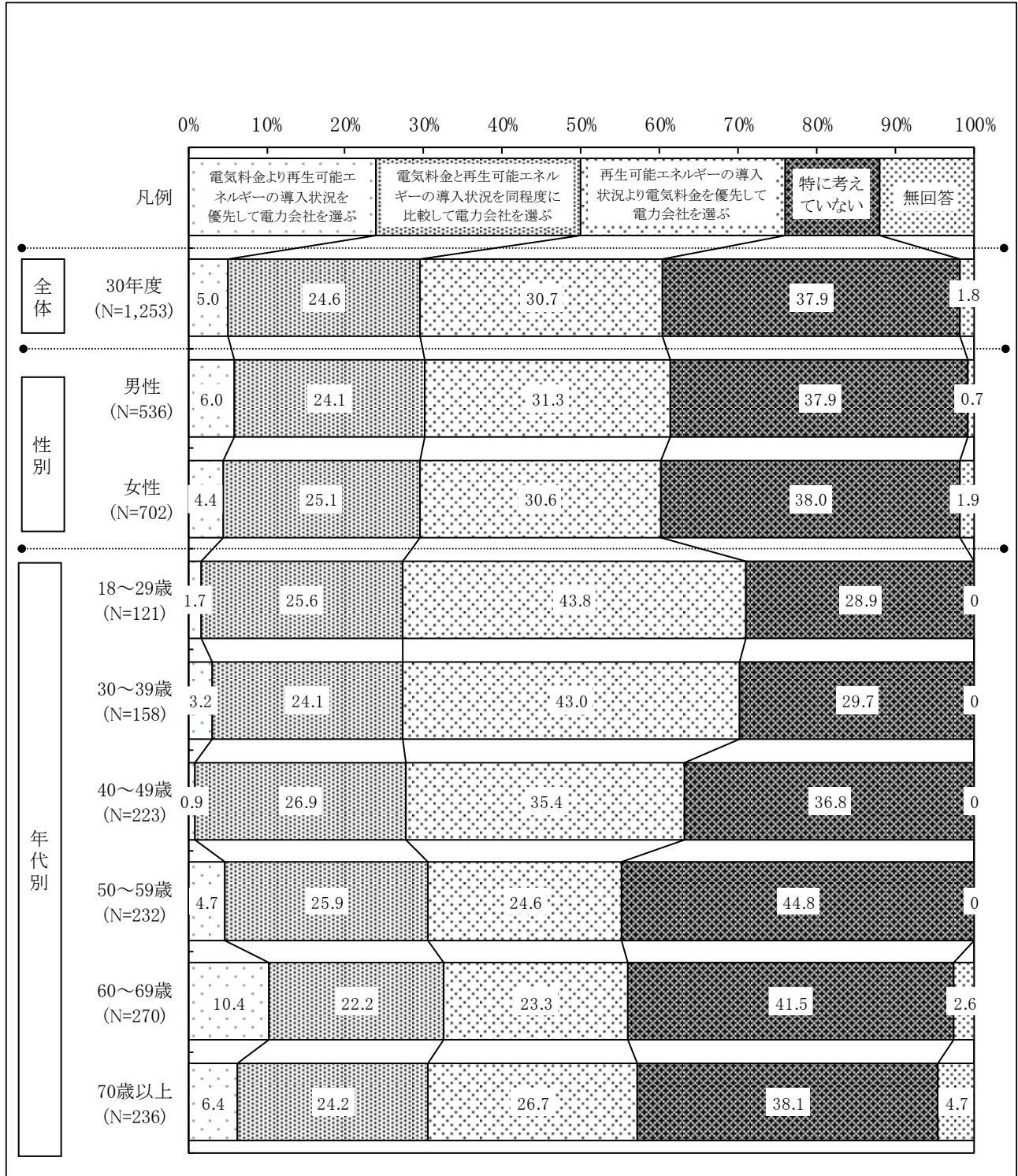
【問 12】 あなたが電力会社を選ぶとき、電力会社による再生可能エネルギーの導入状況をどのように考えますか。あなたの考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

【全体】 全般的に前年度と同様の傾向にあり、割合としては「特に考えていない」が37.9%と最も多い。
 また、「再生可能エネルギーの導入状況より電気料金を優先して電力会社を選ぶ」が30.7%、「電気料金と再生可能エネルギーの導入状況を同程度に比較して電力会社を選ぶ」が24.6%と、電気料金を判断材料の一因とする回答が多い傾向にある。

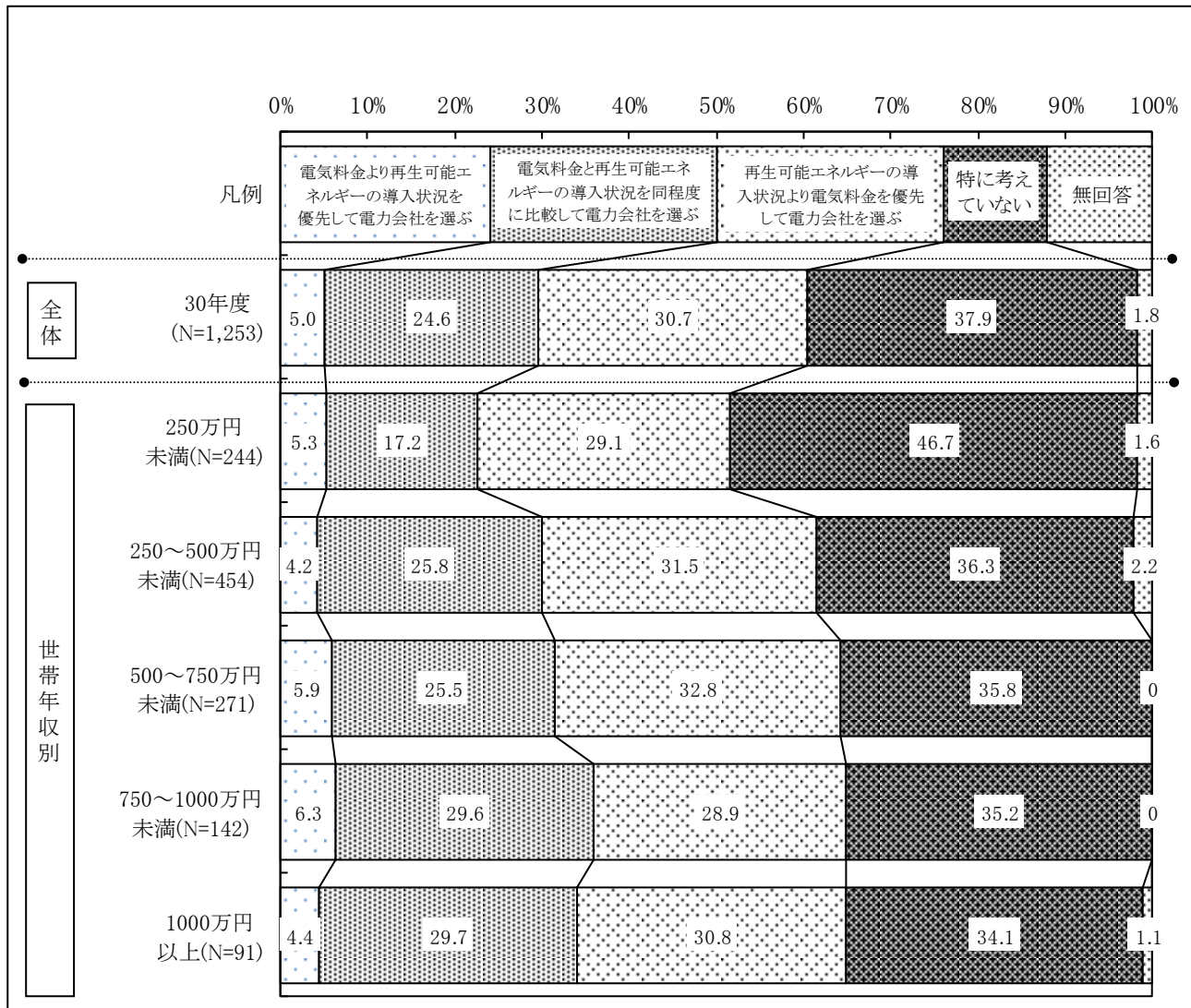


【性別】男女に大きな差は見られない。

【年代別】「再生可能エネルギーの導入状況より電気料金を優先して電力会社を選ぶ」は、18～29歳で43.8%と最も多く、若い世代では再生可能エネルギーよりも電気料金を優先する傾向にある。



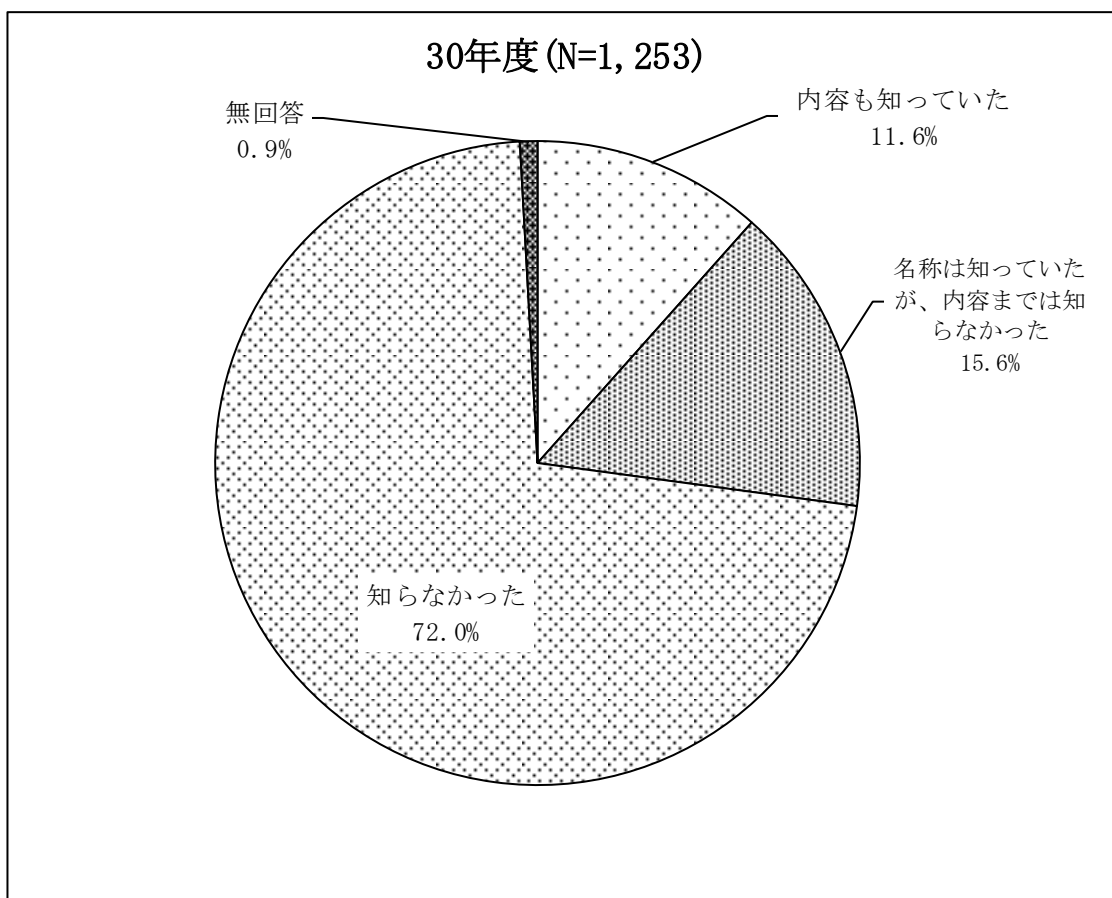
【世帯年収別】世帯年収が上がるにつれて、「電気料金と再生可能エネルギーの導入状況を同程度に比較して電力会社を選ぶ」の割合が高くなる傾向にある。



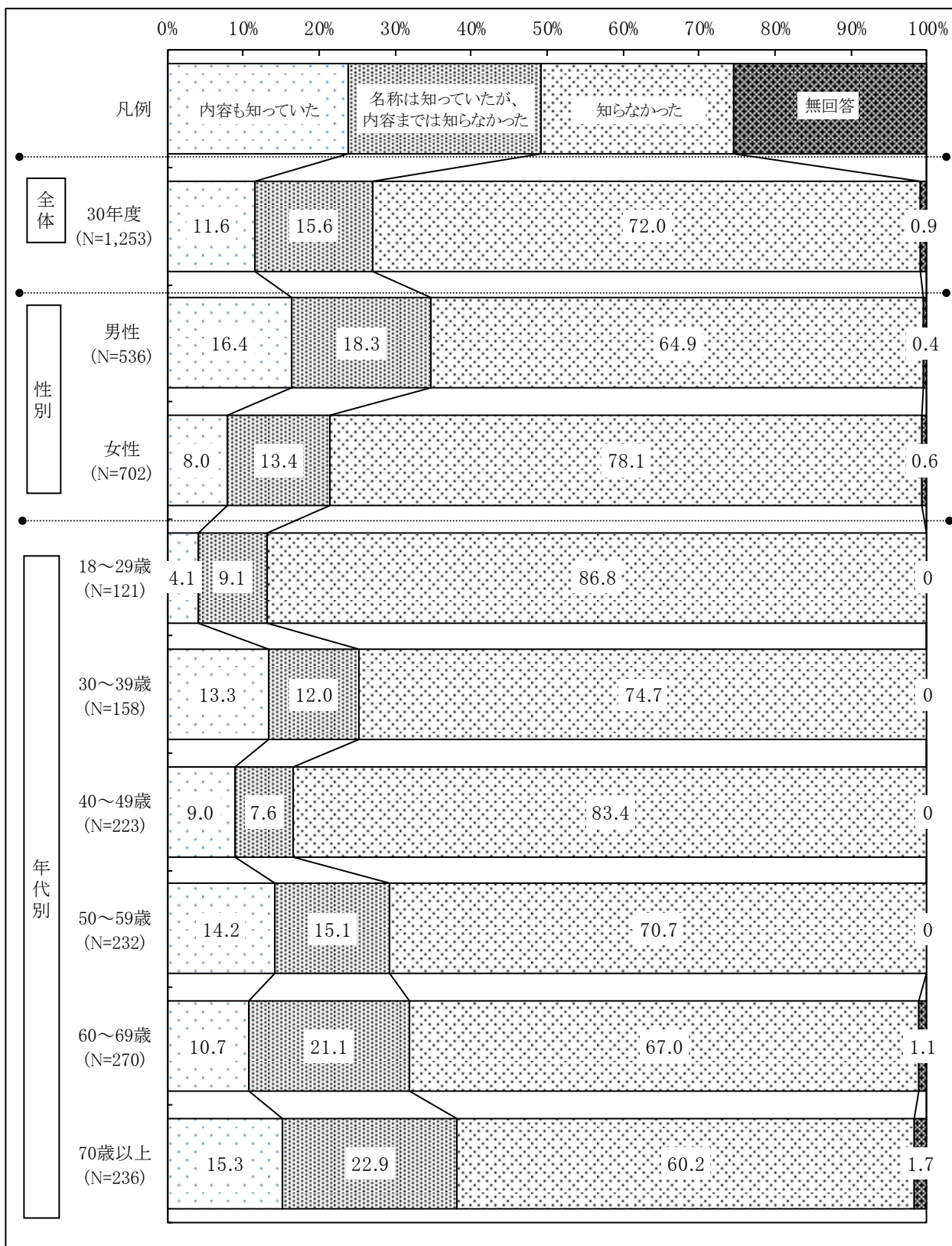
■ZEH:ゼッチの認知度について

【問 13】 住まいの断熱性能と省エネ性能を高め、加えて太陽光発電などでエネルギーを創ることにより、年間の消費エネルギー量の収支を実質ゼロにする住宅を「ゼロ・エネルギー住宅（ZEH：ゼッチ）」とといいます。
あなたは、このことを知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

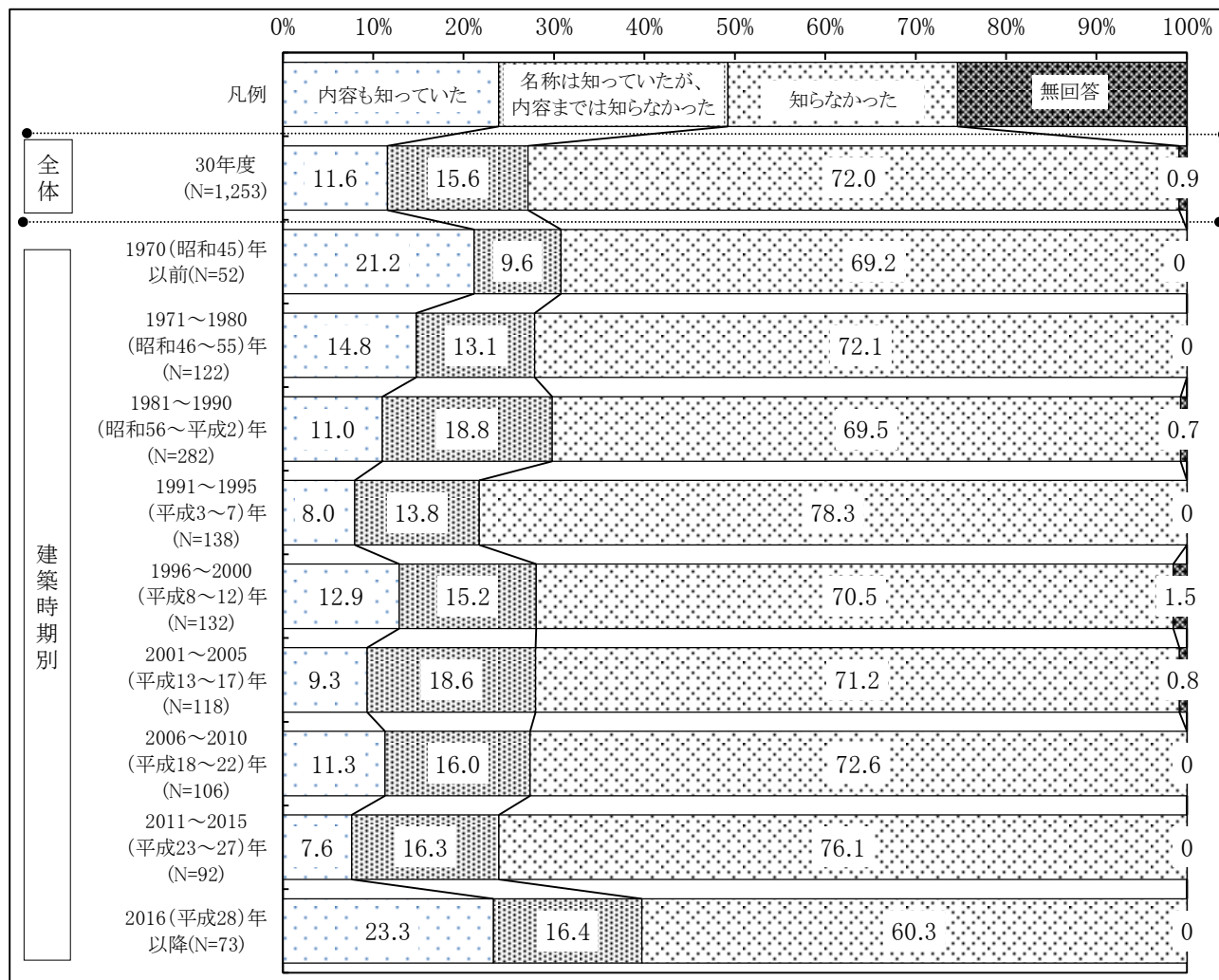
【全体】「内容も知っていた」は11.6%、「内容も知っていた」と「名称は知っていたが、内容までは知らなかった」を合わせた割合は27.2%である。



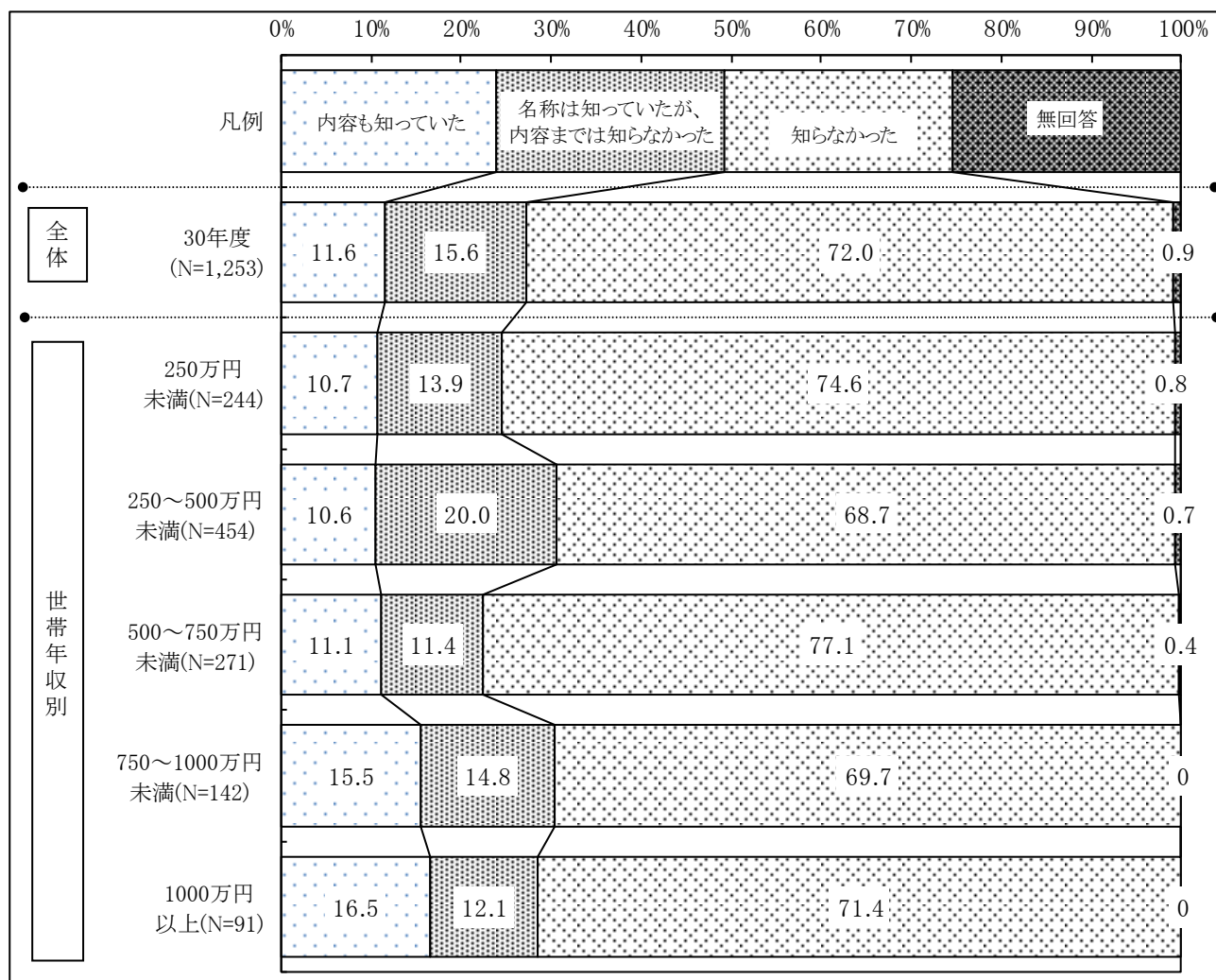
【性別】「内容も知っていた」は男性 16.4%、女性 8.0%であり、男性のほうが 8.4%多い。
 【年代別】「内容も知っていた」と「名称は知っていたが、内容までは知らなかった」を合わせた割合は 60 代以上では 30%以上であり、他の年代に比べてやや高い傾向にある。



【建築時期別】建築時期が2016年以降の場合、「内容も知っていた」と「名称は知っていたが、内容までは知らなかった」を合わせた割合は39.7%であり、他の建築時期に比べて高い。



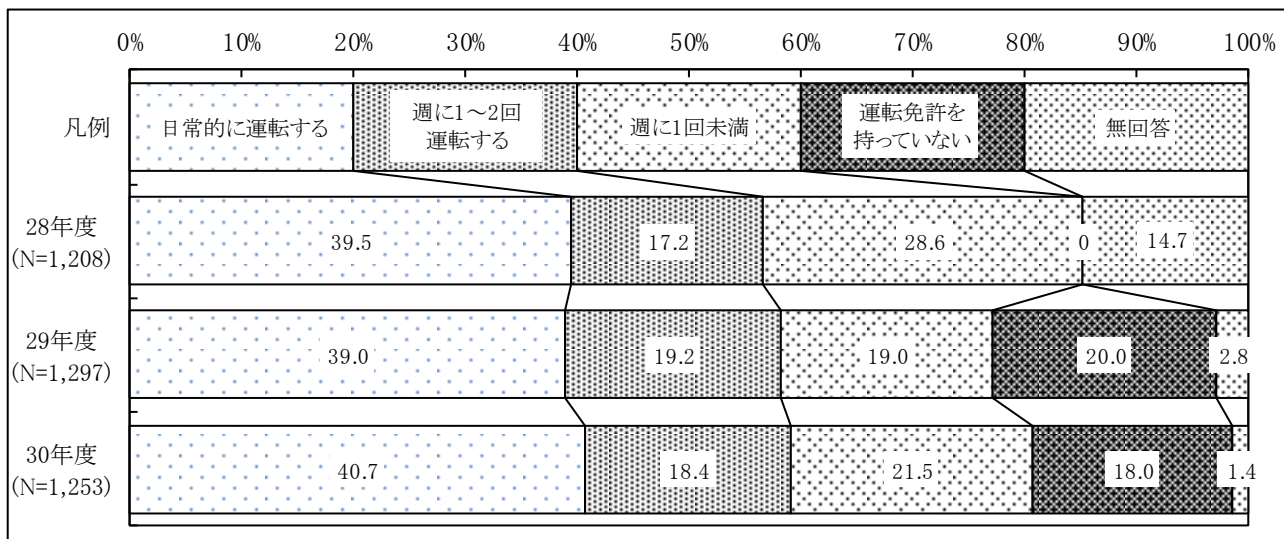
【世帯年収別】「内容も知っていた」は、世帯年収が高いと高くなる傾向にある。



■自動車の運転頻度

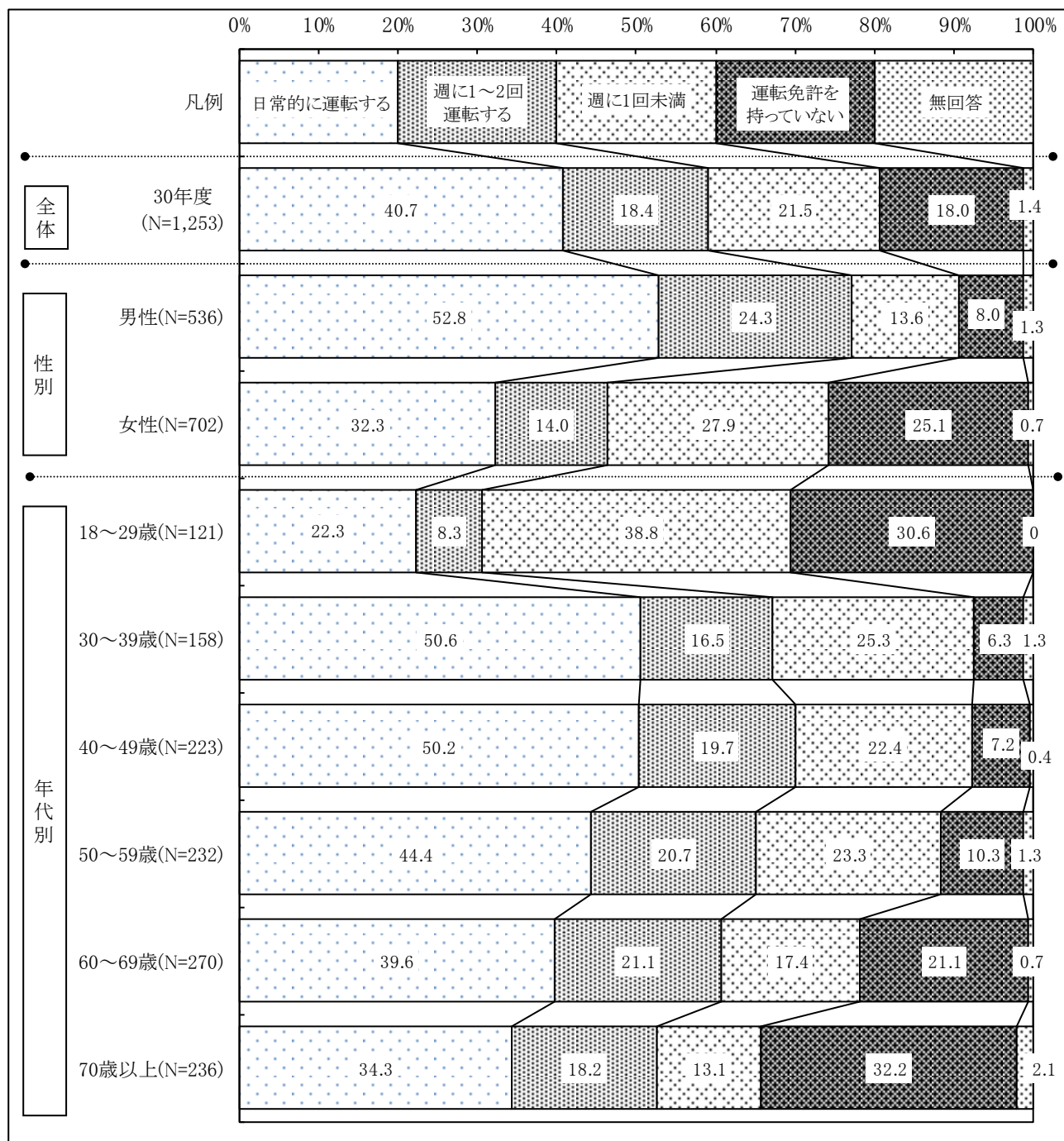
【問 14】 あなたは、どれくらい自動車を運転しますか。
 あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【全体】「日常的に運転する」が40.7%と最も多く、「週に1~2回運転する」(18.4%)および「週に1回未満」(21.5%)を合わせると80.6%と、運転者の割合は高いと言える。

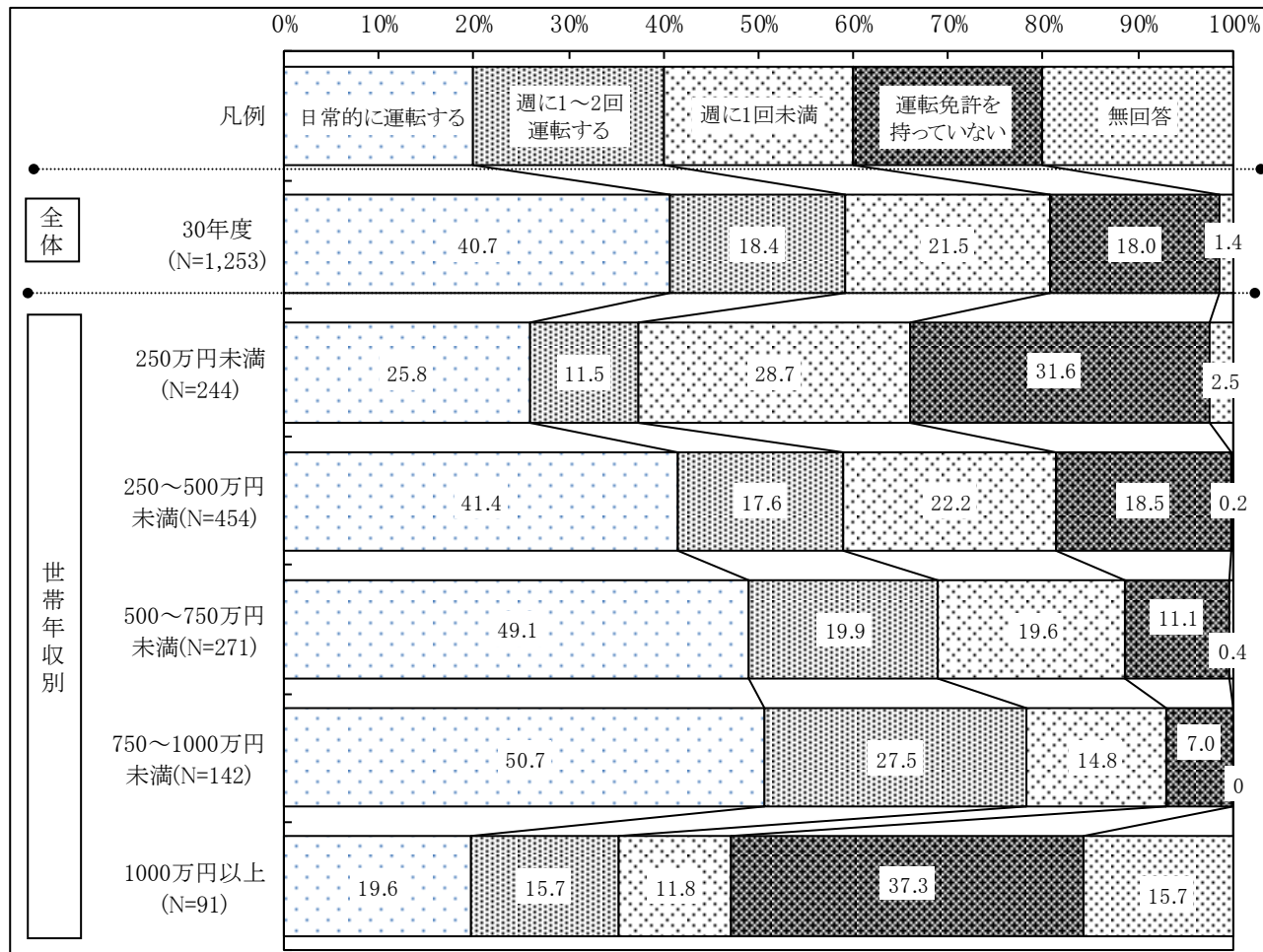


※「運転免許を持っていない」は、28年度には無い項目のため比較なし

【性別】「日常的に運転する」は男性が52.8%であり、女性の32.3%より20.5%高くなっている。
 【年代別】「日常的に運転する」は30歳代(50.6%)が最も高く、次いで40歳代(50.2%)、50歳代(44.4%)の順となっている。



【世帯年収別】「日常的に運転する」は、1,000万円未満までは世帯年収が上がるにつれて高くなる傾向にある。
 また、1,000万円以上では運転者の割合が少なくなり、「運転免許を持っていない」の割合が37.3%と高くなる。



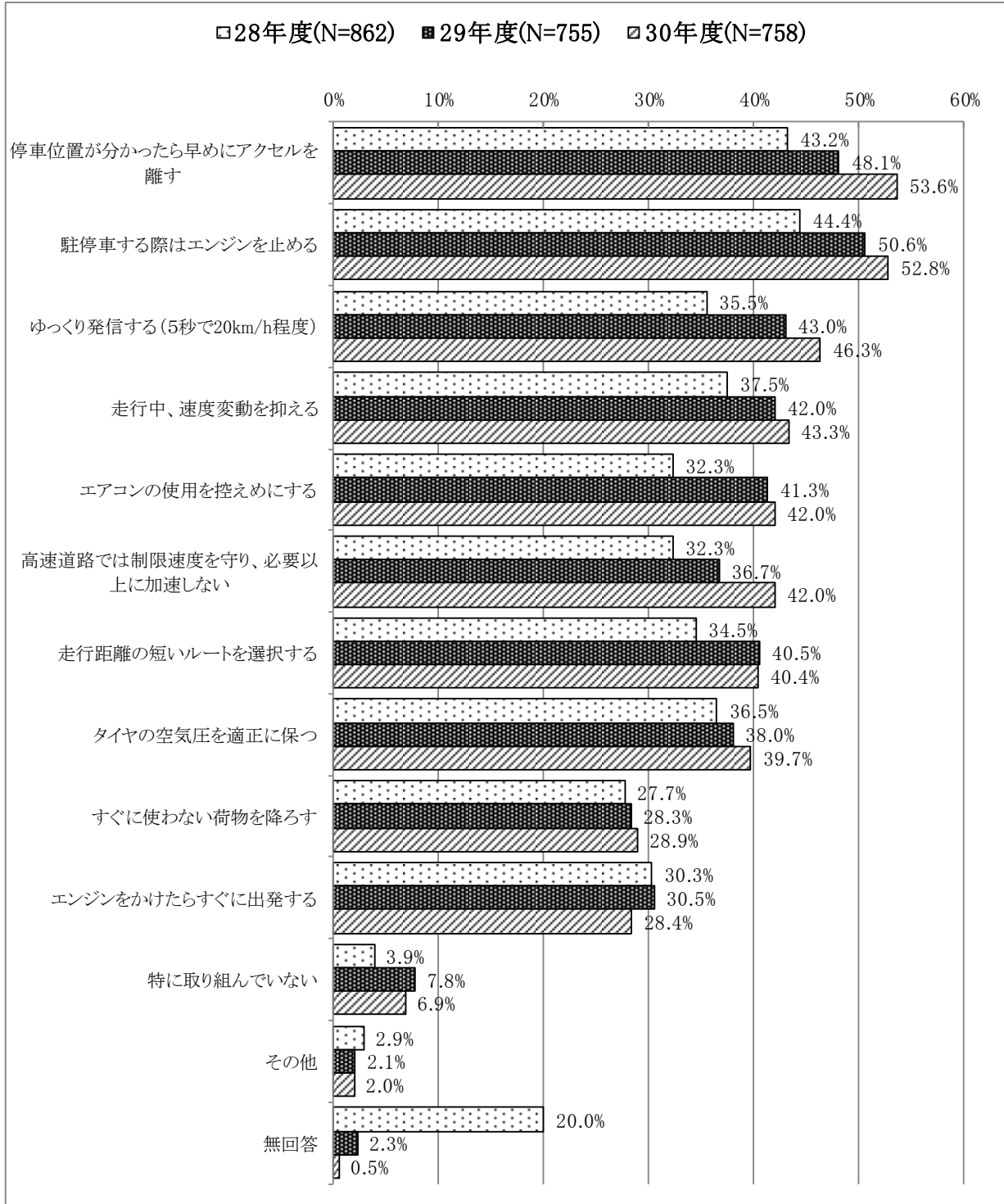
■実践しているエコドライブの取組

《問14で「1 日常的に運転する」または「2 週に1～2回」に○をつけた方にお聞きします》

【問15-1】 あなたが運転する際に実施しているエコドライブの取組はありますか。

あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】実施しているエコドライブの取組は、「停車位置が分かたら早めにアクセルを離す」が53.6%で最も高く、次いで「駐停車する際はエンジンを止める」(52.8%)、「ゆっくり発進する(5秒で20km/h程度)」(46.3%)の順に高くなっている。



【性別】「タイヤの空気圧を適正に保つ」は、男性(49.8%)が女性(27.9%)より21.9%高くなっている。

【年代別】実施しているエコドライブの取組は、年代が上がるにつれて全般的に割合が高くなる傾向にある。

【世帯年収別】「駐停車する際はエンジンを止める」は、250万円未満では63.9%と高い。

	サンプル数	すぐに使わない荷物を降ろす	走行中、速度変動を抑える	走行距離の短いルートを選択する	タイヤの空気圧を適正に保つ	停車位置が分かっただら早めにアクセルを離す	駐停車する際はエンジンを止める	エンジンをかけたらずぐに出発する	ゆっくりで20km/h程度)	必要以上に加速しない	高速道路では制限速度を守り、	エアコンの使用を控えるにする	その他	特に取り組んでいない	無回答
全体	758	28.9	43.3	40.4	39.7	53.6	52.8	28.4	46.3	42.0	42.0	2.0	6.9	0.5	
《性別》															
男性	420	31.9	45.5	44.0	49.8	54.5	47.9	27.4	45.0	41.0	39.8	2.4	7.6	0.5	
女性	330	25.8	40.9	36.4	27.9	53.0	59.7	30.0	48.5	43.9	45.5	1.5	6.1	0.3	
《年代別》															
18～29歳	37	16.2	51.4	45.9	32.4	70.3	51.4	21.6	48.6	45.9	45.9	2.7	5.4	0.0	
30～39歳	108	22.2	38.9	37.0	34.3	59.3	49.1	22.2	39.8	25.9	46.3	0.0	6.5	0.0	
40～49歳	157	30.6	43.9	40.1	30.6	54.1	42.7	23.6	43.3	32.5	35.0	1.9	8.9	0.0	
50～59歳	154	31.8	47.4	41.6	39.0	51.9	51.9	30.5	48.1	41.6	40.3	3.9	8.4	1.3	
60～69歳	166	30.1	44.6	39.8	44.6	44.6	59.0	32.5	46.4	50.0	37.3	1.2	6.0	0.0	
70歳以上	129	32.6	38.0	42.6	54.3	53.5	62.8	34.1	53.5	57.4	55.0	2.3	4.7	0.8	
《世帯年収別》															
250万円未満	97	35.1	41.2	38.1	44.3	47.4	63.9	37.1	48.5	40.2	46.4	0.0	6.2	1.0	
250～500万円未満	269	26.8	42.4	39.8	42.4	55.0	51.7	26.8	50.9	45.0	44.6	2.2	7.1	0.4	
500～750万円未満	188	30.3	47.3	48.4	39.9	59.6	52.7	26.1	46.3	39.9	41.0	1.1	6.4	0.0	
750～1000万円未満	111	27.9	46.8	31.5	37.8	49.5	50.5	29.7	44.1	39.6	36.9	2.7	6.3	0.0	
1000万円以上	67	29.9	41.8	40.3	31.3	53.7	50.7	29.9	37.3	41.8	40.3	4.5	7.5	1.5	

対象者全体と比較し10%以上高い

対象者全体と比較し10%以上低い

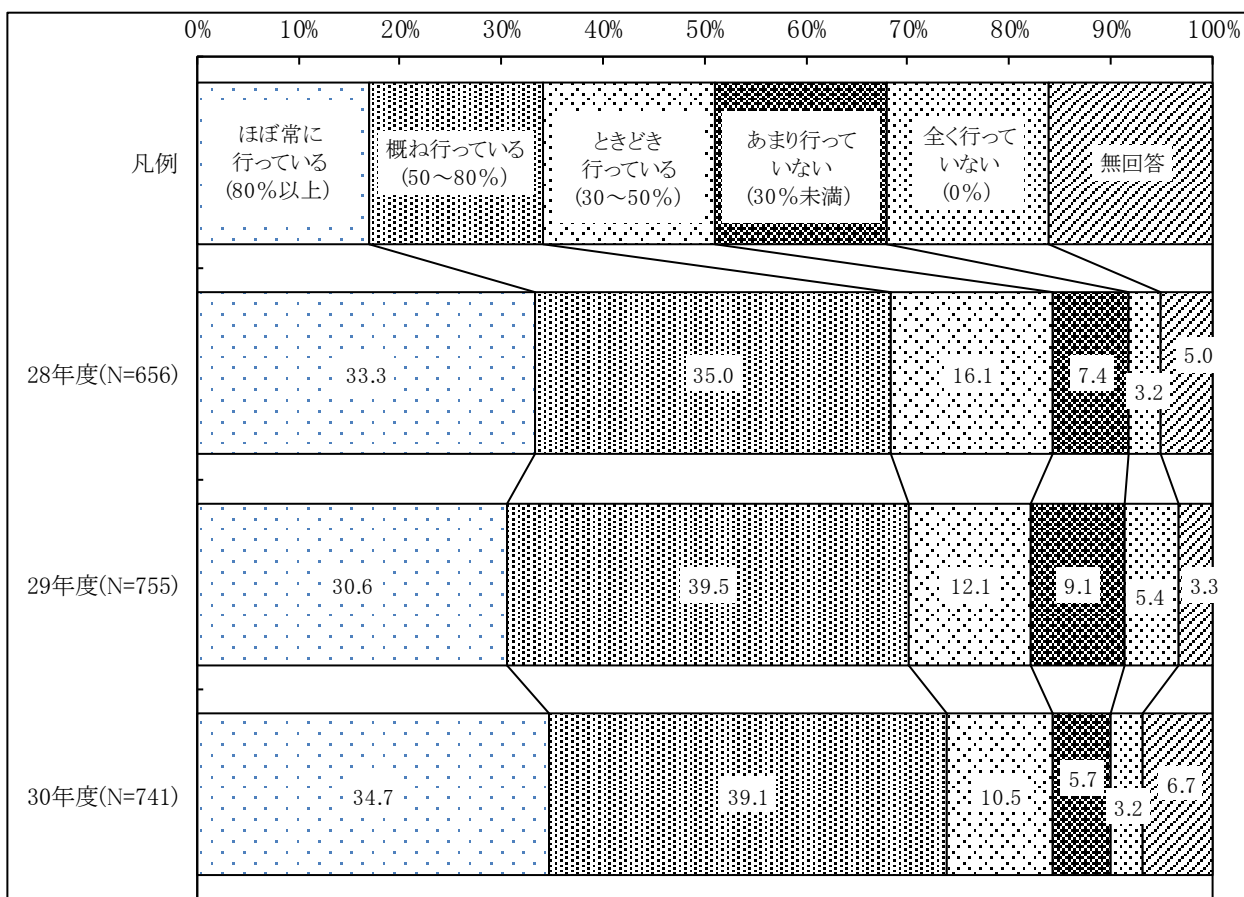
単位 % (サンプル数を除く)

■実践しているエコドライブの頻度

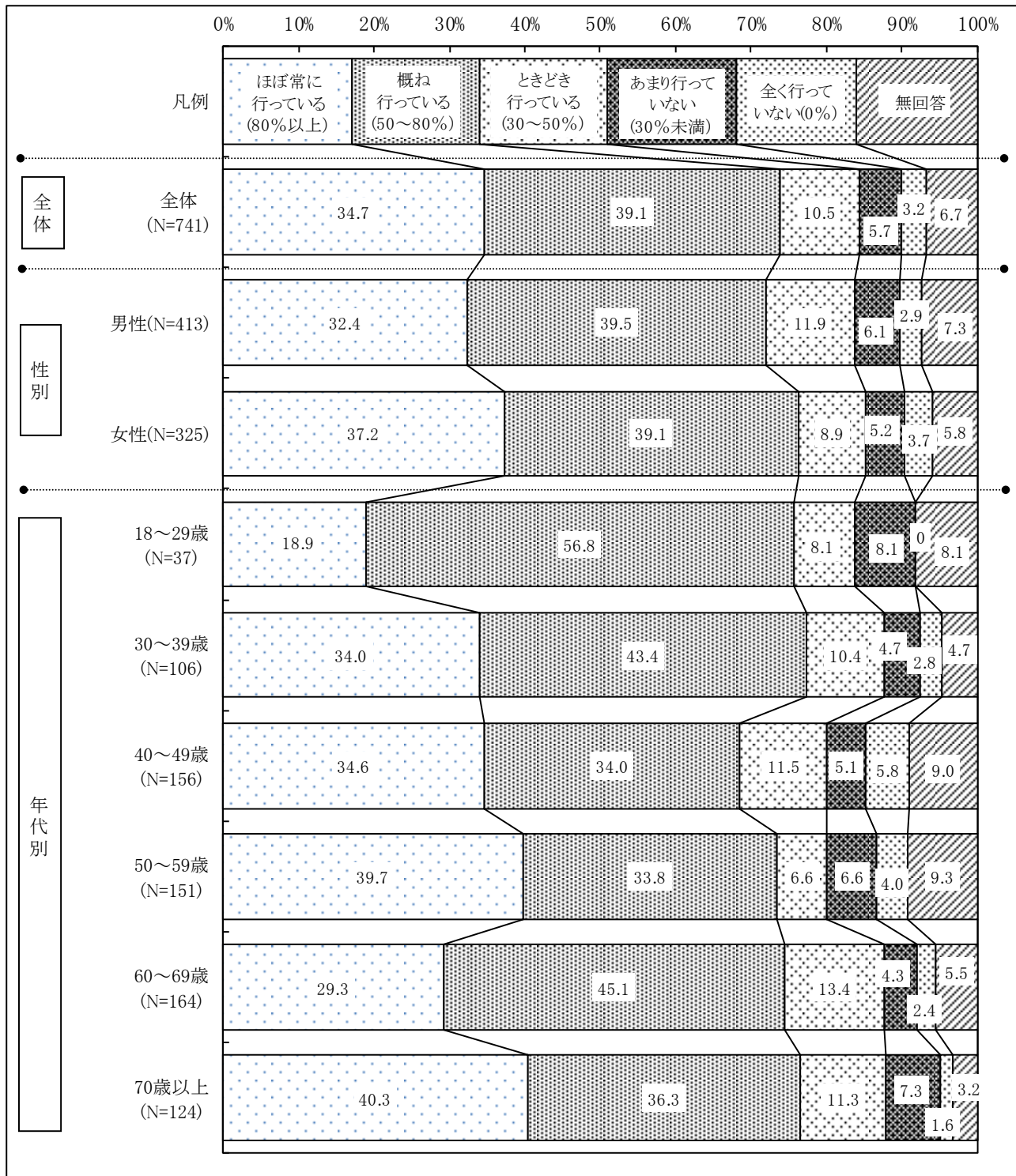
《問14で「1 日常的に運転する」または「2 週に1～2回」に○をつけた方にお聞きします》

【問15-2】 あなたが運転する際に実施しているエコドライブの頻度はどのくらいですか。
あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

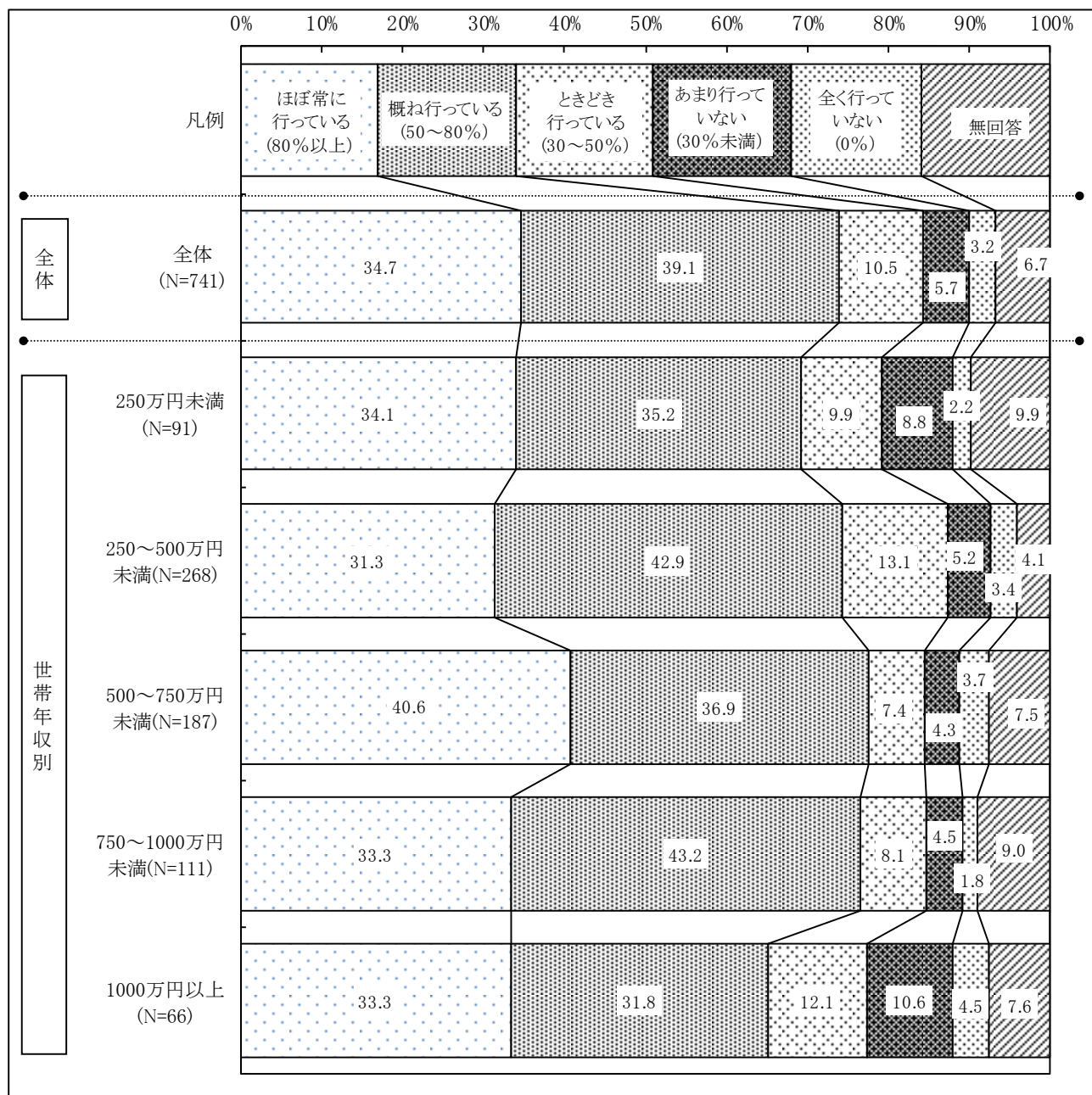
【全体】「ほぼ常に行っている(80%以上)」は34.7%、「概ね行っている」は39.1%、「ときどき行っている」は10.5%であり、エコドライブを行う割合は高いと言える。



【性別】「ほぼ常に行っている(80%以上)」は男性 32.4%、女性 37.2%であり、女性のほうが 4.8%高い。
 【年代別】「ほぼ常に行っている(80%以上)」は 70 歳以上が 40.3%と最も高く、次いで 50 歳代(39.7%)、40 歳代(34.6%)の順となっている。



世帯年収別】「ほぼ常に行っている(80%以上)」は750~1,000万円が43.2%と最も高く、次いで250~500万円(42.9%)、500~750万円(36.9%)の順となっている。

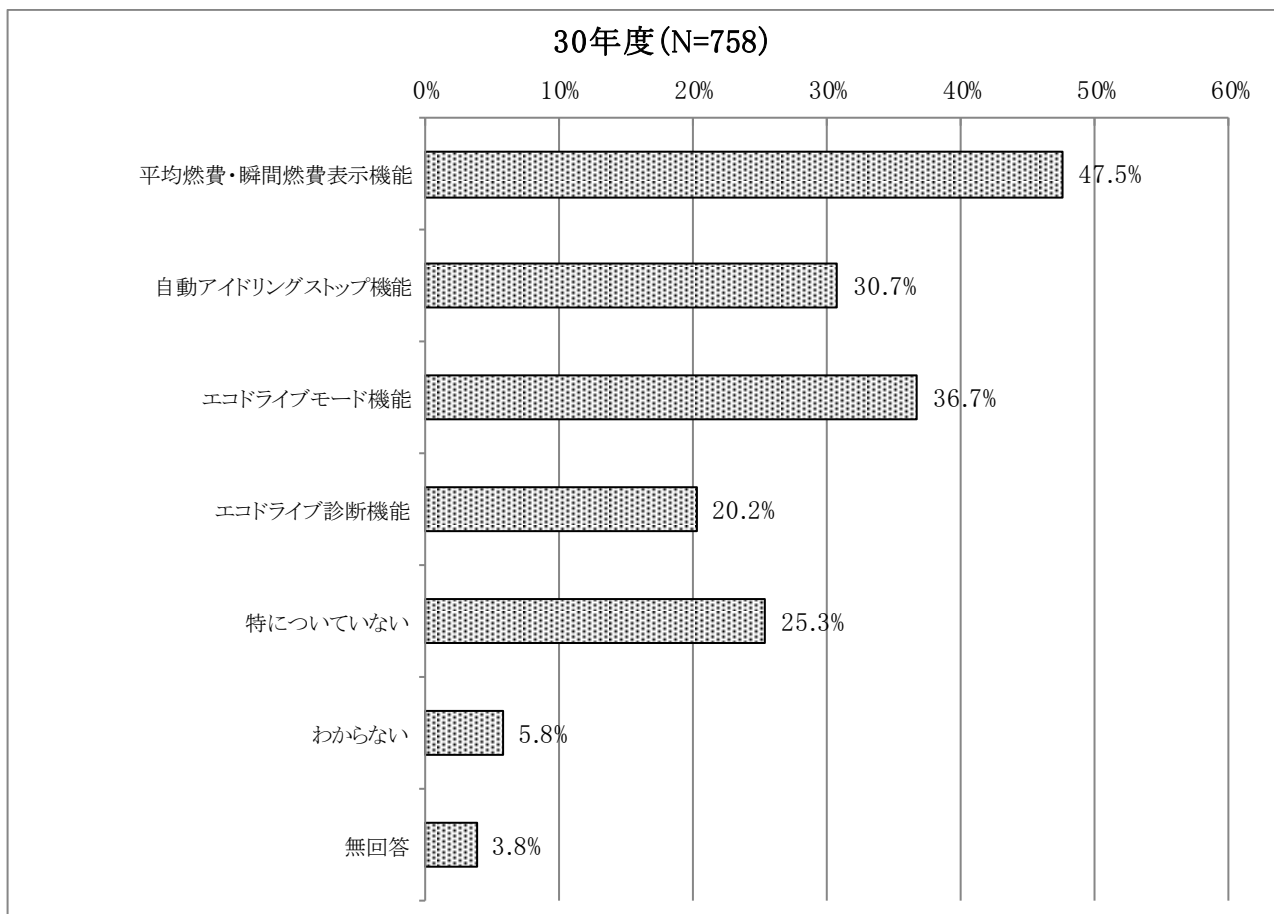


■車に付いているエコドライブの機能

《問14で「1 日常的に運転する」または「2 週に1～2回」に○をつけた方にお聞きします》

【問15-3】 あなたが運転する自動車には、どのようなエコドライブ機能がついていますか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】「平均燃費・瞬間燃費表示機能」が47.5%と最も多く、次いで「エコドライブモード機能」が36.7%、「自動アイドリングストップ機能」が30.7%となっている。



【性別】「平均燃費・瞬間燃費表示機能」は男性 51.7%、女性 43.3%であり、男性のほうが 8.4%高い。

【年代別】「自動アイドリングストップ機能」は 18～29 歳が 45.9%と最も高いが、70 歳以上では 19.4%と最も低い。

【世帯年収別】世帯年収が上がるにつれ、エコドライブの機能が多い傾向にある。

	サンプル数	平均燃費・瞬間燃費表示機能	自動アイドリングストップ機能	エコドライブモード機能	エコドライブ診断機能	特についていない	わからない	無回答
全体	758	47.5	30.7	36.7	20.2	25.3	5.8	3.8
《性別》								
男性	420	51.7	30.0	35.5	22.4	26.4	3.6	3.6
女性	330	43.3	32.1	39.1	17.9	24.2	8.8	3.9
《世代別》								
18～29歳	37	35.1	45.9	40.5	18.9	32.4	2.7	2.7
30～39歳	108	48.1	33.3	38.0	19.4	24.1	5.6	2.8
40～49歳	157	49.0	31.8	31.2	20.4	24.8	7.0	4.5
50～59歳	154	56.5	31.8	45.5	25.3	18.2	5.8	3.2
60～69歳	166	49.4	33.1	39.8	21.1	25.3	3.6	4.8
70歳以上	129	38.0	19.4	28.7	14.7	34.1	8.5	3.1
《世帯年収別》								
250万円未満	97	37.1	20.6	29.9	18.6	33.0	9.3	4.1
250～500万円未満	269	45.7	27.9	34.9	16.0	27.5	7.4	3.0
500～750万円未満	188	50.0	36.7	39.9	21.8	23.4	6.4	3.7
750～1000万円未満	111	59.5	39.6	45.0	29.7	21.6	0.9	1.8
1000万円以上	67	55.2	34.3	43.3	23.9	17.9	3.0	4.5

対象者全体と比較し 10%以上高い

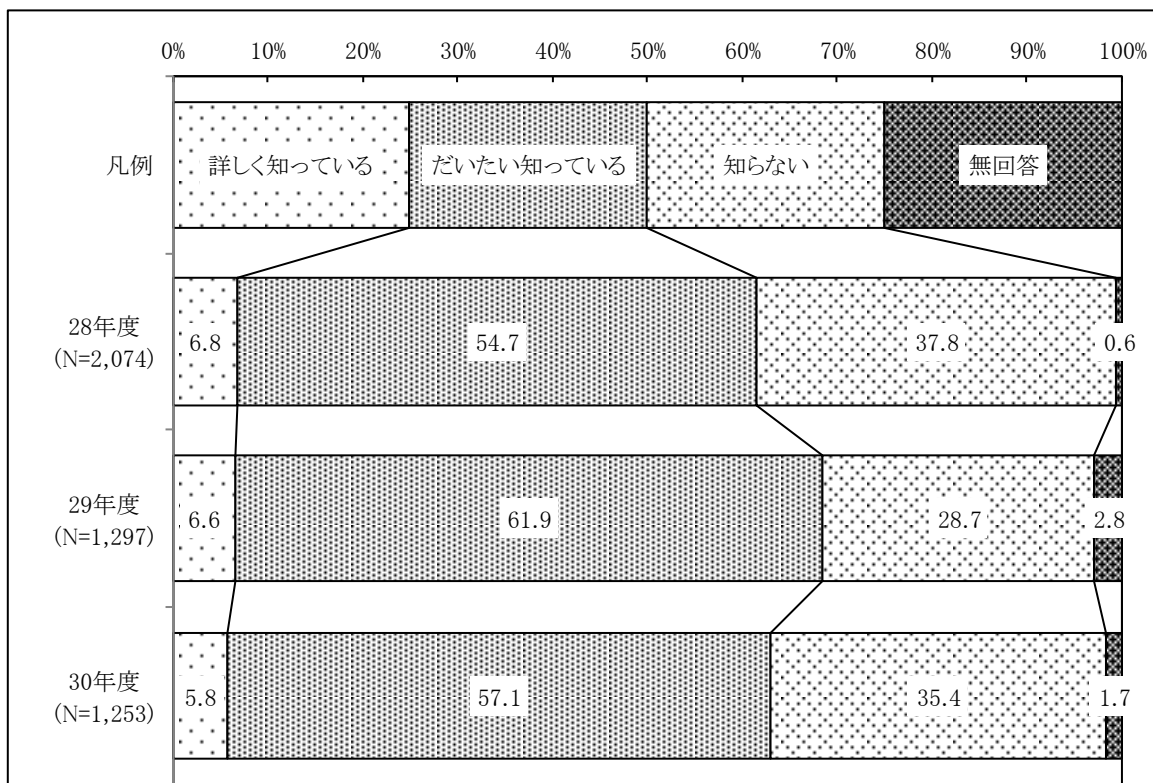
対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

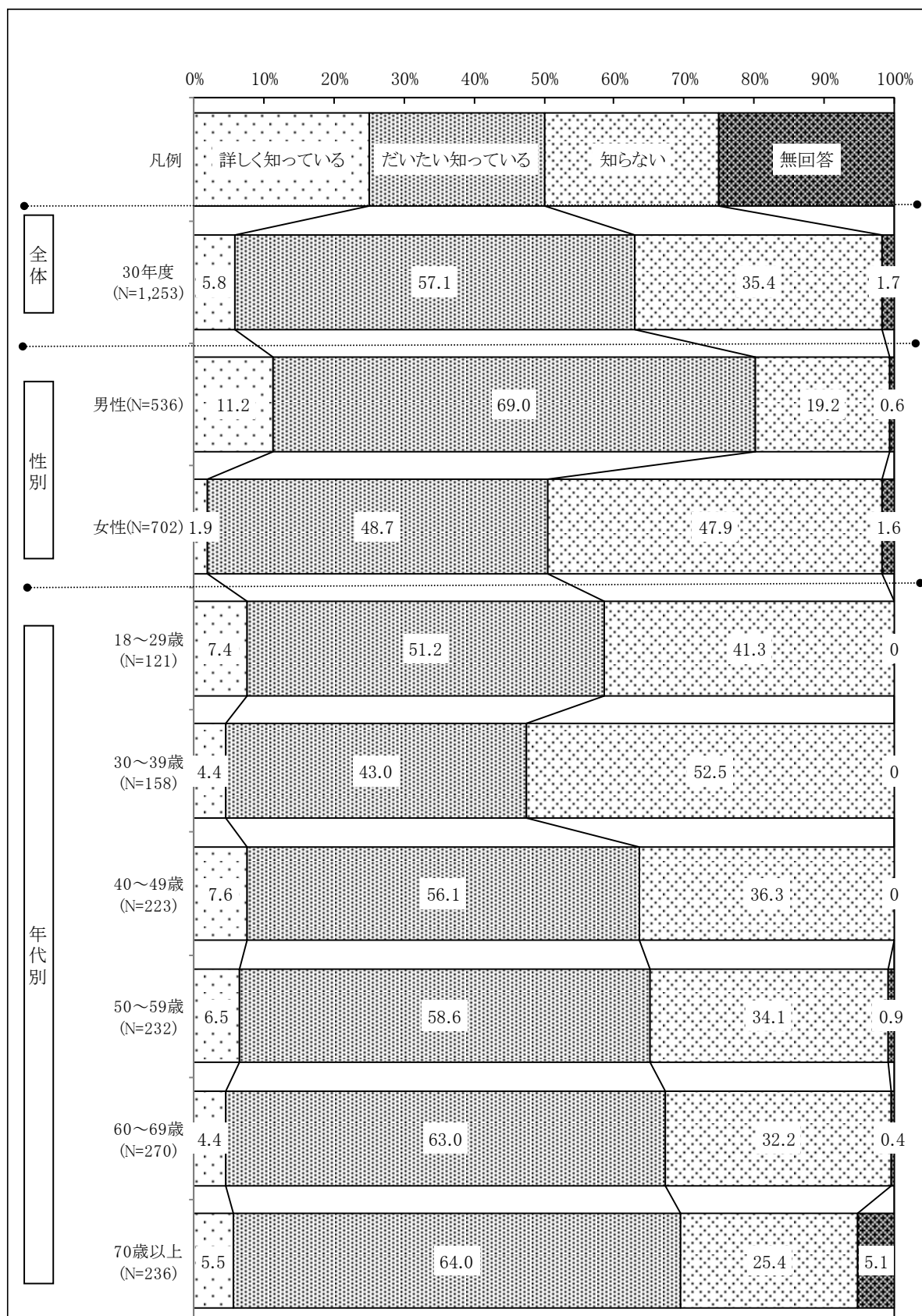
■燃料電池自動車(FCV)の認知度

【問 16】 水素と酸素の化学反応によって発電した電気でモーターを回して走る自動車のことを燃料電池自動車(FCV)といいます。燃料となる水素は、再生可能エネルギーから製造可能であることから、燃料電池自動車(FCV)は燃料製造から利用まで温室効果ガス(二酸化炭素など)を発生しない「究極のエコカー」として期待されています。あなたは燃料電池自動車(FCV)を知っていますか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

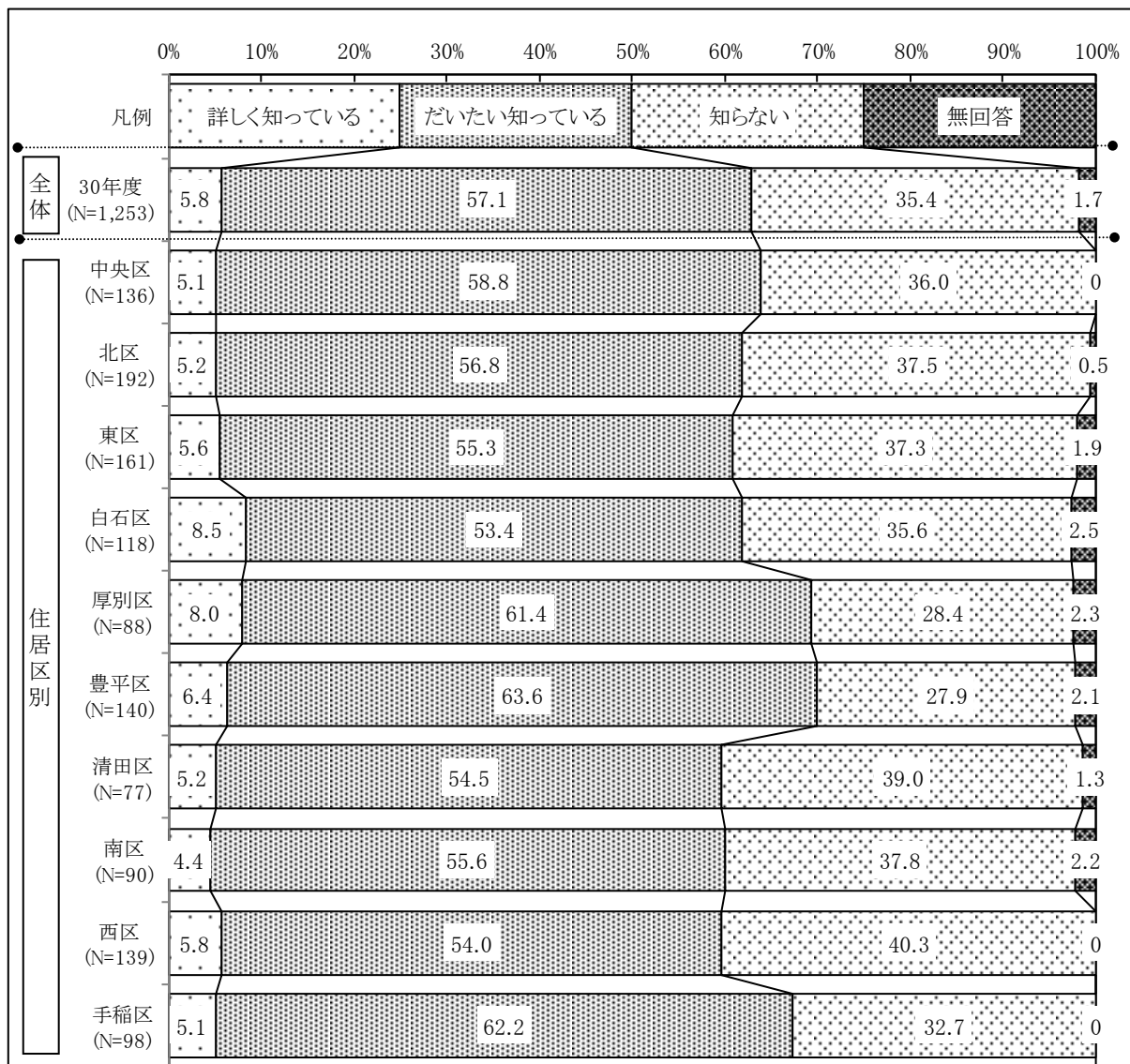
【全体】燃料電池自動車(FCV)を「知らない」人は35.4%。



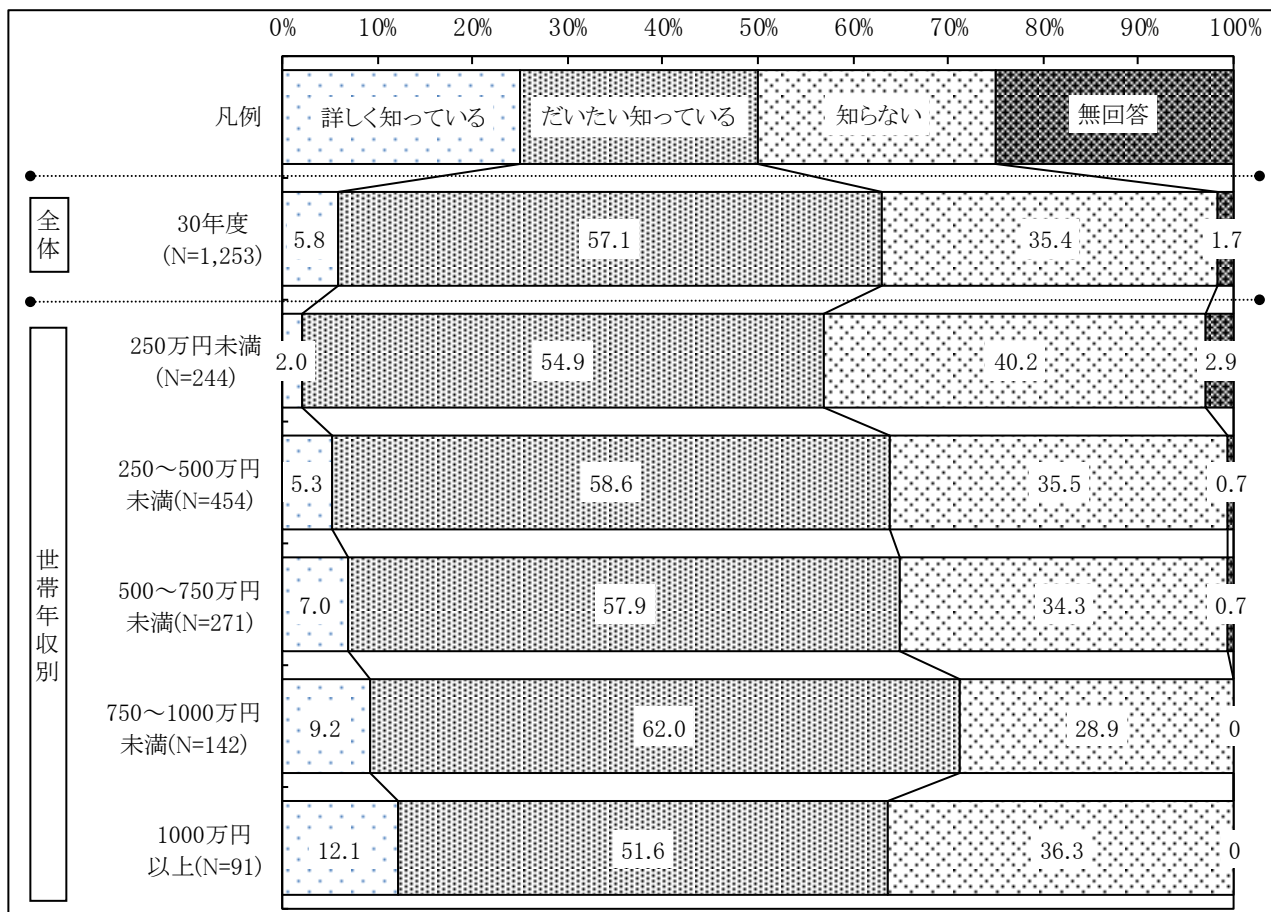
【性別】「知らない」は女性が47.9%であり、男性の19.2%より28.7%高くなっている。
 【年代別】「知らない」は30歳代(52.5%)が最も高く、次いで18~29歳(41.3%)、40歳代(36.3%)の順となっている。



【住居区別】「知らない」は西区(40.3%)が最も高く、次いで清田区(39.0%)、南区(37.8%)の順となっている。



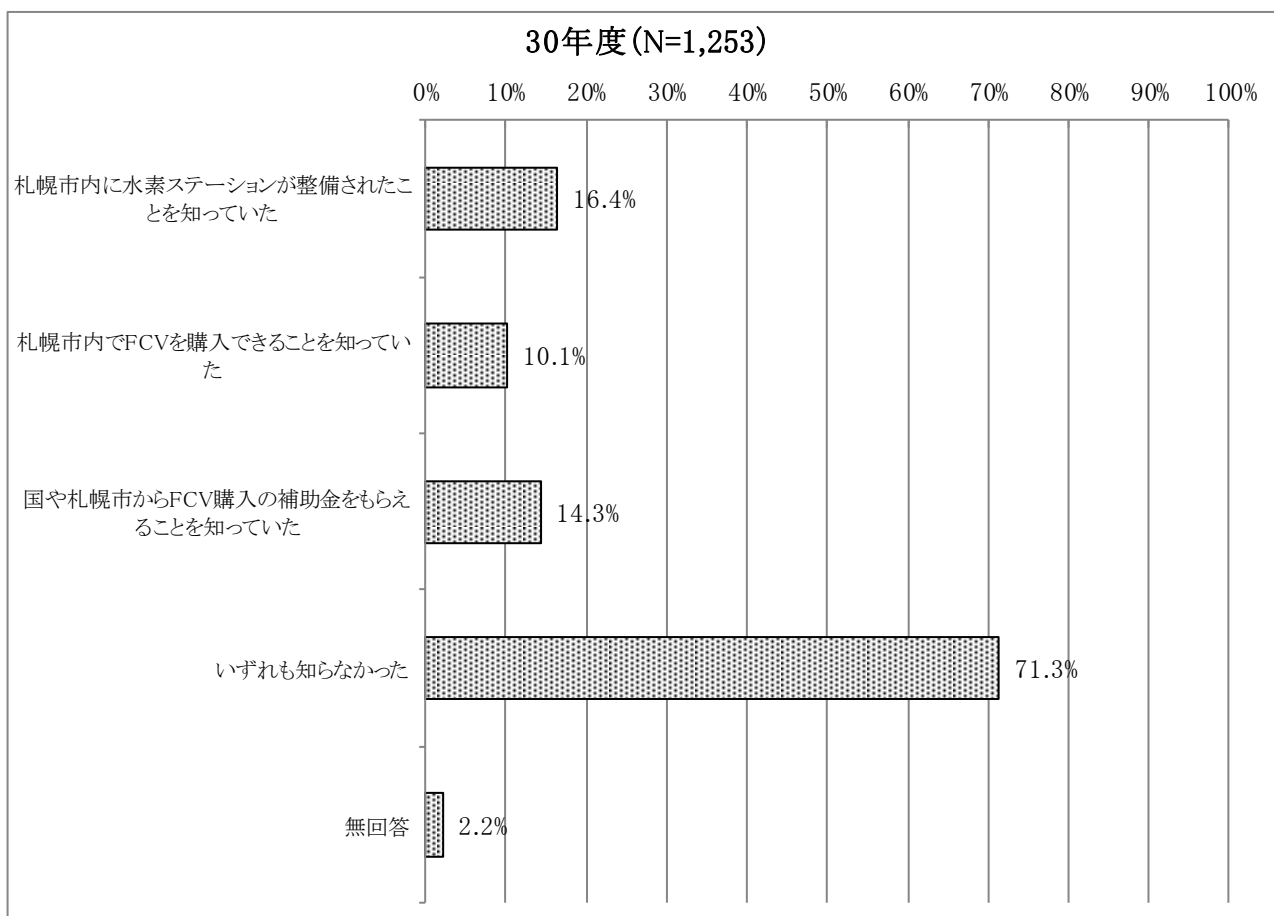
【世帯年収別】「詳しく知っている」は、世帯年収が上がるにつれて高くなる傾向にある。



■燃料電池自動車(FCV)の普及に関する認知度

【問 17】 燃料電池自動車(FCV)へ水素を充填するための設備を水素ステーションといいます。
 平成 30(2018)年 3 月、札幌市豊平区にて市内 1 か所目の水素ステーションの営業が開始されたことから、札幌市内において FCV を購入し、水素を充填できるようになりました。
 また、燃料電池自動車(FCV)の購入にあたっては、国や札幌市から補助金をもらうことができます。
 あなたは、これらのことについて知っていましたか。
 あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】「いずれも知らなかった」が 71.3%と最も高く、燃料電池自動車(FCV)の購入に関して現在の認知度は低い。



【性別】男性のほうが、FCV 購入にあたっての認知度はやや高い傾向にある。

【年代別】年代が上がるにつれ、FCV の購入にあたっての認知度はやや高くなる傾向にある。

【区別】清田区および豊平区では、FCV 購入にあたっての認知度はやや高い傾向にある。

【世帯年収別】世帯年収 250～1,000 万円では、FCV 購入にあたっての認知度に大きな差は見られないが、250 万未満および 1,000 万円以上の世帯ではやや認知度が低い傾向にある。

	サンプル数	札幌市に整備されたところを知っている	札幌市内でFCVを購入した	国や札幌市からFCVを購入する補助金を知った	いずれも知らなかった	無回答
全体	1,253	16.4	10.1	14.3	71.3	2.2
《性別》						
男性	536	21.5	16.2	23.9	62.7	1.5
女性	702	12.8	5.7	7.1	78.5	1.7
《世代別》						
18～29歳	121	11.6	9.1	10.7	76.9	0.8
30～39歳	158	12.7	3.8	5.7	79.1	1.3
40～49歳	223	15.2	7.2	11.2	76.2	0.4
50～59歳	232	16.8	10.8	14.2	72.4	0.4
60～69歳	270	17.8	11.5	20.0	69.3	1.1
70歳以上	236	21.2	16.1	18.6	61.0	5.9
《区別》						
中央区	136	14.7	10.3	14.7	73.5	2.9
北区	192	11.5	5.2	10.9	78.6	1.6
東区	161	14.3	9.3	11.2	73.9	3.7
白石区	118	16.9	11.0	16.9	72.0	1.7
厚別区	88	20.5	8.0	14.8	70.5	0.0
豊平区	140	23.6	19.3	18.6	62.1	1.4
清田区	77	24.7	22.1	22.1	57.1	2.6
南区	90	20.0	5.6	11.1	72.2	1.1
西区	139	15.8	9.4	11.5	71.9	0.7
手稲区	98	10.2	6.1	17.3	74.5	1.0
《世帯年収別》						
250万円未満	244	12.3	7.8	9.0	76.2	4.1
250～500万円未満	454	18.1	11.0	16.1	71.1	1.1
500～750万円未満	271	18.5	11.4	16.6	69.0	1.1
750～1000万円未満	142	16.9	10.6	19.7	66.9	0.7
1000万円以上	91	16.5	11.0	6.6	76.9	0.0

対象者全体と比較し 10%以上高い

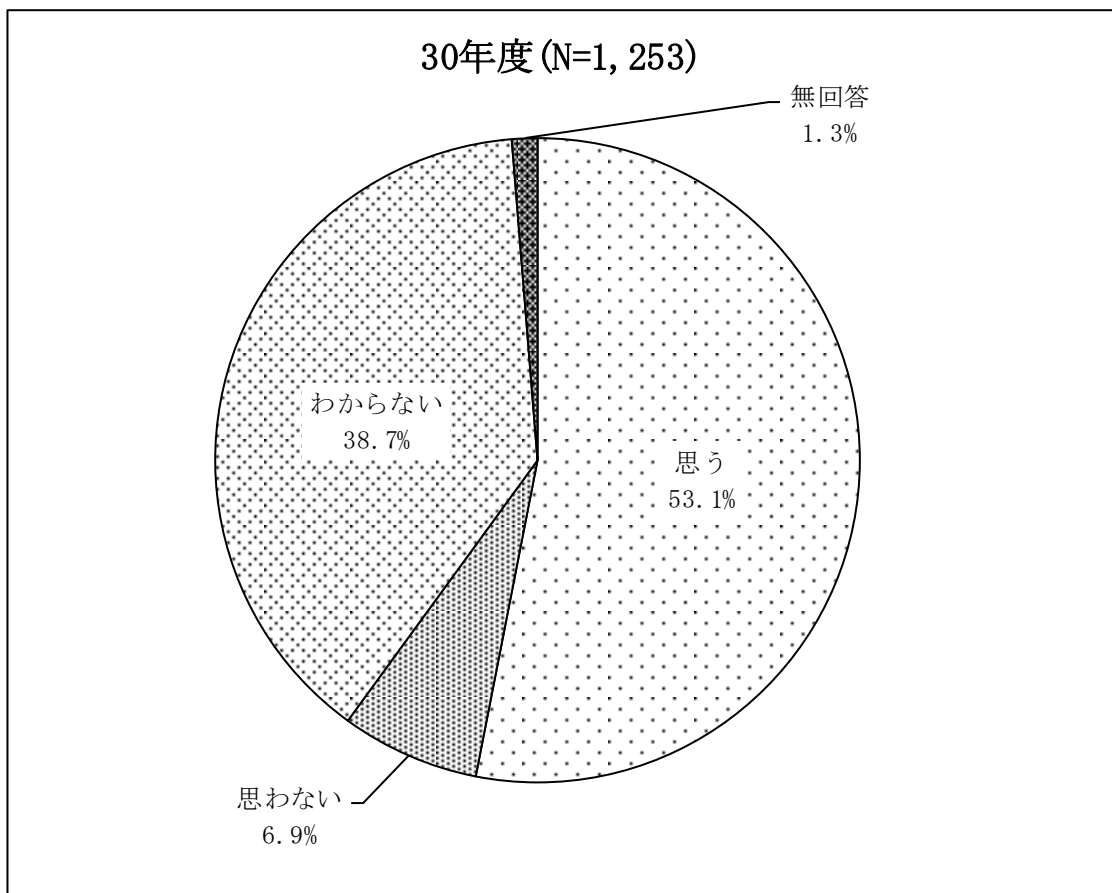
対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

■燃料電池自動車(FCV)を普及すべきか

【問 18】 燃料電池自動車 (FCV) の普及を進めるべきだと思う理由は何ですか。
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

【全体】「思う」が 53.1%と半数を占めており、多くの人が普及を進めるべきと思っている。
また、「わからない」も 38.7%あり、FCV について認知されていない部分もある。



【性別】「思う」は男性が60.5%であり、女性の48.8%より11.7%高くなっている。

【年代別】「思う」は18～29歳（60.3%）が最も高く、最も低い50歳代（48.1%）より12.2%高くなっている。

【区別】区ごとで大きな差は見られない。

【世帯年収別】世帯年収ごとで大きな差は見られない。

	サンプル数	思う	思わない	わからない	無回答
全体	1,253	53.1	6.9	38.7	1.3
《性別》					
男性	534	60.5	10.7	28.8	0.0
女性	694	48.8	4.3	46.8	0.0
《年代別》					
18～29歳	121	60.3	8.3	31.4	0.0
30～39歳	157	52.9	7.6	39.5	0.0
40～49歳	223	50.7	8.5	40.8	0.0
50～59歳	231	48.1	5.6	46.3	0.0
60～69歳	269	55.8	5.2	39.0	0.0
70歳以上	228	57.9	8.3	33.8	0.0
《区別》					
中央区	136	54.4	7.4	36.0	2.2
北区	192	57.3	4.2	38.0	0.5
東区	161	52.2	6.8	40.4	0.6
白石区	118	50.8	7.6	39.8	1.7
厚別区	88	50.0	8.0	40.9	1.1
豊平区	140	52.9	6.4	40.0	0.7
清田区	77	48.1	6.5	44.2	1.3
南区	90	48.9	10.0	40.0	1.1
西区	139	58.3	7.2	34.5	0.0
手稲区	98	54.1	9.2	36.7	0.0
《世帯年収別》					
250万円未満	244	54.1	4.9	38.5	2.5
250～500万円未満	454	54.4	6.8	38.3	0.4
500～750万円未満	271	55.0	8.1	36.2	0.7
750～1000万円未満	142	50.7	8.5	40.8	0.0
1000万円以上	91	52.7	8.8	38.5	0.0

対象者全体と比較し10%以上高い
対象者全体と比較し10%以上低い

単位 %（サンプル数を除く）

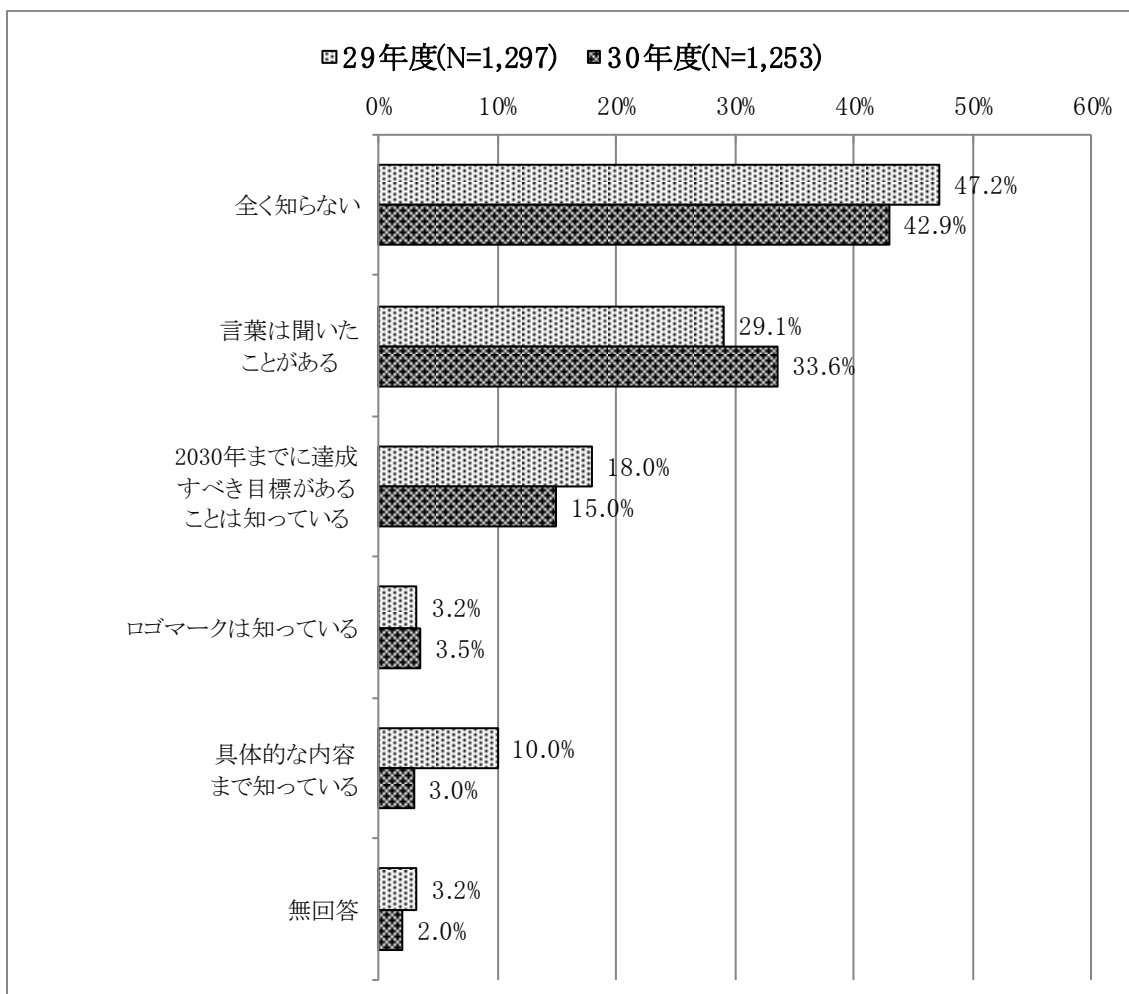
■「SDGs」の認知度

【問 19】 地球温暖化をはじめとした環境問題や様々な社会問題を解決するため、2015 年 9 月、国連において「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals: SDGs)」が採用され、2030 年までに世界全体で下の 17 のゴール(目標)の達成に向けて取り組むこととなりました。

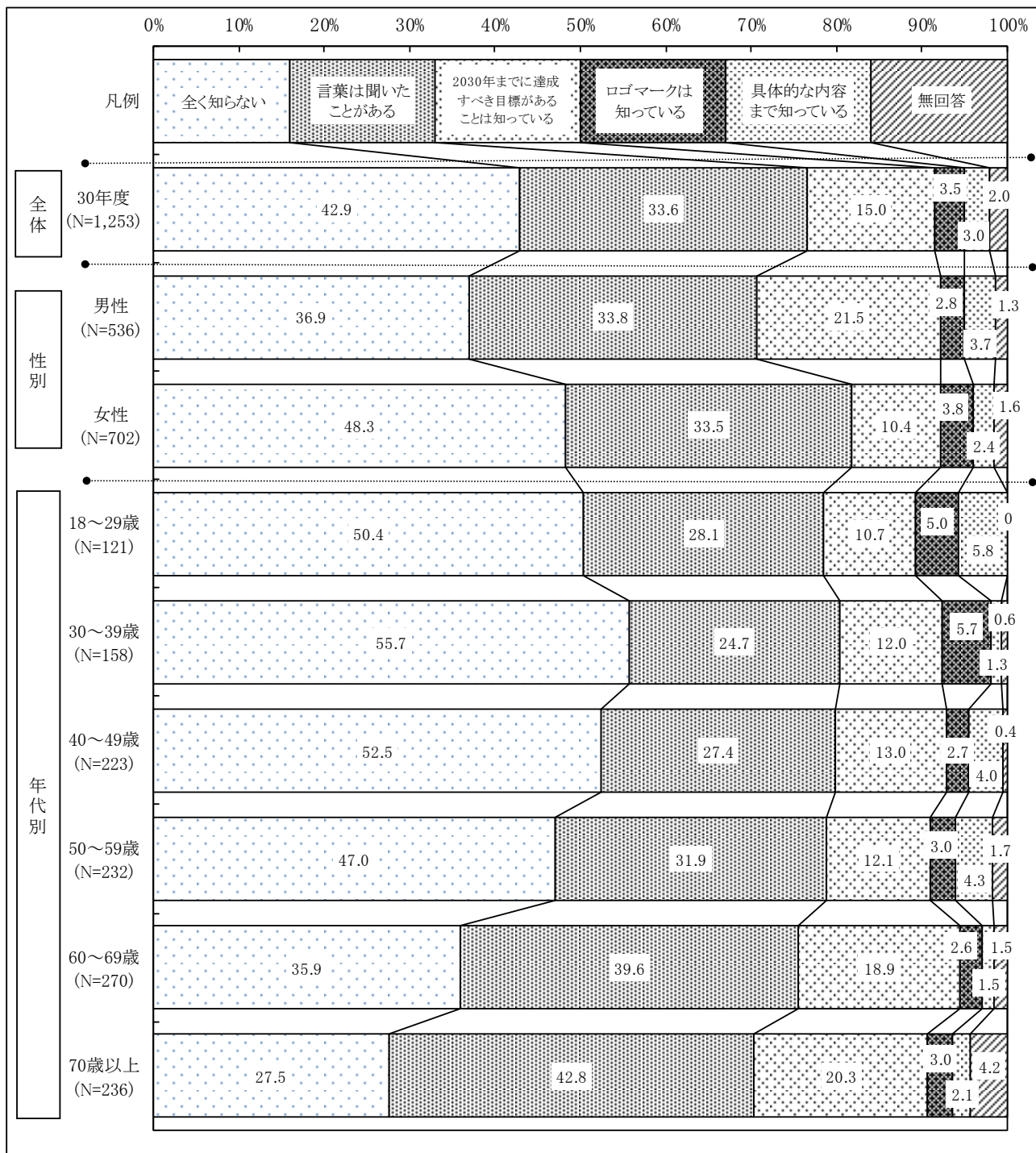
あなたはこの目標について知っていましたか。あてはまるものに1つだけ○をつけてください。



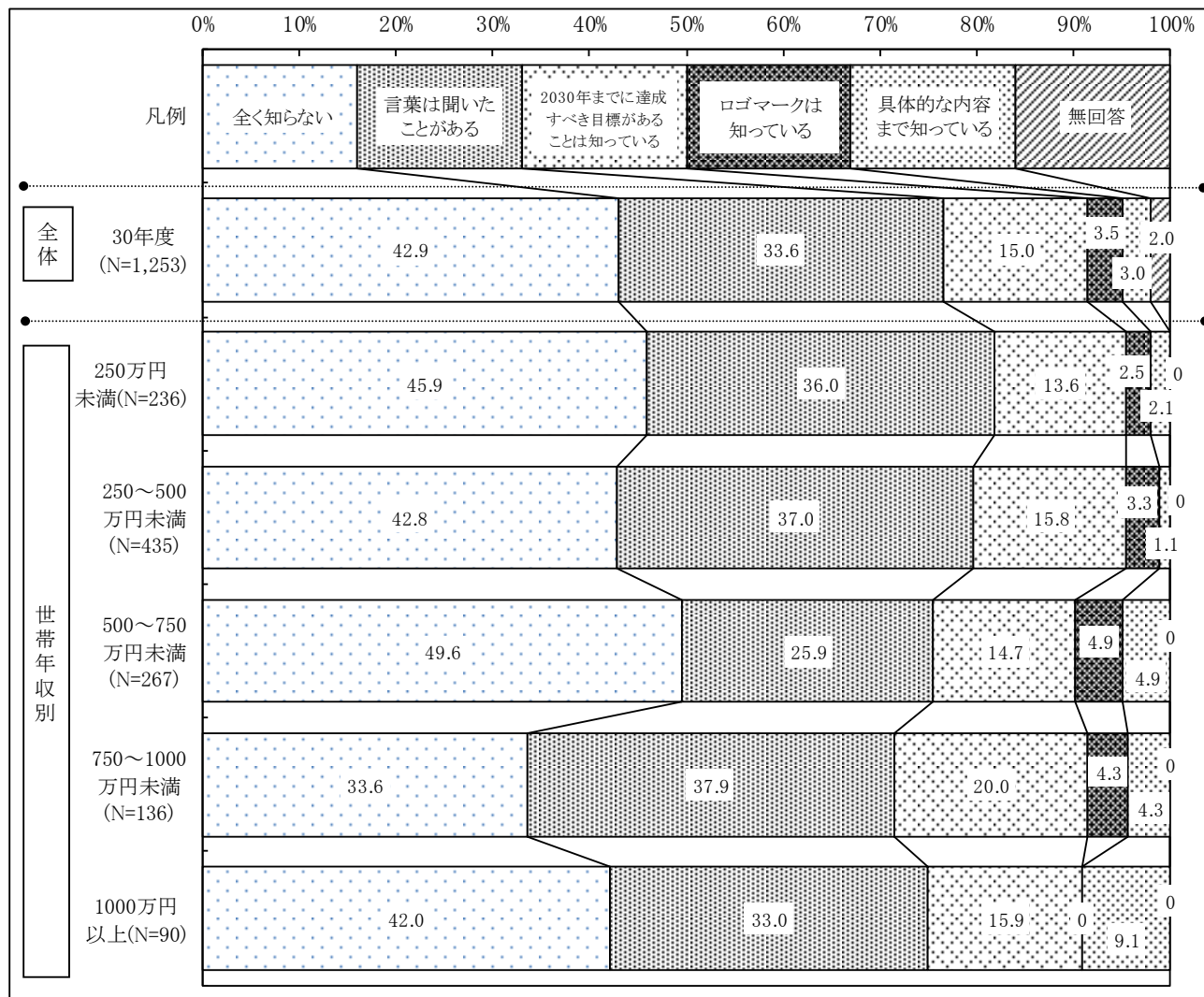
【全体】 持続可能な開発目標 (SDGs) について「全く知らない」が 42.9%と最も高く、次いで「言葉は聞いたことがある」が 33.6%、「2030年までに達成すべき目標があることは知っている」が 15.0%の順となっている。



【性別】「全く知らない」は女性が48.3%であり、男性の36.9%より11.4%高くなっている。
 【年代別】「全く知らない」は、年代が下がるにつれて割合が高くなる傾向にある。



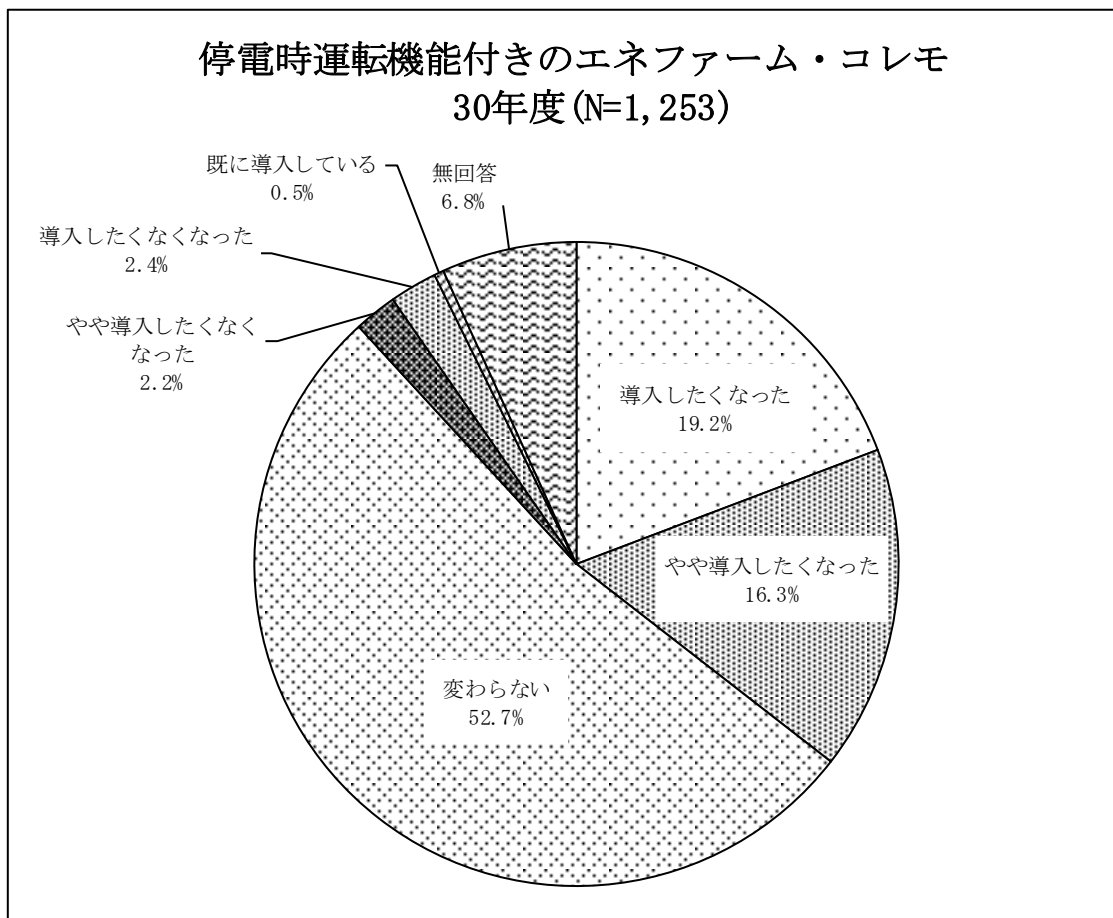
【世帯年収別】「全く知らない」は500～750万円未満が49.6%と最も高く、次いで250万円未満が45.9%、250～500万円未満が42.8%である。



■北海道胆振東部地震を受けての省エネ・再エネ機器導入の意識

【問 20】 平成 30 年 9 月 6 日発生した北海道胆振東部地震では、札幌市内でも電力供給が一時ストップするなど、日常生活に大きな影響が出ました。あなたは、この震災を受けて、災害時に有効なほか、地球温暖化対策としても有効な機器の導入に関する意識はどのように変化しましたか。下表のアからエまでの機器についてあてはまるものに1つだけ○をつけてください。

【停電時運転機能付きのエネファーム・コレモ（全体）】「変わらない」が 52.7%と最も高く、次いで「導入しなくなった」が 19.2%、「やや導入しなくなった」が 16.3%の順となっている。



【性別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、女性が38.6%であり、男性の32.5%より6.1%高くなっている。

【年代別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、18～29歳が55.4%と最も高く、若い年代がやや高い傾向にある。

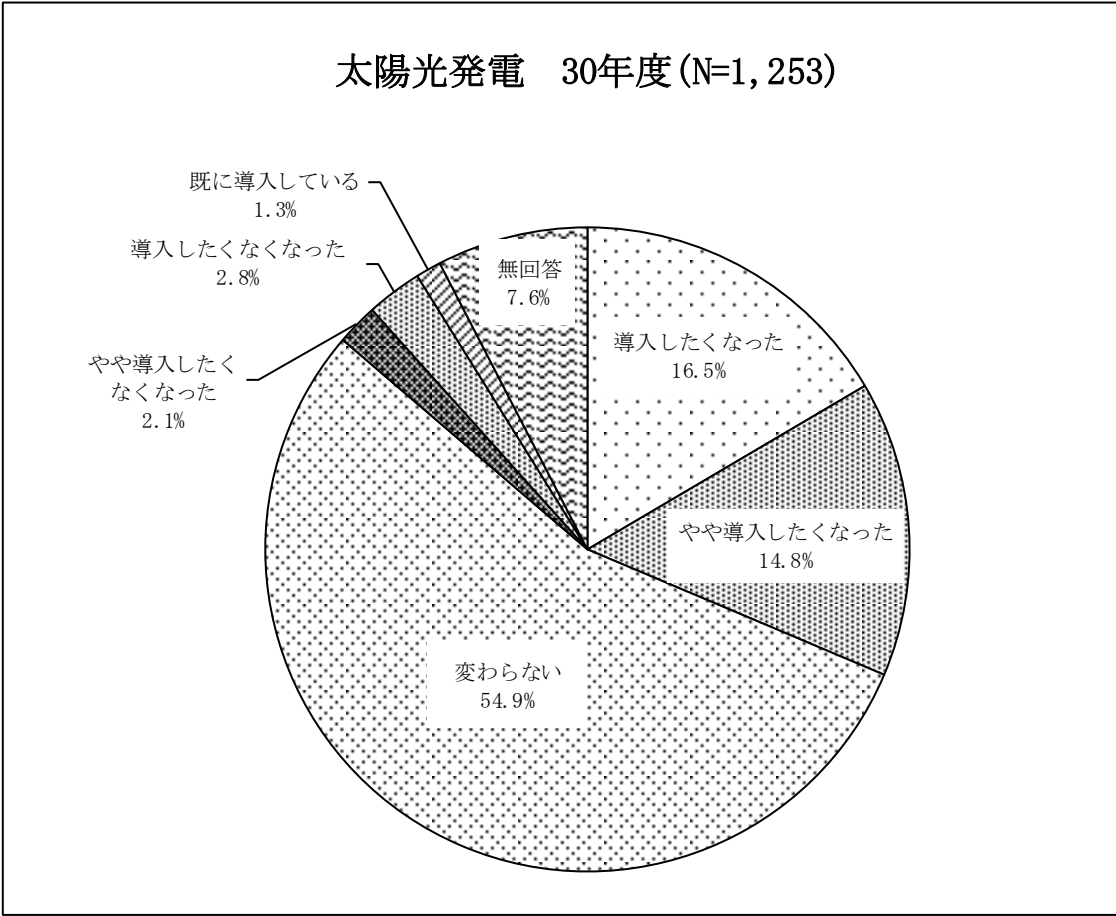
【世帯年収別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、1,000万円以上の世帯が45.1%と最も高く、世帯年収が高い世帯がやや高い傾向にある。

	サンプル数	導入しなくなった	やや導入しなくなった	変わらない	やや導入しなくなった	導入しなくなった	既に導入している	無回答
全体	1,253	19.2	16.3	52.7	2.2	2.4	0.5	6.8
《性別》								
男性	536	17.9	14.6	57.5	2.2	2.4	0.4	5.0
女性	702	20.7	17.9	49.7	2.1	2.4	0.6	6.6
《年代別》								
18～29歳	121	33.1	22.3	38.8	2.5	2.5	0.0	0.8
30～39歳	158	19.0	25.9	48.1	1.9	2.5	1.9	0.6
40～49歳	223	16.1	19.7	56.5	3.6	1.3	0.0	2.7
50～59歳	232	13.8	18.1	60.8	0.9	2.2	0.9	3.4
60～69歳	270	21.1	11.9	53.3	2.2	3.3	0.4	7.8
70歳以上	236	19.5	7.6	52.5	2.1	2.5	0.0	15.7
《世帯年収別》								
250万円未満	244	19.7	11.5	55.3	2.9	2.5	0.0	8.2
250～500万円未満	454	20.5	13.4	55.3	1.8	3.1	0.0	5.9
500～750万円未満	271	17.7	20.3	52.8	2.6	1.1	0.4	5.2
750～1000万円未満	142	17.6	21.8	52.8	0.0	2.8	2.8	2.1
1000万円以上	91	20.9	24.2	46.2	4.4	2.2	1.1	1.1

対象者全体と比較し10%以上高い
対象者全体と比較し10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

【太陽光発電（全体）】「変わらない」が54.9%と最も高く、次いで「導入しなくなった」が16.5%、「やや導入しなくなった」が14.8%の順となっている。



【性別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、女性が33.6%であり、男性の29.3%より4.3ポイント高くなっている。

【年代別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、30歳台が47.5%と最も高く、若い年代がやや高い傾向にある。

【世帯年収別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、750～1000万円の世帯が37.3%と最も高く、次いで1000万円以上の世帯が35.2%と世帯年収が高い世帯がやや高い傾向にある。

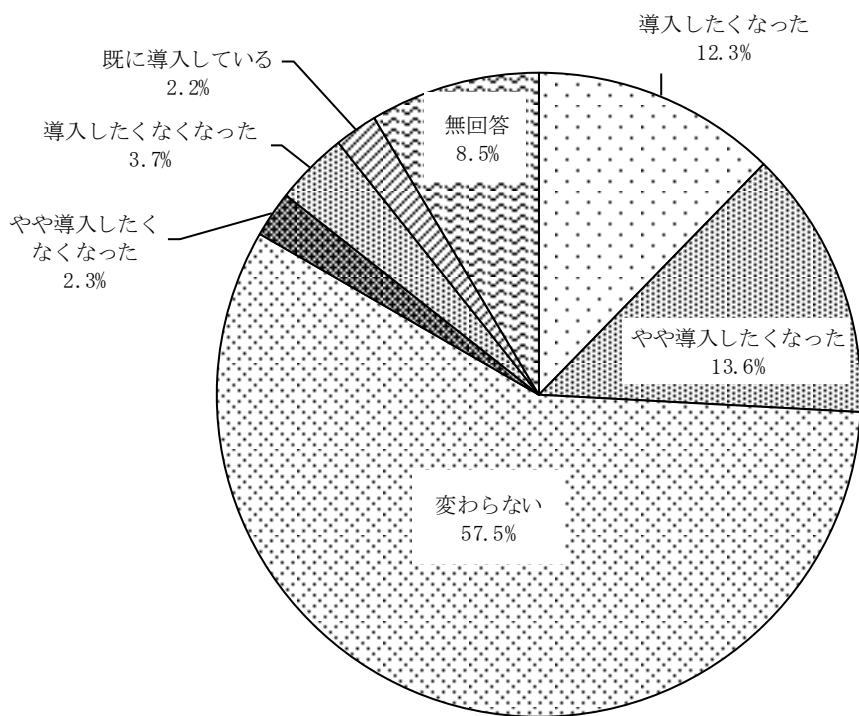
	サンプル数	導入しなくなった	やや導入しなくなった	変わらない	やや導入しなくなった	導入しなくなった	既に導入している	無回答
全体	1,253	16.5	14.8	54.9	2.1	2.8	1.3	7.6
《性別》								
男性	536	15.9	13.4	58.4	2.1	3.0	1.1	6.2
女性	702	17.4	16.2	53.0	2.1	2.7	1.4	7.1
《年代別》								
18～29歳	121	24.0	22.3	45.5	3.3	3.3	0.8	0.8
30～39歳	158	22.2	25.3	44.9	1.9	3.2	1.9	0.6
40～49歳	223	17.9	17.9	52.0	2.7	3.1	2.2	4.0
50～59歳	232	10.3	15.9	65.9	0.9	2.2	0.9	3.9
60～69歳	270	17.8	9.3	60.0	2.6	2.2	0.4	7.8
70歳以上	236	13.1	7.2	54.7	1.7	3.4	1.7	18.2
《世帯年収別》								
250万円未満	244	18.9	8.2	61.1	1.2	1.2	0.4	9.0
250～500万円未満	454	16.7	16.7	53.3	2.4	2.9	0.7	7.3
500～750万円未満	271	14.8	14.8	55.7	1.5	4.1	3.0	6.3
750～1000万円未満	142	16.2	21.1	55.6	1.4	3.5	0.7	1.4
1000万円以上	91	14.3	20.9	53.8	4.4	2.2	3.3	1.1

対象者全体と比較し10%以上高い
対象者全体と比較し10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

【電気自動車・燃料電池自動車（全体）】「変わらない」が57.5%と最も高く、次いで「やや導入しなくなった」が13.6%、「導入しなくなった」が12.3%の順となっている。

電気自動車・燃料電池自動車 30年度(N=1,253)



【性別】男女で大きな差は見られない。

【年代別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、18～29歳が39.7%と最も高く、若い年代がやや高い傾向にある。

【世帯年収別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、750～1000万円の世帯が32.5%と最も高く、250万円以上の世帯では30%前後である。

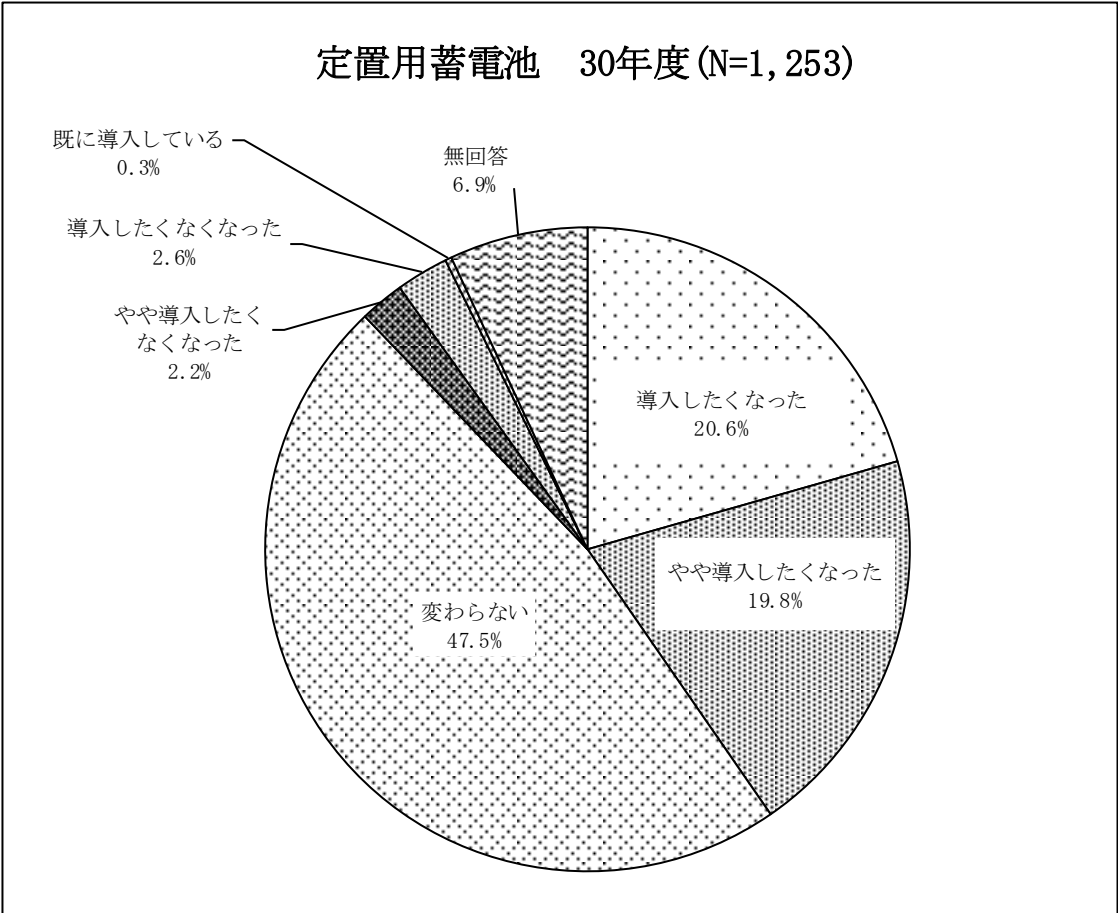
	サンプル数	導入しなくなった	やや導入しなくなった	変わらない	やや導入しなくなった	導入しなくなった	既に導入している	無回答
全体	1,253	12.3	13.6	57.5	2.3	3.7	2.2	8.5
《性別》								
男性	536	14.0	12.9	57.8	2.4	3.4	2.4	7.1
女性	702	11.3	14.4	58.0	2.3	4.0	2.0	8.1
《年代別》								
18～29歳	121	19.0	20.7	52.9	1.7	5.0	0.0	0.8
30～39歳	158	13.3	15.2	62.7	3.2	3.2	1.9	0.6
40～49歳	223	10.8	16.6	59.2	2.7	4.0	3.1	3.6
50～59歳	232	10.8	14.7	59.1	3.4	3.9	3.0	5.2
60～69歳	270	14.4	11.1	56.3	1.9	4.1	2.2	10.0
70歳以上	236	9.3	8.5	56.8	1.3	2.5	1.7	19.9
《世帯年収別》								
250万円未満	244	10.2	6.1	61.1	3.7	4.5	1.2	13.1
250～500万円未満	454	13.2	15.0	58.4	1.3	2.9	2.0	7.3
500～750万円未満	271	13.7	14.4	56.8	2.6	4.1	2.2	6.3
750～1000万円未満	142	11.3	21.1	58.5	2.1	2.1	3.5	1.4
1000万円以上	91	12.1	15.4	57.1	3.3	5.5	4.4	2.2

対象者全体と比較し 10%以上高い

対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)

【定置用蓄電池（全体）】「変わらない」が47.5%と最も高く、次いで「導入しなくなった」が20.6%、「やや導入しなくなった」が19.8%の順となっている。



【性別】男女で大きな差は見られない。
 【年代別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、18～29歳が59.5%と最も高く、若い年代がやや高い傾向にある。
 【世帯年収別】「導入しなくなった」及び「やや導入しなくなった」を足した割合は、750～1000万円の世帯が45.7%と最も高く、250万円以上の世帯では40%前後である。

	サンプル数	導入しなくなった	やや導入しなくなった	変わらない	やや導入しなくなった	導入しなくなった	既に導入している	無回答
全体	1,253	20.6	19.8	47.5	2.2	2.6	0.3	6.9
《性別》								
男性	536	19.8	17.9	51.1	2.2	3.2	0.2	5.6
女性	702	21.7	21.7	45.3	2.3	2.3	0.4	6.4
《年代別》								
18～29歳	121	31.4	28.1	33.9	4.1	0.8	0.8	0.8
30～39歳	158	25.9	31.0	37.3	1.9	1.9	1.3	0.6
40～49歳	223	24.7	26.9	39.5	3.6	2.2	0.0	3.1
50～59歳	232	16.4	19.0	55.6	1.7	2.6	0.0	4.7
60～69歳	270	18.9	13.0	56.3	1.5	3.3	0.0	7.0
70歳以上	236	14.8	11.0	52.5	1.7	3.8	0.4	15.7
《世帯年収別》								
250万円未満	244	20.9	13.9	52.0	1.6	2.5	0.4	8.6
250～500万円未満	454	20.7	20.9	47.6	2.4	2.2	0.2	5.9
500～750万円未満	271	18.5	23.2	46.5	3.0	3.0	0.4	5.5
750～1000万円未満	142	21.1	24.6	47.9	1.4	2.8	0.7	1.4
1000万円以上	91	22.0	22.0	47.3	2.2	4.4	0.0	2.2

対象者全体と比較し 10%以上高い
 対象者全体と比較し 10%以上低い

単位 % (サンプル数を除く)